

# JESCO Report 2026

— 環境・社会・ガバナンス  
に関する事業活動年次報告 —



# 当社は、国の環境政策を 現場で実現する会社です。

## ■ 当社のプロフィール（制度的な位置づけ）

- 国100%出資【所管：環境省】
- 根拠法に基づく特殊会社【法律名：中間貯蔵・環境安全事業株式会社】
- 国の環境政策を推進します

## ■ 主な事業の成果と目標 ※事業の上の年は、各事業が法令により位置づけられた年を示しています

### 2001年～2026年 PCB廃棄物処理事業



#### これまでの成果 ACCOMPLISHED

各地で保管を余儀なくされていた PCB 廃棄物について、当社は 2004 年から処理を開始し、約 20 年をかけ 2026 年 3 月までに、処理対象として登録された高濃度 PCB 廃棄物をすべて無害化しました。

#### 今後の目標 TARGET

処理完遂を受け、今後は施設の解体撤去を、環境保全の徹底と安全衛生の確保を第一に、情報の共有・公開をしながら進めていきます。

### 2014年～ 中間貯蔵事業



#### これまでの成果 ACCOMPLISHED

中間貯蔵施設へ搬入される大量の**除去土壌等の輸送管理**を行うほか、土壌貯蔵施設等の**中間貯蔵施設の管理**や情報発信を通じて、**福島県内各地の生活環境の改善や復興の加速に貢献**してきました。

#### 今後の目標 TARGET

**復興再生利用**を進めるほか、**情報発信**を強化すること等により、2045 年 3 月までの**福島県外最終処分の実現に貢献**していきます。

### 2026年～ 災害廃棄物処理支援事業



#### これまでの成果 ACCOMPLISHED

近年の大規模災害に際し、災害廃棄物処理に係る**環境省の自治体支援の一部業務を支援**してきました。

#### 今後の目標 TARGET

大規模災害発生時の自治体の災害廃棄物処理が円滑に行われるよう、当社は**専門的な支援を担う機関**として、平時及び発災時の各種支援を行います。

## 目次

|                     |     |
|---------------------|-----|
| ■ 当社プロフィール・事業の成果と目標 | 表紙裏 |
| ■ 目次・編集方針           | 01  |
| ■ トップメッセージ          | 02  |
| ■ 2025年度トピックス       | 04  |
| ■ PCB廃棄物処理事業        | 06  |
| ■ 中間貯蔵事業            | 20  |
| ■ 環境保全              | 28  |
| ■ 地域とのコミュニケーション     | 34  |
| ■ 情報公開              | 36  |
| ■ 従業員にかかる活動         | 40  |
| ■ 社会貢献活動・表彰         | 42  |
| ■ 外部からの意見・評価        | 44  |
| ■ コーポレート・ガバナンス等     | 46  |
| ■ 基本理念等             | 48  |
| ■ ステークホルダーエンゲージメント  | 49  |
| ■ 2025年度実績データ集      | 50  |
| ■ PCB廃棄物処理事業サイトデータ  | 52  |
| ■ 環境パフォーマンス指標算定基準等  | 54  |
| ■ 第三者保証報告書          | 55  |
| ■ 会社概要              | 56  |

目次及び報告書本文の見出し等を、以下の分類で色分けしています

■ 全社報告 ■ PCB廃棄物処理事業 ■ 中間貯蔵事業  
■ 環境E ■ 社会S ■ ガバナンスG

### 【表紙の写真】

上から、中間貯蔵事業情報センター、中間貯蔵施設、中間貯蔵施設での区域管理のドローン撮影の様子、大阪PCB処理事業所のVTR装置、東京PCB処理事業所への最終搬入車両、東京PCB処理事業所の最終搬入記念写真、北海道PCB処理事業所の施設外観

## 編集方針

● 本報告書「JESCO Report 2026」は、「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づく環境報告書を兼ねるものであり、同法に基づく「環境報告書の記載事項等」、「環境報告ガイドライン（2018年版）」を参考に作成しています。環境保全に加え、安全管理体制、社会及びガバナンスに関する取組についても記載しています。

● 北九州PCB処理事業所、豊田PCB処理事業所、東京PCB処理事業所、大阪PCB処理事業所及び北海道PCB処理事業所の2025年度における環境パフォーマンスデータ（PCB廃棄物処理実績、有価物・産業廃棄物払出量、二酸化炭素排出量等）の集計実績を基本とし、オフィス部門である本社、PCB廃棄物処理事業及び中間貯蔵事業に係る各情報センター等、中間貯蔵施設区域（20ページの配置図のオレンジ枠内）における当社管理施設を含んでいる場合には、その旨を明記しました。

## 報告対象期間

● 2025年度（2025年4月～2026年3月）を原則とし、環境パフォーマンスデータは、各PCB処理事業所の操業開始後からのデータを用いています。試運転中の処理実績データは一部のみ使用しており、その場合は注記しています。

## 第三者保証審査

● 本報告書の開示情報の信頼性を高めるため、日本検査キューエイ株式会社による第三者審査を実施し、その結果も掲載しました（55ページ参照）。

☑ このマーク付与箇所は、日本検査キューエイ株式会社による「独立した第三者保証報告書」対象の情報です。

## 用語について

● 2016年7月の「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画」の変更により、一部のPCB廃棄物の名称が変更されましたが、本報告書では旧名称を使用し、区分、廃棄物名称は当社の処理料金表等<sup>\*1</sup>に準じています。「トランス類」、「コンデンサ類」及び「安定器等・汚染物」は、それぞれ同計画の「変圧器」、「コンデンサー」及び「安定器及び汚染物等」<sup>\*2</sup>に相当します。

※1 処理料金表につきましては、当社のホームページに掲載しています。

※2 3kg以上10kg未満の小型電気機器は、2016年7月の基本計画の「安定器及び汚染物等」に含まれていましたが、2019年12月の改正により「変圧器」、「コンデンサー」に含まれるようになり、当社料金表分類の「トランス類」「コンデンサ類」と一致するようになりました。

URL : [https://www.jesconet.co.jp/customer/discount\\_01.html](https://www.jesconet.co.jp/customer/discount_01.html)

発行年月：2026年9月

次回発行予定：2027年9月

2015年9月に国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、その中核に国際社会共通の目標としてエネルギーや気候変動、パートナーシップ等17のゴールを含む持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）が定められました。

当社は、事業遂行を通じて、SDGsに貢献していきます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 環境と安全を礎に 次の使命へ

2026年9月  
代表取締役社長  
鎌形 浩史

### 会社の設立と背景

当社は、PCB廃棄物の処理を行うために、2004年4月に特別の法律<sup>\*</sup>に基づき設置された100%国出資の会社です。PCB（ポリ塩化ビフェニル）は、1968年に発生したカネミ油症事件の原因となった有害物質で、事件を契機に1972年に製造中止となったものの、取扱いの難しさなどから処理が進まず、以後約30年間各地で保管を余儀なくされ社会問題化していました。そこで国の関与の下で無害化処理を進めることとなり、国の監督下でこれを実施する機関として当社が設立されました。

※「日本環境安全事業株式会社法」、2014年12月からは「中間貯蔵・環境安全事業株式会社法」。以下「JESCO法」という。

### PCB廃棄物処理事業の完遂

当社は、全国に5箇所のPCB処理事業所を順次立ち上げ、国のPCB廃棄物処理基本計画に基づき、処理期限内に一日も早く処理完了を実現すべく事業を進めてきました。事業実施に当たっては、PCBが有害物質であることを十分踏まえ、「安全・確実」を大前提に、PCB処理事業所立地地域の自治体及び地元の皆様のご理解をいただくことを大切にしてきました。

その結果、2026年3月をもって約20年にわたる高濃度

PCB廃棄物の処理を終了し、国内の高濃度PCB廃棄物の一掃という環境政策の目標の達成に大きく貢献することができました。

### 中間貯蔵事業の実施

2014年12月には、改正JESCO法が施行され、当社は2011年の東日本大震災で生じた東京電力福島第一原子力発電所事故に由来する放射性物質に汚染された土壌などを保管するための「中間貯蔵」に関する事業を担うこととなりました。国が実施する中間貯蔵施設の整備に係る工事や除去土壌等の輸送を中心とした事業について、国からの委託を受けて、工事の発注支援や監督支援のほか、中間貯蔵施設の運営管理、除去土壌等の輸送統括管理、モニタリング、技術調査、理解醸成等の業務を実施してきました。この中間貯蔵事業に関しても、PCB廃棄物処理事業と同様、「安全・確実」を大前提に関係地域の皆様のご理解をいただきながら進めることを至上命題としてきました。

### PCB廃棄物処理施設の解体撤去と今後の展開

PCB廃棄物処理の終了に伴い、当社のPCB廃棄物処理事業は、2026年度から処理施設の解体・撤去という最終フェーズ

に移行しました。当社のPCB廃棄物処理施設は、世界でも類を見ない化学プラントにより高濃度PCB廃棄物の処理を行ってきたものであり、その解体撤去は前例の無い非通常の作業であることから、操業時とは異なる安全対策と細心の注意を払うことが求められます。「環境の保全の徹底」、「工事における万全な安全衛生の確保」、「ステークホルダー等の理解と信頼の確保のための情報共有・公開」を方針に掲げ、安全・確実を大前提に施設の解体撤去を進めてまいります。

さらに、今後散発的に発覚する高濃度PCB廃棄物について、新たな処理体制の構築が環境省により進められており、そのための検討や処理体制が整うまでの安全な保管継続の徹底に関してPCB廃棄物処理事業の豊富な経験を有する当社の支援が期待されています。これらに対して当社は社会貢献としての取組を継続してまいります。

## 中間貯蔵事業の現状と新たな段階

中間貯蔵事業は、これまでの知見と経験を活かして中間貯蔵施設区域内の維持管理業務や輸送管理等の各種業務について安全を確保しつつ高い業務品質で効率的に遂行します。今後は、これらと並行して、JESCO法に定められた中間貯蔵開始後30年以内の福島県外最終処分に向けての取組に役割を発揮していくことが求められます。2025年8月には、国から「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップ」が公表されました。当社としてはこれを踏まえ、ロードマップに示された3本柱である、「復興再生利用の推進」「県外最終処分に向けた検討」「理解醸成・リスクコミュニケーション」に対してこれまでの事業を通じて蓄積してきた知見と経験を総動員して積極的に取り組みます。このような状況の中、引き続き業務実施手法の合理化・効率化を図るとともに、体制の強化など適切かつ柔軟に業務体制の見直しを進め、国の事業方針及び事業内容に対応するための業務を実施し、福島の復興を支えられるよう国、自治体及び地域の皆様と共に歩んでまいります。

## 災害廃棄物対策への新たな取組

近年、自然災害が激甚化・頻発化する中で、災害廃棄物の迅速かつ適切な処理は、被災地の早期復旧・復興に不可欠な課題となっています。

当社は「令和2年7月豪雨災害(2020年)」において環境省本省にて災害廃棄物対応の支援を実施したことを機に、社会貢献事業災害廃棄物対策プロジェクトチームを発足させて以降、毎年発生する自然災害に対して、災害廃棄物処理支援に取り組みました。1年以上にわたり現地対応を継続した能登半島地震

をはじめ、2025年度末までに計8件の災害に対して現地での支援や関係機関との連携を通じて経験と実績を積み重ねてきました。

これらの取組を評価頂き、2026年9月に改正JESCO法が施行され当社は新たに、専門支援機関として災害廃棄物処理支援事業を実施することが位置づけられました。平時の備えに着実に取り組むとともに災害発生時には、これまでの経験と実績を活かし、全社を挙げて災害廃棄物対策に取り組んでまいります。

## 持続可能性とSDGsへの取組

社会に貢献する環境企業である当社は、JESCO法に定められた事業を着実に進めるとともに、持続可能な社会の実現に貢献することが求められています。今後も環境を軸に社会に貢献していく基本方針を堅持し、SDGsの達成も意識しながら事業を推進してまいります。気候変動の影響が顕在化する中、地球環境保全に関する取組として、環境に配慮した調達方針(グリーン調達)や、PCB処理事業所で使用する電力を再生可能エネルギーで調達するRE100等の取組を継続的に進めています。

さらに、これまで蓄積してきたノウハウ、ネットワーク、社会からの信頼といった基盤を活かし、新たな分野への取組も引き続き模索していきます。

## 環境と安全を基盤とした信頼の確保

当社の事業は、環境と安全に細心の注意を払うとともに、地元の皆様、国民の皆様の理解を得て進めることが不可欠です。この認識の下に、会社の基本理念や各事業の環境安全方針を定めています。本報告書は、これらの基本理念と環境安全方針に基づく環境保全や安全確保への取組に加え、当社の環境・社会・ガバナンスに関する活動を国民の皆様にご伝達するものであり、皆様方との円滑なコミュニケーションを図るための重要な手段であると考えています。本報告書をご高覧賜りまして、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2026年9月

代表取締役社長

鎌形 浩史

# 2025年度トピックス

## 当社でのPCB廃棄物の処理終了

日本各地から受け入れてきたPCB廃棄物について、東京PCB処理事業所では2025年12月12日、北海道PCB処理事業所<sup>※1</sup>では同年12月25日に、それぞれ最後の搬入が行われ、無害化処理の上、2026年3月末をもってPCB廃棄物の処理を終了しました。これにより、全国5事業所で約20年間にわたり実施した処理がすべて完了しました。

最終年度の処理を期限内に完了させるため、高濃度PCB廃棄物の総ざらいの進捗管理を図り、収集運搬ごとの締切りを設け、行政や保管事業者へ周知徹底をしました。また広域収集運搬においては、効率的な合積みが行われるよう、県別に収集運搬契約の実績把握の調査を行い、実態を行政や保管事業者へ周知し、保管事業者の費用負担の軽減に勤めました。当社でのPCB廃棄物の処理のあゆみについては、6ページ以降に詳細を掲載しておりますので、ご覧ください。引き続き、役割を終えた設備等の解体撤去工事について、安全第一で計画的に進めていきます。



北海道PCB処理事業所の最終払出物の搬出(2026年3月19日)

※1 2024年3月末をもって処理が終了した西日本のPCB処理事業所(北九州、豊田及び大阪)の対象区域で新たに見つかった高濃度PCB廃棄物は、2025年4月1日より北海道PCB処理事業所で受入れ、処理を実施しました。

## 復興再生利用等の推進に関するロードマップが決定

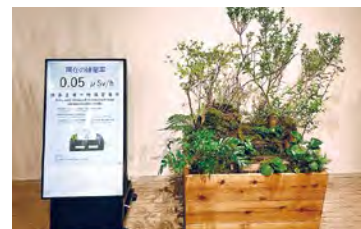
東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う除染作業で発生した除去土壌の県外最終処分の実現に向け、国は2025年8月に「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップ」を決定しました。本ロードマップは、復興再生利用の推進、県外最終処分に向けた検討、理解醸成・リスクコミュニケーションの3本柱からなり、政府一丸となって当面5年程度で主に取り組むことをまとめています。

例えば「復興再生利用の推進」では、先行的な事例を創出することにより、2030年頃に目指す姿として、実用途における復興再生利用の目途を立てることとしております。また「理解醸成・リスクコミュニケーション」では、当社が管理・運営を行っている中間貯蔵事業情報センターからの情報発信も含まれています。

当社は、ロードマップの3本柱に関する国の取組を着実に支えていきます。



中間貯蔵事業情報センター  
(CREVA おおくま1階)



大阪・関西万博での除去土壌を用いた  
プランターの出展

## 総理大臣官邸・霞が関の中央官庁で「復興再生利用」を開始

除去土壌を復興再生土として有効に活用する取組が、国により進められています。2025年7月には、総理大臣官邸前庭にて、同年9～10月には霞が関の中央官庁の花壇等にて、復興再生利用のための工事が実施されました。

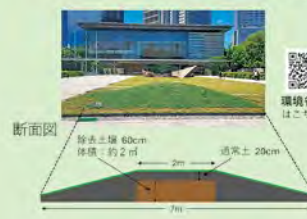
総理大臣官邸及び霞が関で使用された復興再生土はいずれも、中間貯蔵施設(福島県大熊町・双葉町)に保管されていた除去土壌で、使用量は合計約68m<sup>3</sup>です。施工にあたっては、復興再生土の飛散・流出を防止するため覆土を行うとともに、施工後も空間線量率のモニタリングを継続しており、安全性が確認されています。

現在、中間貯蔵施設には約1,430万m<sup>3</sup>もの除去土壌等が保管されております。放射性物質濃度が基準値以下の土壌については、適切な管理の下で公共事業等への利用が可能であり、ロードマップの柱の一つである復興再生利用は、最終処分量の低減に資する重要な取組です。当社は中間貯蔵施設における復興再生土の積み込み等業務の支援、花壇工事等の工事監督支援、施工後の定期的な空間線量率の測定、説明パネル・展示物の作成・設置等を実施することにより、国の取組を支援しました。

### 復興再生利用を 首相官邸で実施しています

東京電力福島第一原子力発電所事故からの環境再生のため福島県内の除染に伴い生じた土壌のうち、資源として利用可能なものを首相官邸で利用しております。

<放射線量>  
・復興再生利用場所(施工前) 0.07~0.10  
・復興再生利用場所(令和 年 月 日)  
単位はマイクロシーベルト/時間(μSv/h)



総理大臣官邸に設置した説明パネル

## 災害廃棄物対策に係る体制整備と支援の継続

当社では、2017年の中長期経営計画で新たな社会貢献の検討を開始し、2019年から災害廃棄物対応を主要テーマとしています。「令和2年7月豪雨災害」で初の環境省の支援を実施後、2021年に「社会貢献事業災害廃棄物対策プロジェクトチーム」を発足、2022年には同プロジェクトチーム内に「災害廃棄物対策支援チーム」を設置し体制を強化しました。その後も「令和3年8月大雨」、「令和4年台風14号及び15号」などで継続支援を行い、令和6年能登半島地震では延べ537人・日を派遣し、発災初動から広域処理まで支援しました。（令和6年能登半島地震における支援に対する環境大臣表彰については42ページ参照。）

令和6年能登半島地震を受け、中央環境審議会は災害廃棄物対策の課題に対応するための制度見直しにかかる意見具申を取りまとめました。自治体の公費解体や廃棄物処理を横断的に支援する専門支援機能（機関）の必要性が示され、JESCOについて、平時の備えや被災自治体への支援を受託できるよう規定を整備すべきとされ、その後廃棄物処理法及びJESCO法の改正により、制度化されています。

当社では、災害廃棄物処理事業の本格的な事業化に向けて、国と連携しながら、制度設計や体制整備などについて準備を着実に進めており、2025年度において、以下の活動を実施しました。

### ■ 災害廃棄物処理に係る管理システム等の検討業務

災害廃棄物処理全般を一元管理可能なシステムの構築検討業務を環境省から受託しました。

被災自治体及び被災者負担の軽減や、関係者による進捗状況等の確認、円滑な情報共有・支援を目的としたシステムの構築に向けた整理を進めています。

### ■ 公費解体申請書統一化検討業務

被災した家屋等の公費解体に係る申請書の様式を統一するための業務も環境省から受託しました。

様式を統一することで、被災者や自治体職員の負担軽減と手続きの迅速化が期待されること、JESCOとしてもその一助を担うことができました。

### ■ 現地支援の継続

2025年度に入ってから、九州地方、静岡県及び東京都など、被災地での現地支援を継続。

ドローンを活用した現地調査を行い、自治体のスムーズな廃棄物処理が可能となるよう、支援を行いました。



東京都八丈島の仮置場におけるドローン撮影の様子

近年、豪雨や地震などの災害が毎年のように発生し、数年に一度は相当規模の災害が発生しています。災害廃棄物対策は、発災直後の混乱の中で迅速かつ確かな判断と調整が求められる分野です。これまで環境省や自治体にて多くの現場対応を通じて培った経験を生かし、JESCOが災害時に信頼される存在となるよう、事業本格化に向けた準備と体制整備を進めています。2025年度は公費解体に係る申請書類等の統一化や災害廃棄物処理管理システムの検討、被災地支援を通じた実践的な知見を蓄積し、2026年2月には災害廃棄物対策事業準備チームを設置しました。2026年4月には同チームを更に準備室に格上げし人人体制を強化しました。今後は平時からの備えと人材育成を重視し、発災時には被災地が真に必要なとする支援を届けられるよう全力で取り組んでいきます。



環境安全事業部長  
(災害廃棄物処理  
支援事業担当)  
馬場 康弘

# PCB 廃棄物処理事業

## PCB 廃棄物処理事業の総括

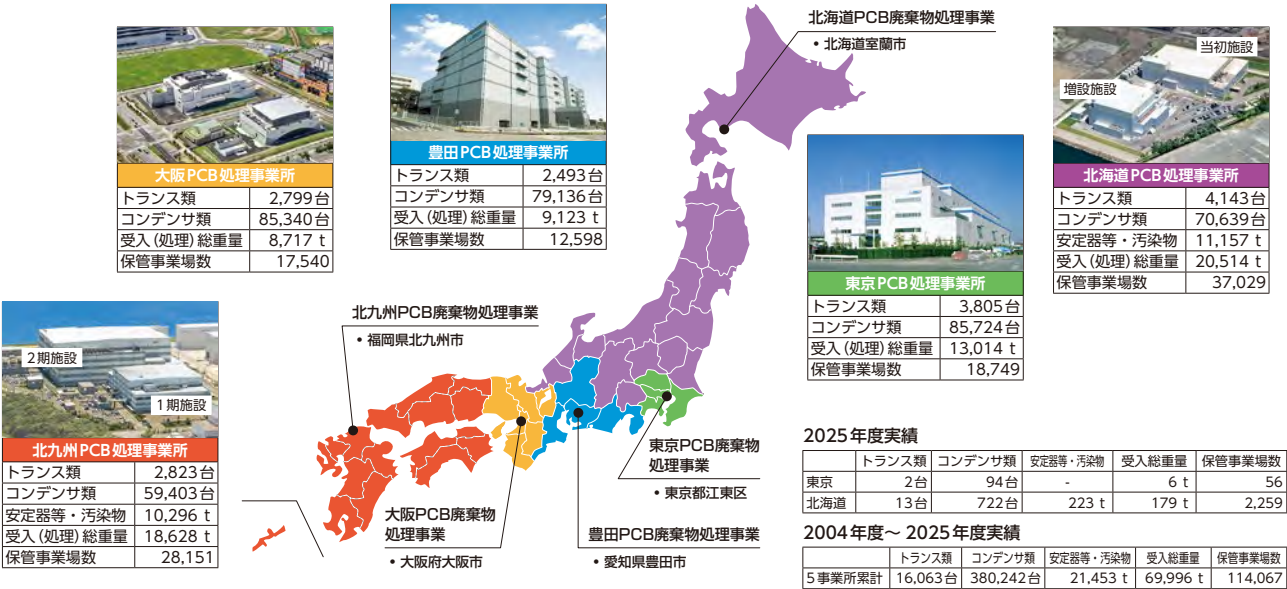
### PCB 廃棄物の処理終了

当社は、国の指導のもと、自治体や地域住民の皆様のご理解をいただき、2004年12月の北九州を皮切りに全国5か所において高濃度PCB廃棄物の処理施設を設置し、関係者の皆さまのご協力の下に、処理を進めてきました。

この結果2024年3月末には、北九州PCB処理事業所、豊田PCB処理事業所及び大阪PCB処理事業所において、2026年3月末には東京PCB処理事業所及び北海道PCB処理事業所において、処理を終了しました。

これまでの約20年にわたるPCB廃棄物処理事業を通じて、有害な廃棄物の適切な管理や把握、排出事業者との調整、処理を円滑に進めるための搬入調整、安全な操業の維持、モニタリング、社内監査、情報発信及びリスクコミュニケーションなどの様々なノウハウが蓄積されました。

### ■ 各PCB処理事業所の立地、対象地域及び処理実績 (2025単年度／累計)



### ■ 各PCB処理事業所の概要

| PCB 処理事業所   | 北九州                                  |                                                       | 豊田                                 | 東京                                  | 大阪                                  | 北海道                                |                                    |
|-------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
|             | 1 期                                  | 2 期                                                   |                                    |                                     |                                     | 当初                                 | 増設                                 |
| 敷地面積        | 約 24,000㎡                            | 約 30,000㎡                                             | 約 9,800㎡                           | 約 30,500㎡                           | 約 29,000㎡                           | 約 40,000㎡                          | 約 13,000㎡                          |
| 事業対象地域      | 岡山県以西の 17 県                          | トランス類、コンデンサ類等：岡山県以西の 17 県<br>安定器等・汚染物：北九州、豊田及び大阪事業エリア | 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県                    | 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県                    | 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県            | 北海道 左記以外の 15 県                     | 北海道及び東京事業エリア                       |
| 処理対象 / 処理能力 | トランス類、コンデンサ類等：1.0 t・PCB/日            | トランス類、コンデンサ類等：0.5 t・PCB/日<br>安定器等・汚染物：10.4 t/日        | トランス類・コンデンサ類等：1.6 t・PCB/日          | トランス類・コンデンサ類等：2.0 t・PCB/日           | トランス類・コンデンサ類等：2.0 t・PCB/日           | トランス類・コンデンサ類等：1.8 t・PCB/日          | 安定器等・汚染物：12.2 t/日                  |
| PCB 処理分解方式  | 脱塩素化分解方式                             | トランス類、コンデンサ類等：脱塩素化分解方式<br>安定器等・汚染物：溶融分解方式             | 脱塩素化分解方式                           | 水熱酸化解分解方式                           | 脱塩素化分解方式                            | 脱塩素化分解方式                           | 溶融分解方式                             |
| 操業期間        | 平成 16 年 12 月 (開始) ～ 平成 31 年 3 月 (終了) | 平成 21 年 7 月 (開始) ～ 令和 6 年 3 月 (終了)                    | 平成 17 年 9 月 (開始) ～ 令和 6 年 3 月 (終了) | 平成 17 年 11 月 (開始) ～ 令和 8 年 3 月 (終了) | 平成 18 年 10 月 (開始) ～ 令和 6 年 3 月 (終了) | 平成 20 年 5 月 (開始) ～ 令和 8 年 3 月 (終了) | 平成 25 年 9 月 (開始) ～ 令和 8 年 3 月 (終了) |

担当部長

北九州事業の操業開始以来、当社は約20年にわたり、全国5事業所において高濃度PCB廃棄物の処理を安全かつ確実に進めてまいりました。

操業当初には試行錯誤を要する時期もありましたが、地域の皆さま、国及び自治体等の関係者、そしてPCB廃棄物の適切な保管と処理へのご協力をいただいた保管事業者の皆さまをはじめとする多くの方々のご理解とご支援のもと、着実に取組を重ねてまいりました。

こうした取組の積み重ねの結果、2025年度の東京PCB処理事業所及び北海道PCB処理事業所での処理終了をもって、当社に登録されたすべての高濃度PCB廃棄物の処理を完了いたしました。

長きにわたり各地で保管を余儀なくされていたPCB廃棄物の安全かつ確実な処理という社会的責務を果たすことができたことにあたり、これまで事業を支えていただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。



PCB 処理営業部長  
(2025 年度当時)  
湯浅 祐一

## PCB廃棄物処理事業の沿革

### ■ PCB廃棄物処理事業の進展

| 年度   | 当社での主な出来事                                                                                                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2004 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本環境安全事業株式会社（JESCO）設立（4月）</li> <li>●北九州（第1期施設）操業開始（12月）</li> </ul>                                                                               |
| 2005 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊田操業開始（9月）</li> <li>●東京操業開始（11月）</li> <li>●豊田で防油堤内に漏洩したPCB洗浄油から揮発したPCBが外部に漏洩（11月）</li> <li>●東京で屋外設置タンクへの微量PCB廃水を送水の際、オーバーフローによる漏洩（3月）</li> </ul> |
| 2006 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●東京でコンデンサ解体室から気化したPCBが排気口から漏洩（5月）</li> <li>●大阪操業開始（10月）</li> </ul>                                                                                |
| 2007 |                                                                                                                                                                                          |
| 2008 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道（当初施設）操業開始（5月）</li> <li>●全国5事業所によるトランス・コンデンサの処理体制整備の完了</li> </ul>                                                                             |
| 2009 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北九州（第2期施設）操業開始（7月）</li> <li>●北九州（第2期施設）で火災が発生（8月）</li> </ul>                                                                                     |
| 2010 |                                                                                                                                                                                          |
| 2011 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●全事業所でISO14001認証取得を完了</li> </ul>                                                                                                                  |
| 2012 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●処理実績が最大（PCB無害化量）</li> </ul>                                                                                                                      |
| 2013 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●東京（低濃度処理施設）終了（6月）</li> <li>●北海道（増設施設）操業開始（9月）</li> <li>●北九州と北海道による安定器等・汚染物の処理体制整備の完了</li> </ul>                                                  |
| 2014 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●PCB廃棄物処理基本計画変更（能力の相互活用・計画的処理完了期限及び事業終了準備期間の設定等）（6月）</li> <li>●中間貯蔵・環境安全事業株式会社に改組（12月）</li> </ul>                                                 |
| 2015 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●PCB廃棄物処理基本計画の変更に基づく事業所間の相互活用を開始（7月）</li> <li>●北九州で排気中ベンゼンの協定値超過（10月）</li> </ul>                                                                  |
| 2016 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●PCB廃棄物処理基本計画変更（処理対象毎に処分期間と特例処分期限日の設定等）（7月）</li> <li>●PCB特措法改正（保管事業者の計画的処理完了期限より前の処分義務付けなど）（8月）</li> </ul>                                        |
| 2017 |                                                                                                                                                                                          |
| 2018 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北九州（第1期施設）のトランス・コンデンサ処理完了（3月）</li> </ul>                                                                                                         |
| 2019 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北九州（第1期施設）で先行解体工事に着手</li> </ul>                                                                                                                  |
| 2020 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北九州（第2期施設）と北海道（増設）で処理能力増強のため安定器の分離処理設備を設置</li> </ul>                                                                                             |
| 2021 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●解体撤去実施マニュアル（共通編）を策定（11月）</li> <li>●北九州（第1期施設）の先行解体工事の完了</li> </ul>                                                                               |
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●PCB廃棄物処理基本計画変更（北九州対象区域で新たに発見されたトランス・コンデンサ類等を大阪・豊田で地域間移動及び広域処理）（5月）</li> </ul>                                                                    |
| 2023 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北九州（第2期施設）・豊田・大阪の廃棄物搬入完了（1月）、処理終了（3月）</li> <li>●北九州（第1期施設）のプラント設備解体撤去工事の完了</li> </ul>                                                            |
| 2024 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北九州（第1期施設）で建屋解体工事に着手</li> <li>●PCB廃棄物処理基本計画変更（北九州・大阪・豊田対象区域で新たに発見された高濃度PCB廃棄物を北海道で地域間移動及び広域処理）（8月）</li> </ul>                                    |
| 2025 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道（当初施設）で払い出した有価物から低濃度PCB漏洩（4月）</li> <li>●東京・北海道の廃棄物搬入完了（12月）、処理終了（3月）</li> </ul>                                                               |

# PCB 廃棄物処理事業

## PCB 廃棄物処理事業のあゆみ

### ■ 日本初の PCB 処理 (PCB 処理開始)

PCB 廃棄物の処理は、長年にわたり全国的な大きな社会問題となっていました。

こうした状況の中、地元行政や住民の皆様などのご理解ご協力をいただきながら、施設の設計・施工・試運転を経て、安全性を最優先にした処理の仕組みを確立したうえで、2004年12月、日本初の高濃度 PCB 廃棄物処理施設として、北九州 PCB 処理事業所（第1期施設）が操業を開始しました。

この開始は、全国5カ所で高濃度 PCB 廃棄物処理の体制を整備するための基盤となり、その後の PCB 廃棄物の事業所間移動や施設の処理能力向上など、全国で処理を進めるための大きな道筋をつくる出発点となりました。



北九州事業（第1期）処理施設建設施工の様子（当時）

### ■ 操業直後の事故と安全体制の確立について

操業開始直後の2005年11月に豊田 PCB 処理事業所において、2006年3月及び5月に東京 PCB 処理事業所において、PCB 漏洩事故が発生させてしまいました。

事故を相次いで発生させたことを厳粛に受け止め、今後絶対に PCB 漏洩事故を起こすことがないよう安全体制等の抜本的改革を行いました。第三者機関による点検を受けながら、人事の刷新等の安全管理体制の強化、作業手順や設備の安全総点検及び安全教育等を実施し、併せて設備のフェイルセーフ機能の充実等の施設の改善を実施しました。

（詳細は URL：<https://www.jesconet.co.jp/company/environment/enviroprep.html#anchor02> に掲載の環境報告書 2006 をご覧ください。）



安全教育現場訓練



安全教育講義

### ■ 国の PCB 廃棄物処理基本計画の変更による広域処理体制

2014年6月に国の定めるポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画（以下、「PCB 廃棄物処理基本計画」という。）の変更により、当社のポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業基本計画もこれに基づき、同年6月に変更を行いました。変更の主な内容として、高圧トランス・コンデンサ等の一部については、従来の処理対象区域を越えて各 PCB 処理事業所の処理能力を相互に活用して処理を行う体制としました。安定器等・汚染物については、北九州 PCB 処理事業所及び北海道 PCB 処理事業所の2カ所の施設を活用し、全国の処理を行う体制としました。この計画変更は PCB 廃棄物の処理を確実に進めるために導入され、地域ごとに処理対象物量や処理困難物に偏りがある中で、全国的に処理の促進を図る重要な仕組みでした。北九州・豊田・東京・大阪・北海道の各 PCB 処理事業所が互いに役割を補完し、大型トランスや安定器など個別に残った処理困難物を適切に振り分けることで、処理の滞留を解消する取組となりました。

## ■ 当社における PCB 処理終了（全国の高濃度 PCB 処理及び東京（低濃度） PCB 処理完遂）

全国 5 カ所の PCB 処理事業所で長年取り組んできた高濃度 PCB 廃棄物の処理について、西日本の 3 PCB 処理事業所では 2023 年度末に、東日本の 2 PCB 処理事業所では 2025 年度末に処理終了しました。これにより当社の PCB 処理事業は全て終了しました。

また、2005 年 11 月から処理開始した東京 PCB 処理事業所での東京都内分の柱上トランス絶縁油（低濃度 PCB）の分解処理は、2013 年 6 月に処理を終了しました。

当社における PCB 廃棄物の処理を期限内に確実に完了させるため、数多くの保管事業者ときめ細かく登録、契約、収集運搬等の調整を実施し、搬入調整等の進捗管理を徹底しました。

具体的には、自治体による未登録保管事業者の掘り起こし支援、登録促進、中小企業向け助成制度の活用支援、処理委託契約の締結、収集運搬日程の調整、手続きが難航する案件への個別対応など様々な取組を実行し、PCB 廃棄物の期限内処理を確実に達成させました。

### 各 PCB 処理事業所における最終搬入時及び最終払出時の様子



豊田 PCB 処理事業所の最終 PCB 廃棄物の搬入（2024 年 1 月 19 日）



大阪 PCB 処理事業所の最終 PCB 廃棄物の搬入（2024 年 1 月 19 日）



北九州 PCB 処理事業所の最終 PCB 廃棄物の搬入（2024 年 1 月 31 日）



東京 PCB 処理事業所の最終払出物の搬出（2026 年 3 月 19 日）

※東京 PCB 処理事業所と同日に北海道 PCB 処理事業所の最終払出物の搬出も行われました（4 ページのトピックス記事参照）。

#### 担当部長

約 20 年間かけて当社の PCB 処理が終了しました。カネミ油症による深刻な健康被害を契機に、PCB の製造・使用が禁止されてから、実に半世紀以上の時間を要しましたが、重大な環境リスクであった全国の高濃度 PCB を無害化できたことは、環境に対する大きな貢献と言えます。産学官すべての関係者がこの問題を自分事と捉えて協働し、多重の安全対策や住民参加による監視の仕組みなど様々な工夫を重ね、取組を継続したことで、極めて困難な事業が完遂できたと考えています。誠にありがとうございました。



取締役  
山本 昌宏

# PCB 廃棄物処理事業

## 安全管理体制

PCB 廃棄物処理事業では、環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 を参考にした環境安全管理体制を構築・運用しています。この一環として、事業の「環境安全方針」の作成・実践、緊急異常事態の発生防止、従業員等への環境安全管理教育等の活動に取り組んでいます。ここでは、PCB 廃棄物処理事業におけるこれらの取組をご紹介します。なお、中間貯蔵事業においても、同様に「中間貯蔵事業環境安全方針」を定めています（26 ページ参照）。



豊田 PCB 処理事業所中央制御室

### 環境安全管理統括者のごあいさつ

当社は、環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 の認証を取得しており、その要求事項の 1 つに「リスク及び機会への取組」があります。PCB 廃棄物処理事業の最も大きなリスクの一つは環境安全に関するトラブル（18 ページ参照）であり、PCB 廃棄物処理事業の環境安全管理システムとして、処理施設の健全性の維持、作業従事者の安全衛生管理といった活動に加え、過去トラブルの検証、発生トラブルの他事業所への水平展開による類似トラブルの発生防止にも取り組み、操業を完了しました。

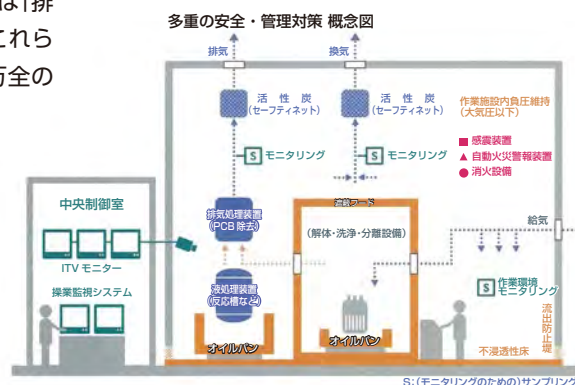
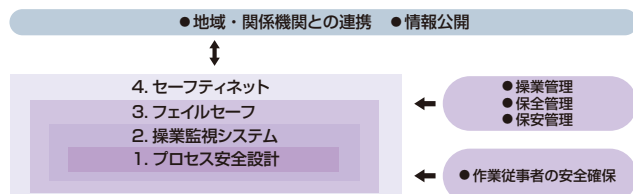
具体的には、①「トラブル対策チーム」の中でトラブル対策の徹底及び再発防止の強化実施、②各事業所で日常的にパトロールを実施し、漏洩や設備異常等の早期発見に努めるなどの取組を継続的に実施しています。こうした取組を通じて、今後も安全第一に、処理施設の解体撤去工事を実施し、環境安全管理システムを継続的に改善し、トラブルの未然防止に努めていきます。



環境安全管理統括者  
環境安全事業部長  
(PCB 処理事業担当)  
足立 晃一

## 処理施設の安全設計

当社の処理施設では、周辺環境に影響を及ぼすことのないよう、平常時の環境安全対策に加え異常時にも的確な対応が可能な設備設計とし、安全・確実な PCB 廃棄物処理を行っています。安全対策設備には「排気処理設備」「漏洩防止設備」「緊急時対応設備」があります。そしてこれらの安全対策設備を常時モニタリングし、必要な措置を講じるなど、万全の安全管理体制により処理を行ってきました。



|           |        |                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 監視・モニタリング | 排気対策   | 施設内は排気により負圧管理しています。排気は、排気処理装置（オイルスクラバー等）やセーフティネットとしての活性炭吸着装置を通した後で排出しています。                                                                                                                                                     |
|           | 漏洩防止対策 | 万が一にも PCB が施設から漏れ出さないよう、取扱い場所や処理機器類の下にはオイルパン（油受けの皿）を設けています。また、建物の床面には不浸透性・耐薬品・耐摩耗性に優れた、耐久性のある樹脂を塗布しており、もし PCB 油が漏洩しても、床面への浸透を防止します。これらのオイルパンや床には、漏洩を検出するための検知器が取り付けられています。また、施設内の圧力を外気より低くすることで、施設内の空気が未処理のまま外部に流出しないようにしています。 |
|           | 緊急時対策  | 感震装置により設定以上の地震を感じた場合、設備は自動停止します。また、施設を火災から守るため、自動火災警報装置・粉末消火設備・消火栓設備を設置しています。                                                                                                                                                  |

### ■ オイルパンと漏洩検知器

設備からの漏洩防止対策としてオイルパンを設け、万が一漏洩した際は漏洩検知器でただちに検知します。



### ■ 床面の浸透防止対策

PCB 油の浸透を防止するために床面に不浸透性に優れた樹脂を多重に塗布しています。



## 処理施設における作業従事者の安全衛生対策

当社では、作業従事者の PCB への曝露量を低減するため、処理施設において以下のような「作業環境管理」、「作業管理」及び「健康管理」からなる安全衛生対策を講じています。

### ■ 作業環境管理

当社の処理施設では、作業従事者の安全確保や周辺環境の汚染防止対策のため、PCB の揮発を抑制するための施設内温度管理、作業に応じた管理区域レベルの設定及びレベルに応じた負圧管理、作業環境の維持のための換気空調、局所排気等の設備を備えています。

#### 管理区分の例

| 区域        | 区分の考え方                                                      | 負圧レベル     |
|-----------|-------------------------------------------------------------|-----------|
| 管理区域レベル 3 | 通常操業下で PCB による作業環境の汚染の可能性がある、局所排気等レベルの高い管理を実施する区域           | － 70Pa 程度 |
| 管理区域レベル 2 | 通常操業下では PCB による作業環境の汚染はないが、間接的に高濃度 PCB を取り扱うため、相応の管理を行う区域   | － 40Pa 程度 |
| 管理区域レベル 1 | 配管設備等により、工程内の PCB は作業環境と隔離されており、通常操業下では PCB による作業環境の汚染がない区域 | － 20Pa 程度 |
| 一般取扱区域    | 上記を除く PCB 廃棄物の取扱い区域                                         | 大気圧と同じ    |

### ■ 作業管理

管理区域の入場者について、管理区域レベルやその作業に応じた保護具の着用、作業時間の制限等の作業管理を行っています。また、女性作業従事者には、母性保護の観点から「女性労働基準規則」に基づき管理区分（管理区域レベル 2 及び 3）への入室制限を行っています。

#### 当社が使用している保護具類の例※



※事業所によって専用作業靴の色等、装備が異なる場合があります。

### ■ 健康管理

作業従事者に対し、特殊健康診断の実施、血中の PCB 及びダイオキシン類濃度の測定等の健康管理を行っています。血中 PCB 濃度に関しては、日本産業衛生学会が設定した生物学的許容値 (25ng/g) を目安として健康管理を行っており、継続的に作業環境の改善や作業管理の徹底に取り組んでいます。2020 年度以降は血中 PCB 濃度がこの生物学的許容値を超えた作業従事者はおりませんでした。これまで、生物学的許容値を一時的に超えた作業従事者については、作業状況の個別確認・改善指導、追加的な健康診断の受診によるフォローアップなどを行っています。

# PCB廃棄物処理事業

## 安全性の確保

### ■ 平常時の取組

2026年3月末に東京及び北海道のPCB処理事業所が操業を終了し、全ての事業所で解体撤去に取り組むことになりました。しかし、負圧管理や換気空調、冷熱源設備は施設解体まで、また一部の洗浄設備などはプラント設備解体まで継続して設備運転並びに設備管理を行っています。これらの設備は自動制御され、中央制御室にて運転状況を監視しています。また、日常的にパトロールを実施し、漏洩や設備異常等の早期発見に努めています。設備のトラブルや解体撤去工事に伴うトラブル情報は、朝会・夕会等において、事業所内で共有するとともに、重要な情報は本社に報告し、他の事業所にも水平展開しています。

### ■ 解体撤去物の運搬時における安全確保

北九州PCB処理事業所では、解体撤去物を解体場所からクレーン設置場所まで運搬するに当たり、専用の運搬用スロープを設けるとともに、解体撤去物を強固に固縛・固定することで、ガタつきや荷崩れのリスクを排除しています。また、監視員が作業員の転倒等に注意を払いながら、人力による運搬作業を安全に実施しています。作業手順や役割分担を明確にした上で、運搬中も周囲の状況を確認しながら慎重に作業を進めることにより、安全な解体撤去作業の実施に努めています。



運搬用スロープ

解体物の運搬

### ■ 過去のトラブル事例に学ぶ

2025年4月に発生したトラブル（屋外・北海道PCB処理事業所からの有価物（金属類）に基準値超PCB含有油が混在して払出し）（18ページ参照）を受けて、解体作業者向けの座学や模擬作業を2026年3月に実施しました。「4/22事案の原因と再発防止策」、「コンデンサ解体工事における注意事項」、「解体工事の事故事例」、「超音波洗浄の原理・原則」等に関する座学や、「複雑な構造物を用いた切断訓練」、「切断物のかご詰め訓練」、「残液有無確認」、「保護具着用訓練」等に関する訓練を実施しました。

### ■ 防災訓練等

当社では、万が一緊急事態が発生した場合に備えて緊急時の対応マニュアルを定めており、また、計画的に防災訓練、安全教育等を行っています。

北海道PCB処理事業所では2025年9月に室蘭市消防本部及び消防署のご協力の下、地震発生を想定した防災訓練を行いました。この訓練では、ブラインドシナリオを発生させ、突発的な事象に対しても対応できるように行いました。



北海道PCB処理事業所総合防災訓練

### ■ 液体漏洩時対応訓練

豊田PCB処理事業所では、液処理PCB受入槽室、蒸留エリア、解体撤去工事エリアなどのトラブルを想定した緊急時対応訓練を10月～2月にかけて8回実施しました。2025年度は「液体漏洩」を想定した訓練を実施しました。

液体漏洩は、特に汚染拡大等の二次災害が懸念される事象のため、速やかな漏洩の拡散防止対応処置を徹底した訓練を実施しました。訓練後は、エリア毎の報告書を作成し、問題点を洗い出し、改善すべき点を明確にすることで研鑽を重ねています。



豊田PCB処理事業所液体漏洩対応訓練



座学風景



保護具着用訓練

## 全社安全セミナー

2025年度は2回開催し、役員、各PCB処理事業所及び本社PCB処理事業関係者に加え、全社員を対象としました。Web中継も行い、各拠点から多くの参加があり、JESCO全体で安全について考える機会としました。

### 第1回 (2025年6月23日)

工事の安全性や品質の向上に繋がるコミュニケーションの在り方について学ぶことを目的として、ガス工事を行う会社から講師を招いて開催しました。講義では、「双方向コミュニケーション」と「一人ひとりの責任と役割の明確化と発揮」の重要性について経験を交えてご紹介いただき、これらを繰り返し実践することが相互の信頼関係を生み、成果につながることを学びました。



外部講師による講義の様子（第1回）

## 第2回 (2026年2月6日)

工事の安全性を高める知識の習得や危険性に対する意識の向上を目的として、リスク対策の専門家を外部講師として招き開催しました。発注者の責任や安全管理方策の事例に加え、当社の事例を基に最悪のシナリオになった場合の罰則や損害賠償額の試算などの講義を受け、安全対策の重要性を改めて学びました。



外部講師による講義の様子（第2回）

## 安全教育

当社では、従業員を対象とした安全教育にも力を入れています。7月の全国安全週間に際しては、毎年、無事故・無災害の実現に向けてのトップの決意を社長が従業員に伝え、安全取組の徹底を図っています。各PCB処理事業所においては、安全大会の開催による当社及び運転会社等従業員の意識向上、テーマ別の安全教育や防災訓練等を通じたレベルアップ、危険予知・ヒヤリハットなどの安全活動を通じた危険感受性の向上等に取り組んでいます。さらに、協力会社等の新規入構者に対して、処理施設内での安全性確保について入構教育を行っています。

以下に、各PCB処理事業所における取組を紹介します。

### ■ 北九州PCB処理事業所

従業員の安全意識、さらには知識・技能の向上を目的として、社内外の講師による安全教育を実施しています。また年度末に解散する運転会社からは、操業開始から終了までの間に行った様々な安全施策を余すところなくご披露いただきました。



安全教育（運転管理会社による安全・衛生管理の総括）

### ■ 大阪PCB処理事業所

無事故無災害で施設の解体撤去等を進めるため、所員の安全意識、知識の向上を図ることを目的に安全教育を隔月で実施しています。インフルエンザ等の感染症対策や防災に関する教育も行いました。屋外では、消防訓練として消火器の操作及び担架での搬送訓練を実施しました。



安全教育（災害時の健康管理について）

### ■ 豊田PCB処理事業所

現在実施中の解体撤去工事は、非定常の作業がほとんどなので、これまで以上に安全第一に注力し、毎月の安全セミナーを継続開催しています。

特に、ヒューマンエラーの防止対策、防災設備や解体撤去工事の安全管理などの多彩なテーマを取り上げて、セミナーを行っています。



所内安全セミナー

### ■ 北海道PCB処理事業所

処理施設の安全操業の継続と、万一のトラブル発生時には迅速に対応できるよう、当社及び運転会社の社員に対し、安全衛生及び環境に関する教育を行っています。また、安全衛生標語の募集・表彰等により、社員の知識と技能の向上、及びモチベーションの維持に努めています。



労働安全衛生に関する講話



産業医講話

### ■ 東京PCB処理事業所

2025年度の教育訓練では、フォークリフト・ウォークリフト教育訓練、ハーネス使用による救助訓練、クレーン技能アップ教育訓練、マスクフィット訓練を実施しました。毎年実施している産業医による衛生講話では、6月に健康管理の一環として熱中症、12月に動脈硬化をテーマに学びました。



フォークリフト・ウォークリフト教育訓練



産業医による衛生講話

## PCB 廃棄物処理施設の解体撤去の進捗概況

### 解体撤去の進め方

当社の処理施設の解体撤去は、以下の基本方針とマニュアルに沿って安全確実に実施します。

#### ■ PCB 廃棄物処理施設の解体撤去に当たっての基本方針

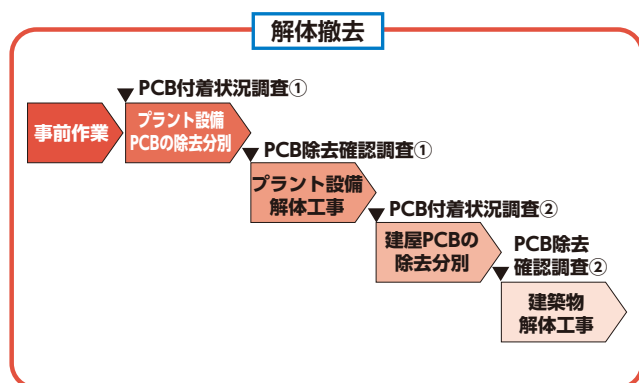
処理事業における環境安全方針を踏まえ、解体撤去に当たっての基本的な方針として以下の3点を掲げています。

- (1) 環境の保全の徹底
- (2) 工事における万全な安全衛生の確保
- (3) ステークホルダー等の理解と信頼の確保のための情報共有・公開

#### ■ JESCO PCB 廃棄物処理施設解体撤去実施マニュアルの策定

「JESCO PCB 廃棄物処理施設の解体撤去実施マニュアル（共通編）」を、2021年11月に策定し、その後改定を重ねています。保護具の選択と使用にあたっての留意点や、熱中症の予防等を反映した改訂第5版を2026年7月に公表しました。当社従業員や解体撤去工事会社の作業従事者等を対象に、遵守すべき技術的事項や労働安全衛生等を取りまとめたもので、当社のホームページで公開しています。  
URL : [https://www.jesconet.co.jp/business/page\\_00021.html](https://www.jesconet.co.jp/business/page_00021.html)

#### ■ 基本的な解体撤去の進め方



|                 |                                               |
|-----------------|-----------------------------------------------|
| 事前作業            | 事前に、配管・タンク等の液抜き・洗浄等により高濃度PCB等を処分。             |
| プラント設備のPCBの除去分別 | PCB付着物を除去分別し、解体工事での作業環境の安全性を確保。               |
| プラント設備の解体工事     | プラント設備の解体。既設換気空調設備の活用（負圧により施設内の空気を外部へ排出させない）。 |
| 建屋のPCBの除去分別     | 建築物（天井、床、壁、柱）のPCB付着物の除去。既設換気空調設備の活用。          |
| 建築物の解体工事        | 建築物の解体。適切な環境安全・防護対策を実施。                       |

#### 担当者の声

施設の解体撤去は、上記のフローのように段階的に進めており、これらを最初に完了する施設が、北九州PCB処理事業所1期施設です。2025年12月末に建屋のPCB除去分別を終え、2026年1月から解体工事に着手しました。この中で最も重要なのは、建屋のPCB除去分別の完了を確認する「PCB除去確認調査②」で、これが次工程へ進むための大きな転換点になります。この調査後は換気空調設備を停止し、通常の建築物として外壁撤去などへ移行し、これまでの管理区域と屋外の大気が繋がります。検討段階から関わってきた担当者として、次工程へ進むための重要な節目に到達できたことに、個人的にも大きな達成感があります。



環境安全事業部  
(PCB処理事業担当)  
解体撤去課長  
三木 寛志

#### ■ 解体撤去の全体概況

北九州PCB廃棄物処理施設（第1期）は、2019年3月をもって処理を終了し、他の施設に先駆けて解体撤去工事を実施することで、解体撤去に関する知見の充実を図っています。北九州（第1期）では、建屋の除去分別まで完了しています。北九州（第2期）、豊田及び大阪は、2024年3月に処理を終了し、現在、北九州（第2期）は、プラント設備解体撤去工事を実施しており、大阪は、先行工事が完了、豊田は、先行工事等を実施しています。また、2026年3月末に操業を終えた東京及び北海道当初の施設では、不要設備についての先行工事や事前作業を実施しています。各処理施設の解体撤去に係る進捗と事例を紹介します。

## ■ 北九州PCB廃棄物処理施設

2024年6月に開始（着工）した「1期建屋解体撤去工事」は、2025年度に建物内に付着等により残っているPCBの「除去分別」が段階的に全面完了を迎え、年度後半からは「建屋解体」の各工程が開始されるなど、次のステージへと大きく進捗しました。

建物内各エリアの建屋のPCB除去分別は2025年8月までにすべて完了し、天井裏ダクトや活性炭吸着室などの換気空調設備の除去分別についても2025年12月までにすべて完了しました。これらすべての除去分別の完了を受け、翌2026年1月には建屋への電気遮断、「建屋解体」も本格的に着工されており、建屋廻りの庇や室外機等を撤去する「先行解体」や、内装の石膏ボードを外す「内装解体」が開始され、次年度の外部足場組立や建屋本体の解体へ繋がる形で年度末に向けて着実に進捗しました。

2期施設の解体撤去工事の進捗概況については、2025年度は各種調査や高濃度PCB付着設備の事前処理が完了を迎え、年度後半からはプラント本体の本格的な解体工事へと着実に移行しました。

PCB付着状況調査では、槽内清掃や貯槽類調査が2025年12月までに完了し、翌1月からは真空加熱分離設備（VTR）の液抜き・洗浄が開始され、2026年3月に完了しました。

プラント設備の事前工事では、高濃度PCBが付着しているバルブ等の撤去やプロセス排気ダクトの解体撤去が進められ、VTR処理作業が2025年12月にすべて完了を迎えました。

プラント設備解体撤去工事では、これまでの事前工事等の進捗を踏まえ、2025年11月に元請契約が完了しました。これにより、2025年12月からは仮設工事に着手し、さらに2026年3月から現地工事でも本格始動しており、一部エリアにおける足場組立や、設備本体の解体撤去作業が順調に開始・進捗しています。

解体撤去工事の進捗については、引き続き事業部会・監視会議等（44～45ページ参照）へ説明し、ご意見をいただきながら進めていきます。

第1期施設（換気空調設備 4FL（Floor Level）撤去）



第1期施設（天井裏ダクト撤去）



第1期施設（建屋内装の撤去（石膏ボード等））



第1期施設（建屋解体準備（建屋廻りの撤去・足場組立））



第2期施設（事前工事（プラズマ前処理））



第2期施設（プラント設備解体撤去）



### 担当者の声

2025年度は、第1期・2期施設ともに事前処理や除去分別が完了し、本格的な解体工事へと移行した進捗著しい1年でした。1期建屋は内装・先行解体が着実に進み、2期施設も調査・VTR処理の完了を受けて現地でのプラント解体や足場組立が本格始動しています。全体として次年度の本体解体に向けた基盤が整ったと言えます。今後も事業部会や監視会議等へ丁寧な説明を継続し、ご意見を反映しながら安全・着実に工事を推進します。



北九州  
PCB処理事業所  
副所長  
金縄 保徳

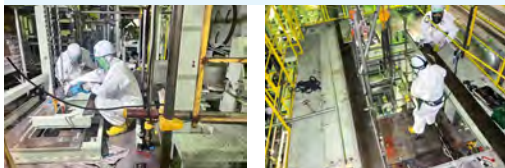
## ■ 豊田PCB廃棄物処理施設

当事業所の解体撤去は、配管やタンクの液抜き・洗浄等の事前作業や、PCB付着状況等調査を行いながら、高濃度PCBを中心に扱う設備があるエリアを先行解体工事として進めています。

当事業所の特徴の一つとして、遮蔽フード（ステンレスの床・壁で覆われた部屋）が設置されていることがあります。その遮蔽フード内での最初の先行解体工事として、コンデンサー自動解体エリアに設置されている設備約78トンの先行解体工事を2024年8月に無事故・無災害で完了し、現在は「高濃度PCB取扱エリア等解体撤去工事」（撤去対象設備約730トン）を行っています。同工事の準備と並行して、解体撤去物の保管スペースを確保するための工事、また、部分的に高濃度PCBが残存している設備の解体撤去工事等も行いました。当事業所は、非常に狭いエリアに解体撤去対象設備が設置しており、今後も難易度の高い工事が続きますが引き続き、先行解体工事の残りの設備の解体撤去工事を安全第一で計画的に進めていきます。

# PCB 廃棄物処理事業

現在実施中の遮蔽フード内での先行解体工事の様子



缶底切断装置の解体

高所作業

スポット的に高濃度 PCB が残存している設備の解体工事（受入抜油室）



解体前

解体中

解体後

## 担当者の声

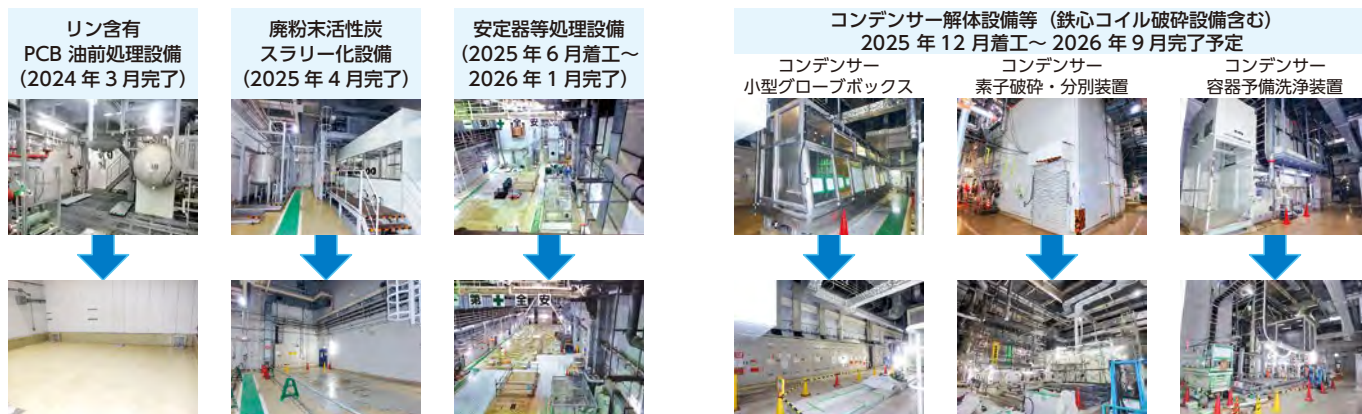
高濃度PCB廃棄物の処理が終了して、解体撤去工事のフェーズに移行しましたが、現時点でも施設内には処理の過程で残存したPCBが残っており、まずは高濃度PCBが付着した機器等は洗浄設備を利用して無害化、若しくは低濃度PCB化を進めています。この解体撤去作業においても、外部にPCBを漏洩させない、作業される方がPCBに曝露しないなど、安全最優先で取り組んでいます。



豊田  
PCB処理事業所  
所長(2025年度当時)  
石垣 喜代志

## ■ 東京PCB 廃棄物処理施設

不要設備の先行解体撤去工事は、2022年度に開始して2025年度末で先行解体撤去としての位置付けを完了しました。完了したリソ含有PCB油前処理設備、廃粉末活性炭スラリー化設備、安定器等処理設備に続き、コンデンサー解体設備等（鉄心コイル破砕設備含む）の解体工事は、2025年12月に着工し実施中（2026年9月末完了予定）、除染室の抜油・排気処理設備は、除去分別が完了し、2026年度より始まる第1次プラント設備の解体撤去工事に含めて解体撤去を実施する計画です。



## 担当者の声

2025年度は、事業終了準備期間の最終年度。高濃度PCB廃棄物の処理を確実に進め、12月12日の最終搬入後、処理を完了しました。解体撤去では、不要設備の先行解体撤去工事を実施するとともに、現有する稼働設備を最大限活かしながら本格解体撤去工事に向けて洗浄（配管類・タンク類）作業を実施して、高濃度廃PCB等の洗浄が完了しました。これにより、主要設備の加熱設備、洗浄設備（アルカリ洗浄・三次洗浄）、蒸留設備、水熱分解設備を停止しました。2026年度からは本格解体撤去期間となり、高濃度履歴の配管等を取り外す除去分別、及び第1次プラント設備の解体撤去工事から開始して解体撤去工事が本格化していきます。



東京  
PCB処理事業所  
所長  
田中 淳二

## ■ 大阪PCB 廃棄物処理施設

2021年度から不要となった設備の解体撤去を順次進め、2025年度末までに小型解体室及び大型解体室、蒸留室、VTR室などの高濃度PCBが付着している設備の解体撤去工事を実施しました。2026年4月に元請業者と契約を締結、約2,000トンの設備解体撤去工事に着手し2027年度末に完了する予定です。解体撤去工事の進捗については、引き続き大阪PCB処理事業部会・大阪PCB廃棄物処理事業監視部会等で説明しご意見・ご助言をいただきながら進めていきます。



撤去前

撤去後

## 担当者の声

2021年度、不要となった切断装置等の先行解体撤去から取り組み、その後順次、高濃度PCB部分の除去分別作業と一部設備の先行解体撤去工事、撤去物の所内での無害化処理に取り組んでまいりました。所内での無害化処理を終えて、2026年4月にプラント設備約2,000トンを対象とした解体撤去工事の契約締結となりました。今後も安全最優先で、労働災害等トラブルの発生を無くし、工期内に工事を終わられるよう、工事監理に取り組めます。また、残る地下タンク等の設備の解体撤去の準備とあわせて建築物の解体に向けて検討を進めてまいります。



大阪  
PCB処理事業所  
所長(2025年度当時)  
安井 仁司

## ■ 北海道PCB廃棄物処理施設

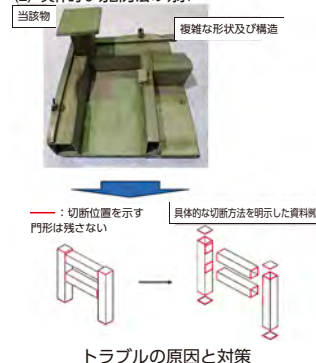
当初施設については、先行解体工事として 2025 年 2 月よりコンデンサ解体エリアの解体撤去工事（約 62 トン）を開始しましたが、4 月 22 日に低濃度 PCB 含有油を含む有価物を外部に払い出したトラブルのため、約 35 トンを解体した時点で工事を中断しました。

現在は原因究明と再発防止策を策定した上で、コンデンサ解体エリアの高濃度 PCB が付着している機器と先行解体工事の残りの機器を合わせた約 100 トンの解体撤去工事を実施中です。2026 年 3 月 16 日から 19 日まで再発防止対策の教育を受注者に行い、5 月 11 日に着工しました。2027 年 3 月 10 日の完工を目指しています。

増設施設については、低濃度 PCB 付着レベルの前処理設備等を先行解体工事の対象として、2026 年 12 月の工事開始を目指しています。

また、有識者からなる北海道事業部会のご指導の下、北海道 PCB 処理事業所全体の解体撤去スケジュール等を策定し、有識者や地元の方で構成される監視円卓会議においてご説明を行うなど、解体撤去についても積極的な情報発信に努めています。

(2) 具体的な切断方法の明示



### 担当者の声

2025 年度は、営業物の最終処理年度であったことから、4 月のトラブルを受け解体撤去工事は一旦中断し、処理に注力することとしました。そのおかげもあり、処理対象量が増加する中、操業を工夫し無事処理を完了させることが出来ました。

2026 年度からは本格的な解体撤去が始まっています。解体撤去工事は非常作業そのものであり、これまでの操業とは異なる対応が求められますが、安全を最優先で行うことは変わりません。解体撤去が無事に完了するまで組織一丸となって取り組んでいきます。



北海道  
PCB 処理事業所  
所長  
渡辺 謙二

## 解体撤去における作業従事者の安全衛生対策

当社では、作業従事者の PCB への曝露量を低減するため、操業時と同様、解体撤去でも引き続き以下のような「作業環境管理」、「作業管理」及び「健康管理」からなる安全衛生対策を講じています。

### ■ 作業環境管理

当社では、解体撤去に従事する作業者の安全衛生の確保のため、作業環境中の PCB 濃度と PCB 付着レベルの程度を基本として、作業箇所の解体撤去管理レベルを設定し、換気空調設備を運転し建屋内を負圧にしたうえで、プラント設備解体撤去工事等を実施しています。また、PCB、ダイオキシン、粉じんなどの作業環境測定を実施しています。

プラント設備解体撤去工事の解体撤去管理レベルの整理

|           | PCB 付着レベル         |  | 高濃度 PCB 付着レベル | 低濃度 PCB 付着レベル | 該当性判断基準以下 |     |
|-----------|-------------------|--|---------------|---------------|-----------|-----|
|           | PCB 作業環境濃度 [μg/m] |  |               |               |           |     |
| PCB 開放状態  | 10 超              |  | レベルⅢ          | レベルⅢ          | レベルⅢ      |     |
|           | 0.5 以上 10 以下      |  | レベルⅢ          | レベルⅡ          | レベルⅠ      |     |
|           | 0.5 未満            |  | レベルⅢ          | レベルⅡ          | 一般区域      | 非管理 |
| PCB 非開放状態 | 0.5 以上 10 以下      |  | レベルⅠ          | レベルⅠ          | レベルⅠ      |     |
|           | 0.5 未満            |  | 一般区域          | 一般区域          | 一般区域      | 非管理 |

開放状態：解体作業により機器が開放され、機器内部の PCB が室内空間に移動する可能性がある状態  
非開放状態：解体作業により機器が開放されず、機器内部の PCB が室内空間に移動する可能性がない状態

### ■ 作業管理

管理区域の入場者について、管理区域レベルやその作業に応じた保護具の着用、作業時間の制限等の作業管理を行っています。解体撤去での保護具については、解体撤去管理レベルに応じて選択しています。

解体撤去管理レベル別の保護具の例



### ■ 健康管理

解体撤去管理レベルⅢで 1 年間に 30 日以上作業した作業従事者に対し、特殊健康診断の実施、血中の PCB 及びダイオキシン類濃度の測定等の健康管理を行っています。操業時と同様に、血中 PCB 濃度に関しては、日本産業衛生学会が設定した生物学的許容値 (25ng/g) を目安として健康管理を行っており、継続的に作業環境の改善や作業管理の徹底に取り組んでいます。

# PCB 廃棄物処理事業

## トラブル対策の徹底・強化に係る取組

2026年3月末に東京及び北海道のPCB処理事業所が操業を終了し、5ヶ所全ての事業所で解体撤去に取り組むことになりました。これに伴いトラブルの内容が、解体撤去工事作業に関するものや、設備内に残留していた廃液に関するもの、解体撤去で取り外した部材に関するものなど、その範囲や関係先が広がりつつあります。

本社ではトラブル対策の徹底と再発防止の強化を図るために「トラブル対策チーム」を設置し、外部専門家を交えて原因究明及び再発防止対策に関する協議を行い、類似トラブルの再発防止のため各事業所への水平展開を実施しています。また、トラブル対策を確実に遂行するため、外部専門家から助言を受けながら、解体撤去工事におけるトラブル対策のセミナーや各事業所の現地調査を実施することにより、安全管理体制を検証し、トラブルの未然防止を推進しています。

## 解体撤去及び運転・設備に関連するトラブル

2025年度に発生したトラブルは1件（2024年度11件）と前年度比で減少しました。トラブルの事例は以下のとおりです。

### ■ 事業所から払い出した有価物（金属類）に基準値超PCB含有油が混在 （北海道PCB処理事業所 2025年4月22日発生）

北海道PCB処理事業所では、当初施設の解体撤去に関する先行工事を行っており、そこで生じた部材は真空超音波洗浄して卒業判定の上、有価物としてA社に払出していました。払出した後、A社敷地内でJESCOの搬送容器からA社所有カゴに移し替えたところ、搬送容器から洗浄に用いた洗浄液と思われる液体が流出しました。このため、A社へ払い出した部材を全て回収するとともに、現場を高圧洗浄し、その廃液を回収して拡散を防止しました。原因は、払出した部材の形状・構造が複雑で、液体が溜まりやすい部分があり、切断や穴あけ等が不十分な状態で洗浄し、洗浄液が滞留したまま部材を払出したことです。

再発防止対策としては、解体撤去工事の仕様書に部材の構造に応じた切断方法等を図示して工事業者に徹底すること、実際の切断作業の状況を確認すること、払出の都度、洗浄カゴ内に洗浄液等が残っていないことを確認することなどを実施しています。



原因と思われる部材



有価物の保管状況

当該物

有価物の保管状況

## 環境安全管理システム

### PCB処理事業 環境安全方針

当社では、PCB処理事業の環境安全方針を定めています。PCB処理の完了に伴い2026年4月に以下のとおり変更しています。また、中間貯蔵事業においても、別途、環境安全方針（26ページ参照）等を定めています。

#### PCB処理事業 環境安全方針

我が社は環境と安全が経営の基盤であることを社の基本理念として宣言している。

PCB廃棄物処理事業は、我が国においては30年余にわたって着手し得なかったものであり、これを推進してきた当社の取り組みは、それ自体が我が国の環境保全上重要な役割を担ってきたものである。それ故に事業による環境への影響の防止、安全の確保の対応について各方面から特に厳しく注視されてきたものであり、解体撤去工事を進める中でも変わらない。

その期待に応えて重責を果たすため、PCB廃棄物処理に関わるすべての活動における環境安全方針を以下のとおり定め、実行する。

1. 環境と安全を最優先し、環境負荷の低減、工事の安全や品質の確保及び保安防災活動の徹底を図る。
2. 解体撤去工事に関連する会社との連携に努め、作業環境の改善や安全施工サイクル活動を推進し、無事故・無災害を達成する。
3. 環境保全・労働安全衛生関連の法令や条例を的確に把握し、地元との協定及び自主基準を含めて遵守する。
4. 環境安全管理システムを構築・実践し、環境安全活動を継続的に改善する。
5. 環境安全活動に関わる情報を積極的に開示し、地域住民、国・自治体、取引先等のステークホルダーの理解と信頼の確保に努める。

2026年4月1日  
中間貯蔵・環境安全事業株式会社  
代表取締役社長

## 環境安全管理システムの推進

当社では、「PCB処理事業環境安全管理規程」を定め、PCB処理事業の環境安全管理に関する体制、環境安全目標及びその実施計画、並びに各活動を継続的に維持、改善するためのPDCAサイクルなどを備えた環境安全管理システムを構築し、運用しています。

| 社内管理体制                            | 議長／委員長                                        | メンバー                              | 役 割                                   |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 環境安全会議                            | 社長                                            | 経営幹部会議メンバー<br>各PCB処理事業所長 他        | ・環境安全管理システムの見直し<br>・環境安全方針の決定又は改定等    |
| 環境安全推進委員会                         | 環境安全管理統括者<br>(環境安全事業部長 (PCB処理事業担当))           | 環境安全管理推進者<br>(各部長、PCB処理事業所長により選任) | ・環境安全目標等の審議、意見具申<br>・環境安全活動情報の報告、連絡等  |
| 部門の環境安全推進委員会等<br>(本社、各PCB処理事業所) ※ | 環境安全実施統括者<br>(環境安全事業部長 (PCB処理事業担当)、PCB処理事業所長) | 部署責任者 他                           | ・部門の環境安全目標等の審議<br>・部門の環境安全活動情報の報告、連絡等 |
| 安全衛生協議会<br>(各PCB処理事業所)            | 各PCB処理事業所長                                    | 各PCB処理事業所長<br>運転会社責任者 他           | ・PCB処理事業所の安全衛生管理の円滑な推進                |

※ 部門ごとに委員会の名称、体制は、委員の構成に違いがあるものの、役割については同じです。

## 2025年度環境安全目標と達成状況

PCB処理事業では、環境安全方針の達成を目指して、環境安全管理の到達点を年度ごとに環境安全目標として設定しています。これに併せて、本社及び各PCB処理事業所においても個別に目標、実施計画を定めて環境安全活動を実施しています。

2025年度環境安全目標と達成状況は下表のとおりです。

なお、2025年度末に東京事業所及び北海道事業所での高濃度PCB廃棄物処理が終了し、2026年度より全ての事業所が本格的に解体撤去フェーズに移行しています。それに伴い、2026年度の目標では、高濃度PCB廃棄物処理を対象としたものを見直しました。

★★★★：達成   ★★★：ほぼ達成   ★★：更に取り組みが必要

| 項目     | 2025年度目標                                    | 2025年度の実施結果                                                                                                                                                                            | 達成度評価 | 2026年度目標                         |
|--------|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------|
| 全般     | PCB廃棄物の着実かつ円滑な処理の完了                         | ・東京事業所、北海道事業所の高濃度PCB廃棄物処理事業が終了し、全5事業所の処理事業が完了しました。                                                                                                                                     | ★★★★  |                                  |
|        | 事業終了に合わせた円滑・柔軟な営業業務の実施                      | ・2025年度は高濃度PCB廃棄物処理の最終年として、年間を通じて自治体や環境事務所等との連携を緊密に行い、処理の促進を図りました。<br>・弊社の培った知見を積極的に提供するとともに、保管事業者からの問い合わせに適切に対応しました。                                                                  | ★★★★  |                                  |
|        | 解体撤去で生じる低濃度PCB廃棄物、運転廃棄物等の計画的かつ着実な処理         | ・施設内の運転廃棄物等について、自事業所内処理、無害化処理認定施設への払出等を推進し、全社では保管量を前年度比27%削減しました。                                                                                                                      | ★★★★  | 解体撤去で生じる低濃度PCB廃棄物、解体撤去廃棄物等の適正な処理 |
|        | 解体撤去の推進                                     | ・北九州事業所（2期施設）と大阪事業所のプラント設備解体撤去工事（本工事）について、解体撤去工事の施工段階に入りました。                                                                                                                           | ★★★★  | 各種リスクを抑えた解体撤去の着実な実施              |
|        | 環境安全管理システムの継続的改善                            | ・認証機関による定期審査を2025年12月に受審し、ISO14001認証登録継続が認められました。<br>・解体撤去フェーズへの移行に対応し、環境安全管理システムの見直しを行いました。                                                                                           | ★★★★  |                                  |
|        | 地域との対話・情報公開の実施                              | ・2025年9月に「環境報告書2025」を発行し、解体撤去及び運転・設備に関連するトラブルの報告でも、トラブルの事象、原因解明、対策が写真付きで分かりやすいなど、第三者審査機関より評価されました。<br>・各地域の監視委員会等で当社の操業状況、解体撤去について報告しました。<br>・各PCB処理事業所の事業日より当社ホームページなどでの情報開示に取り組みました。 | ★★★★  | 地域との対話・情報公開の実施                   |
| 環境保全   | 公表区分Ⅰ又はⅡに該当するトラブルゼロ                         | ・該当するトラブルは発生しませんでした。                                                                                                                                                                   | ★★★★  | トラブルゼロ <sup>※1</sup>             |
|        | 産業廃棄物、運転廃棄物等の処理後残渣及び解体撤去廃棄物の適正処理並びに埋処分量の最小化 | ・プラズマ処理後の残渣を除く産業廃棄物について、埋処分量ゼロを継続しました。<br>・プラズマ処理後の残渣について、直接埋処分量ゼロを継続しました。 <sup>※2</sup><br>・解体撤去廃棄物について、埋処分量ゼロを継続しました。                                                                | ★★★★  |                                  |
|        | エネルギー消費の管理・抑制                               | ・エネルギー使用原単位は、エネルギー使用量の減少等により、前年度比で13%減少しました。これは2025年3月末に東京及び北海道のPCB処理事業所が操業を終了し、5ヶ所全ての事業所が解体撤去のフェーズに移行したことにより、エネルギー使用量が減少したことによるものです。過去5年間平均では20%減少となりました。中長期計画目標の年平均1%以上の低減を維持しています。  | ★★★★  |                                  |
|        | 温室効果ガス排出量の管理・抑制                             | ・温室効果ガス（エネルギー起源二酸化炭素）の排出量は、約60千t-CO <sub>2</sub> となり、前年度比で19%減少となりました。                                                                                                                 | ★★★★  |                                  |
|        | 環境物品調達率100%の維持 <sup>※3</sup>                | ・調達方針を策定し、ホームページに掲載し公表しました。<br>・環境物品調達率はおおむね維持の99.0%でした。                                                                                                                               | ★★    |                                  |
| 労働安全衛生 | 休業災害ゼロ <sup>※4</sup>                        | ・処理施設内での休業災害はありませんでした。                                                                                                                                                                 | ★★★★  |                                  |

※1 本目標は、処理施設内で当社従業員、運転会社従業員、協力会社従業員の休業災害を対象としています。

※2 北海道PCB処理事業所プラズマ熔融分解施設での処理後の残渣に関しては、その運搬に伴う環境負荷等を総合的に勘案して処理等を行っています。

※3 28ページ参照

※4 社内要領に基づく公表区分にてカウントします。また、休業（労働）災害を含みます。

# 中間貯蔵事業

中間貯蔵施設（東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故で放出された放射性物質の除染により発生した福島県内の除去土壌等を最終処分するまでの間、安全かつ集中的に管理・保管するための施設）の区域内には、土壌貯蔵施設、スクリーニング施設等の様々な施設があります。当社は2014年12月に施行された改正JESCO法に基づき、環境省からの委託を受け、約16km<sup>2</sup>にも及び広大な中間貯蔵施設区域の運営管理等を行っています。

また、2025年に国が「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップ」を決定しました。当社は、本ロードマップの3本柱「復興再生利用の推進」「県外最終処分に向けた検討」「理解醸成・リスクコミュニケーション」に係る国の取組を支援しています。

## 中間貯蔵施設事業の方針(環境省)

環境省から、2026年3月19日付けで公表された事業方針は次のとおりです。

### 総論

- 安全を第一に、地域の理解を得ながら、住民の帰還や生活に支障を及ぼさないよう、事業を実施する。

### 輸送

- 特定帰還居住区域等で発生した除去土壌等の搬入を進める。また、仮置場を介さない輸送も実施する。
- 安全で円滑な輸送のため、以下の対策を実施する。
  - ・運転者研修等の交通安全対策や必要な道路補修等を実施し、安全な輸送を確保
  - ・円滑な輸送のため、輸送出発時間の調整など、特定の時期・時間帯への車両の集中防止・平準化
- 福島県と連携し、市町村と調整の上、立地町である大熊町・双葉町への配慮等しつつ、計画的な輸送を実施する。

### 用地

- 着実な事業実施に向け、丁寧な説明を尽くしながら、施設整備の進捗状況、除去土壌等の発生状況に応じて、必要な用地取得を行う。

### 施設

- 新たな受入・分別施設の設計・工事を進め、令和8年度中の稼働を目指す。これまでの知見や除染の進捗等を踏まえた更なる施設整備の検討を進める。なお、新たな施設を整備するまでの間は、搬入した除去土壌等は保管場において適切に保管する。
- 土壌貯蔵施設は、安全性を確保しつつ、適切な維持管理を徹底する。
- 仮設焼却施設及び仮設灰処理施設並びに廃棄物貯蔵施設は、安全に稼働しつつ有効に活用する。
- 各種施設等においては、防犯対策を含め、適切な管理を実施する。

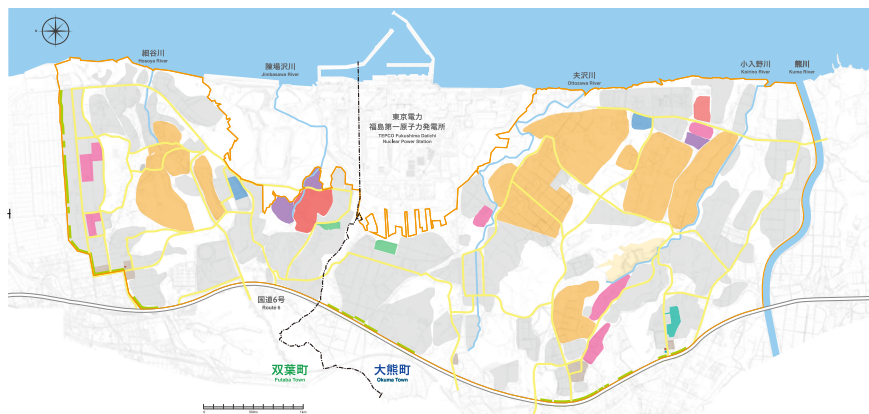
### 復興再生利用・県外最終処分

- 福島県内で発生した除去土壌等については、中間貯蔵開始後30年以内(2045年3月まで)に、福島県外での最終処分を完了するため、復興再生利用・最終処分の基準、今後の進め方等に基づき、着実に取り組んでいく。
- 再生利用の推進等に係る閣僚会議での議論を踏まえつつ、各府省庁と連携し、地元の御理解を得ながら、理解醸成の場としても活用しうる復興再生利用の案件創出、実用途における先行事例の創出に向けた検討を進める。
- 最終処分場の構造・必要面積等の複数選択肢を踏まえ、最新技術や知見に関する情報を収集しつつ、県外最終処分の管理終了、中間貯蔵施設内での取り出し・運搬、減容技術等の効率化・低コスト化、減容技術の組合せ、減容化後の処分方法、県外最終処分場に関する立地の技術的事項、最終処分対象物の放射能濃度と社会的受容性、地域とのコミュニケーションや地域共生のあり方、候補地選定のプロセス等を検討する。

### 理解醸成・情報発信

- 除去土壌等の県外最終処分の実現、復興再生利用の推進に向けて、その必要性・安全性等に対する全国民的な理解・信頼の醸成を進めること、特に、地元自治体、地域住民等による社会的受容性の段階的な拡大・深化を図ることを継続的に進める。
- 中間貯蔵事業情報センターや復興再生利用の現場等を有効に活用しつつ、現場視察・見学会の充実や地方自治体・関係省庁等との連携を推進し、より多くの方に福島の復興・環境再生の取組や地元の思いなどを発信する。

## ■ 中間貯蔵施設の配置図



| 主な施設配置                                    |                |
|-------------------------------------------|----------------|
| <span style="color: pink;">■</span>       | 受入・分別施設        |
| <span style="color: orange;">■</span>     | 土壌貯蔵施設         |
| <span style="color: blue;">■</span>       | 受入・分別施設建設予定地   |
| <span style="color: green;">■</span>      | 道路盛土実証事業       |
| <span style="color: teal;">■</span>       | 分析施設           |
| <span style="color: purple;">■</span>     | 廃棄物貯蔵施設        |
| <span style="color: lightgreen;">■</span> | 技術実証施設         |
| <span style="color: brown;">■</span>      | 監視員待機所         |
| <span style="color: red;">■</span>        | 仮設焼却施設・仮設灰処理施設 |
| <span style="color: grey;">■</span>       | スクリーニング施設      |
| <span style="color: lightgrey;">■</span>  | 保管場等           |
| <span style="color: yellow;">■</span>     | クリーンセンターふたば    |
| <span style="color: green;">■</span>      | 緑地帯            |
| <span style="color: yellow;">■</span>     | 輸送・運搬ルート       |

2026年3月19日時点

## 除去土壌等の処理の流れ



## 除去土壌等の輸送状況

福島県内の仮置場等で保管されている除去土壌等の中間貯蔵施設への輸送は、2015年3月のパイロット輸送から始まりました。ピーク時の2019年度は約406万m<sup>3</sup>もの大量輸送が行われ、2025年度も約22万m<sup>3</sup>の除去土壌等が仮置場から搬出されています。

2025年度末までの累計輸送量は約1,430万m<sup>3</sup>となりました。

2025年までに輸送が終了した自治体

2026年までに輸送が終了した自治体

※ 今後輸送が必要となるものが生じた場合は輸送する。



# 中間貯蔵事業

## 中間貯蔵施設区域の運営管理

当社は 2025 年度も中間貯蔵施設の安全かつ円滑な運営管理のため、以下の業務を実施しました。

### ①施設の運営管理業務

全ての土壌貯蔵施設の管理を行うとともに、輸送や土壌貯蔵に係る計画、実績の管理や、トラブル発生時における情報収集及び再発防止策の確認等を行いました。

### ②分析施設の運営管理業務

中間貯蔵施設区域内で採取した土壌、粉じん、地下水等について放射能濃度分析を行いました。

### ③監視員待機所の運営管理業務

中間貯蔵施設区域内で生じる異常事態・緊急事態に対して迅速に対応するため、監視員待機所を運営し、待機所建物や機器の維持管理を行いました。

### ④入退ゲート運営管理業務

区域内の安全を確保するため、中間貯蔵施設区域の車両入退出時の通行許可証と本人確認を徹底しつつ、迅速な入退出管理を行いました。

### ⑤スクリーニング施設運営管理業務

中間貯蔵施設区域の退出時に、輸送車両のスクリーニング（汚染検査）を行い、全車両が汚染のない状態であることを確認しました。

### ⑥建屋、付帯設備等の管理業務

テント建屋や付帯設備等の維持管理を行ったほか、効果的・効率的な維持管理方法を検討しました。

### ⑦保管場等の管理点検業務

保管場（除去土壌等を一時的に保管する場所）や分別物置場等について、巡視やカメラの設置等の防犯対策を実施するとともに、巡回や放射線測定、消防設備の点検、ドローンを活用した空撮点検等を行いました。

### ⑧取得用地・家屋等の管理・点検業務

環境省が取得した用地・家屋等について、巡視やカメラの設置等の防犯対策を実施するとともに、定期点検、危険物等の状況確認、取得物件の鍵の管理等を行いました。

### ⑨緑地等の管理業務

中間貯蔵施設区域の境界に設置された緑地等について、巡視、定期点検、盛土等の補修、草刈り、植栽の保全等を行いました。

### ⑩仮設納骨堂等の管理業務

仮設納骨堂の運営管理のほか、墓石置場や中間貯蔵施設区域内の家屋で見つかった思い出の品の保管場所について、管理等を行いました。



分析施設



ドローンを用いた点検の様子



巡視点検の様子



入退ゲート管理の様子



スクリーニングの様子



保管場の管理点検業務



モニターによる監視



仮設納骨堂の外観

## ■ 土壌貯蔵施設の維持管理

土壌貯蔵施設の維持管理業務は、貯蔵工事の完了以降、復興再生利用や県外最終処分等のために再び工事が開始されるまでの間、除去土壌の安全かつ安定的な貯蔵を目的として実施しています。

2024年度は8つの土壌貯蔵施設全ての維持管理を行っていましたが、特定帰還居住区域内の除染に伴う受入・分別施設の整備に対応するため、2025年度途中から当該施設整備区域となる一部の土壌貯蔵施設については、受注JV(施設整備事業者)へ管理を移管しました。

### ■ 引続き当社が維持管理する土壌貯蔵施設

環境省から管理を委託された土壌貯蔵施設について、除去土壌が安全に安定的に貯蔵されていることを定期的な巡視・点検や各種計測を行うことで確認しています。



大熊2工区 (R8.4.3 撮影)



大熊4工区 (R8.4.1 撮影)



双葉1工区東側 (R8.4.1 撮影)



双葉2工区 (R8.4.1 撮影)

### ■ 巡視・点検

週1回または月1回の巡視、年4回の通常点検のほか、震度4以上の地震後や大雨警報等気象警報解除後には都度、緊急点検を実施し異常の有無を確認しています。

雨水集排水設備(U字溝)に通水の支障となる刈草・土砂の堆積がある場合や、堰堤に構造上好ましくない樹木が生えてきた場合等は除去しています。

### ■ 沈下・変位量計測

施設の各部位の沈下・変位量から時系列的な変動傾向を把握・評価することを目的に、通常点検の一環として、月1回または年4回の頻度で計測を実施しています。

### ■ 除草

堰堤や被覆工の定期的な目視点検に支障をきたすことがないように、年3回施設の除草を実施しています。

### ■ 各種モニタリング

空間線量率や地下水・河川水等の環境モニタリングを実施しています。

ITVカメラ※によるリアルタイムでの現地状況の確認、録画による過去に遡った確認等も行っており、今後全土壌貯蔵施設へ展開するとともに、ITVカメラを活用した効果的・効率的な管理についても検討しました。

※「industrial television」の略称、監視カメラを意味する



通常点検の様子



堰堤に生えた樹木の除去

# 中間貯蔵事業

## 工事等発注支援・工事監督支援

### ①工事等発注支援業務

環境省が発注する各種工事等の発注図書案や、工事等の設計変更に係る積算根拠資料等の作成支援を行いました。

### ②工事監督支援業務

中間貯蔵施設区域における各種施設の整備や、福島県内各所の仮置場からの除去土壌等の積み出し工事等、環境省が発注する各種工事において、施工監理、工程管理、品質管理、安全管理、出来形管理、設計変更等の業務を支援しました。福島県内での積み出し工事の施工管理については、いわき市に設置している中間貯蔵管理センターの下に、檜葉オフィス、南相馬支所を設け、安全かつ効率的・効果的に実施しました。



施工プロセスチェック



除去土壌等の積み出し工事

## 輸送管理

### ①輸送統括管理業務

総合管理システムを用いて、輸送車両の仮置場等から中間貯蔵施設までの全行程を常に監視し、輸送車両の運行状況を把握するとともに、輸送対象物の全数管理等を行い安全な輸送管理を実現しました。異常等を察知した場合には、輸送実施計画等に基づく対応を行いました。

### ②総合管理システムの運用・改善業務

総合管理システムが安定して稼働するよう保守・運用、システム改善等を行いました。

### ③輸送運搬マネジメント業務

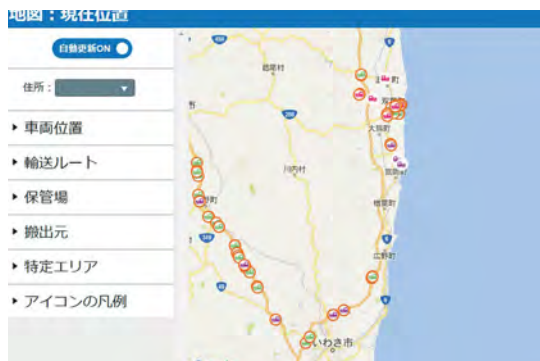
輸送・運搬に係る管理業務等に関する検討支援業務、輸送の実績・進捗の報告や特定復興再生拠点等からの搬出量集計等、輸送・運搬に係る管理業務の支援を実施しました。

### ④輸送車両の休憩施設、待機場所の管理業務

輸送車両が使用する高速道路の休憩施設、待機場所において、専用駐車場の巡視と維持管理を行いました。



輸送監視の様子



総合管理システムの監視画面

## 技術的課題への対応、減容・復興再生利用技術開発

### ①技術実証フィールド（大熊町）及び技術実証施設（双葉町）の運営

除去土壌等の減容・復興再生利用や県外最終処分を効率的に進めるための技術開発を行うことを目的に、技術実証に係る施設を整備し、運営しています。



技術実証フィールド全景（2026年4月1日時点）

### ②溶融飛灰の処理・処分に係る試験（国立環境研究所との共同研究）

仮設灰処理施設で発生する溶融飛灰を埋立処分する可能性を検討するため、国立環境研究所と共同で、セメントを用いて飛灰を固型化する技術を開発しました。溶融飛灰の組成を分析するとともに、固型化後の強度等を測定し、溶融飛灰とセメント等の適切な配合比率を検討しました。



国立環境研究所にて、飛灰の混練作業を実施（管理区域）



飛灰の固型化体の例 ※粘着テープの幅は約5cm

このほかにも、当社では減容・復興再生利用に関する除去土壌の強度改善試験や、溶融スラグの環境安全性確認試験を実施しました。

## 環境安全管理

### 環境安全管理統括者のごあいさつ

当社が実施する中間貯蔵事業は、土壌貯蔵施設をはじめとした中間貯蔵施設の維持管理のほか、政府が推し進める復興再生利用の支援や中間貯蔵事業情報センターを拠点とした理解醸成の取組など、多岐に渡ります。いずれも福島県の復興に直結する重要な事業であり、社会的な期待と責任の大きさを強く認識しつつ、国から委託された本事業を適切かつ確実に実施する必要があります。

当社は、環境保全、保安防災および労働安全衛生を経営の基盤と位置づけ、事業活動において環境と安全を最優先に取り組んでいます。具体的には、中間貯蔵事業環境安全管理システムを構築し、環境安全方針に基づき目標等を定め、環境負荷の低減、安全な事業の確立、保安防災活動の改善等を図りつつ環境安全活動の継続的な改善を進めています。

今後も、地域住民、地元自治体等のみなさまの理解と信頼の確保に努めつつ、中間貯蔵事業を安全・確実に遂行してまいります。



環境安全管理統括者  
中間貯蔵事業部長  
清丸 勝正

# 中間貯蔵事業

当社では、中間貯蔵事業環境安全方針に基づき実施計画を策定するとともに、手順や記録の作成・管理、教育訓練、活動状況の確認などを通じて、中間貯蔵事業における環境安全活動の維持・改善を図るための仕組みである環境安全管理システムを構築し運用しています。

## ■ 環境安全方針と 2025 年度の環境安全目的・目標

| 環境安全方針                                                                  | 2025 年度の環境安全目的     | 2025 年度の環境安全目標                                                                      | 2025 年度の対応する業務                               |
|-------------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 1. 環境と安全を優先し、環境負荷の低減を推進するとともに、中間貯蔵施設の適正な維持管理を含めた安全な事業の確立及び保安防災活動の改善を図る。 | ●組織的な環境安全のガバナンスの強化 | ●中間貯蔵事業環境安全管理システムの着実な運用、法令・内部規則の遵守<br>●組織的な環境安全意識の向上                                |                                              |
| 2. 作業環境の改善に努め、無事故・無災害を達成する。                                             | ●中間貯蔵事業の安全の確保      | ●労働安全の確保<br>●施設の維持管理による設備保全<br>●放射線業務管理規程に基づく安全の確保<br>●情報発信・理解醸成の場における来館者・見学者の安全の確保 | ●26 ページ参照<br>●22、23 ページ参照<br>●22、26、27 ページ参照 |
| 3. 環境安全関連の法令、協定及び各種の技術的基準を順守する。                                         | ●事業を通じた環境の保全       | ●環境に配慮した事業実施、環境負荷の低減                                                                | ●23、29 ページ参照                                 |
| 4. 環境安全管理システムを構築・実践し、環境安全活動を継続的に改善する。                                   | ●緊急異常事態等の対応力の強化    | ●緊急異常事態等の発生時の迅速かつ的確な対応                                                              |                                              |
| 5. 環境安全活動に関わる情報を積極的に開示し、地域住民、地元自治体、国等のステークホルダーの理解と信頼の確保に努める。            | ●地域・社会の一員としての事業運営  | ●迅速・正確な情報発信<br>●地域・社会の理解と信頼を増進する取り組み実施                                              | ●27、37、39 ページ参照<br>●35、37 ページ参照              |

(注) 環境安全方針は 2025 年 2 月 27 日改正。PCB 処理事業においても、別途、環境安全方針（18 ページ参照）等を定めています。

| 社内管理体制    | 議長／委員長       | メンバー                       | 主な役割                                |
|-----------|--------------|----------------------------|-------------------------------------|
| 環境安全会議    | 社長           | 経営幹部会議メンバー<br>中間貯蔵管理センター所長 | ●環境安全管理システムの構築・見直し<br>●環境安全方針の決定・改定 |
| 環境安全推進委員会 | 環境安全管理統括者    | 環境安全管理推進者                  | ●環境安全管理システムの運用<br>●環境安全目標等の策定       |
| 安全衛生委員会   | 中間貯蔵管理センター所長 | 安全衛生管理者、産業医<br>労働者代表他      | ●災害・事故の共有と再発防止                      |
| 安全衛生協議会   | 中間貯蔵管理センター所長 | 総括監督者（所長）<br>協力会社総括管理者等    | ●当社及び協力会社従業員の安全と健康の確保               |

また、従業員が特定線量下業務※に従事する際には、放射線による健康障害を防止するため、「特定線量下業務に従事する労働者の放射線障害防止のためのガイドライン」や社内規程に基づき、放射線測定器（個人線量計）を胸部（男性）あるいは腹部（女性）に装着し、外部被ばくの測定を実施しました。

※平均空間線量率が毎時 2.5 マイクロシーベルトを超える場所で行う除染等業務以外の業務

## ■ 中間貯蔵施設区域内に入域する際の安全教育

当社及び協力会社の従業員に対して、法令に基づき中間貯蔵施設区域内に入域する前に、入域する場所及び業務を実施する場所でのルールや注意事項に関する入所時安全教育を実施しました。また、さらに、毎月「交通安全たより」を発行し、当社及び協力会社の従業員へ周知しています。



交通安全たより



入所時安全教育

## ■ 輸送工事新規運転者の研修及び各種工事従業者の安全研修

安全かつ確実な輸送の実現のため、新たに従事する車両の運転者とその運行管理者に対して、中間貯蔵事業の概要、放射線の基礎知識、交通安全対策、緊急時の対応策等について研修を実施しました。2025年度は2回の研修により、運転者10名、管理者2名が受講しました。

また、解体工事などの各種工事に従事する作業員や運転者に対して、事故防止を目的とした安全研修を実施し、交通安全については警察署に講義を依頼しました。2025年度は15回の研修により、作業員596名、運転者175名が受講しました。



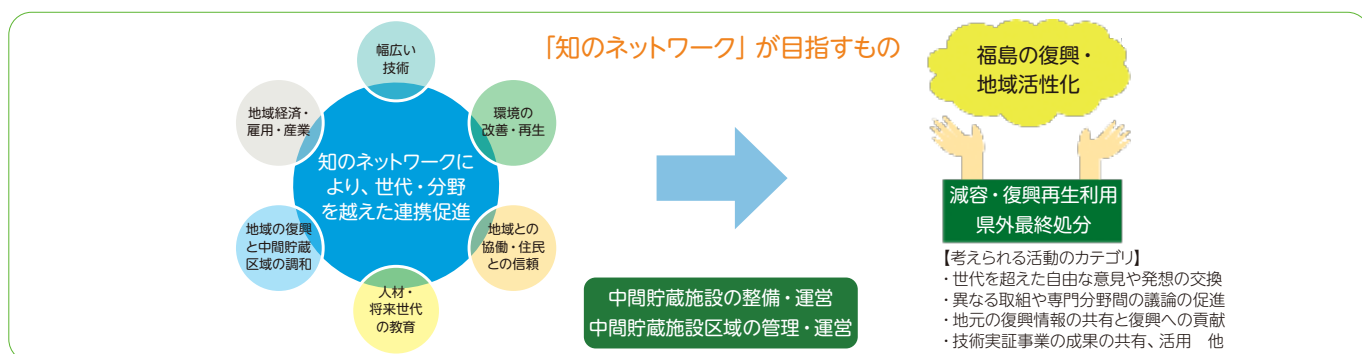
作業員安全研修

## 減容化・再生利用と復興を考える「知のネットワーク」

「知のネットワーク」は、中間貯蔵事業や復興に向けた調査・検討・研究・技術開発に携わる産官学の方々のゆるやかなネットワークであり、県外最終処分に向け、減容・復興再生利用等に関する様々な話題を語り合う場を提供しています。



共同開催



「知のネットワーク」の活動として、ニューズレターを年4回発行するほか、連携・協力を推進する協定を当社と締結している環境放射能除染学会 (SRRCE) と共同で事務局を担い、2025年度は以下の会合を開催しました。

### 第11回 減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク会合 ～第14回環境放射能除染研究発表会企画セッション～ (2025年8月28日／パルセいいざかと Web とのハイブリッド開催)

▶ 開会挨拶 鎌形 浩史 (中間貯蔵・環境安全事業株式会社社長)

▶ 理解醸成活動～福島から全国へ～ 進行:清丸 勝正 (中間貯蔵事業部部長)

講演1「環境省が行う理解醸成活動の取組」 中野 哲哉 (環境省環境再生・資源循環局)

講演2「飯館村長泥地区における復興再生利用に向けた実証事業と理解醸成の取組」 岸 秀蔵 (福島地方環境事務所 中間貯蔵部 復興再生利用企画課)

講演3「東日本大震災・原子力災害伝承館の取組」 清水 一郎 (東日本大震災・原子力災害伝承館 副館長)

講演4「福島県のホープツーリズムの取組」 八巻 久美 (公益財団法人福島県観光物産交流協会)

講演5「福島第一原子力発電所から7キロの場所の豊かな暮らし」 佐藤 亜紀 (HITOkumalab代表)

講演6「中間貯蔵事業情報センターの取組等」 飯沼 秀敏 (中間貯蔵管理センター 地域連携・広報課)

総合討議 進行:森 朋子 (立教大学 環境学部開設準備室)

▶ 閉会挨拶 佐藤 理夫 (環境放射能除染学会会長)



### 第12回 減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク会合 ～第22回環境放射能除染学会「復興再生利用・最終処分に向けた産学官をつなぐ技術ネットワークの構築」～ (2026年1月22日／日比谷コンベンションホールと Web とのハイブリッド開催)

▶ 開会挨拶 鎌形 浩史 (中間貯蔵・環境安全事業株式会社社長)

▶ 講演会 進行:今井 啓祐 (中間貯蔵事業部次長)

講演1「福島県内除去土壌等の県外最終処分に向けた取組」 村岡 諒平 (環境省環境再生・資源循環局)

講演2-1「記憶の記録の重要性と学の役割」 遠藤 和人 (国立環境研究所 福島地域協同研究拠点)

講演2-2「除去土壌等の最終処分に向けた再生利用・減容化の取組みへの期待」 川瀬 啓一 (国立研究開発法人日本原子力研究開発機構)

講演3-1「VOREWSの10年の取り組みと今後について」 松尾 寿峰 (除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合 (VOREWS))

講演3-2「除染・廃棄物技術協議会の取組事例、及び今後の産官学連携への期待」 篠崎 剛史 (株式会社三菱総合研究所)

講演4「JESCOのこれまでの技術的取組及び新たな技術ネットワークの提案」 宮林 哲司 (中間貯蔵事業部 技術課)

▶ 総合討議テーマ 復興再生利用・最終処分に向けた産学官をつなぐ技術ネットワークについて 座長:大迫 政浩 (国立環境研究所／環境放射能除染学会理事長)

▶ 閉会挨拶 佐藤 理夫 (環境放射能除染学会会長)



## 当社と取引先との関係

当社は、公正性、公平性及び透明性の確保についてはもちろんのこと、品質や価格だけでなく、持続可能な社会の構築に貢献するため、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という）の趣旨に鑑み、環境物品等の優先的購入に努めています。また、取引先の皆様へグリーン購入の推進へのご協力や安全対策の徹底等をお願いするなど、バリューチェーンを意識した取組を進めました。

### ■ 当社の調達方針

公正性、公平性及び透明性を図るため、一般競争入札等の入札公告や契約規程等をホームページで公表するとともに、グリーン購入法の趣旨に照らして、各年度当初に「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、環境負荷の少ない製品やサービスを優先して購入する取組を行っています。「環境物品等の調達の推進を図るための方針」及び「環境物品等の調達実績の概要」については、ホームページ上で公表しています。

URL：<https://www.jesconet.co.jp/company/environment/purchase.html>

### ■ 取引先における安全教育

PCB処理事業所では、当社と取引先となる運転会社、協力会社が、ともに安全意識を向上し、安全確実な作業を遂行するために、「安全大会」や、「安全衛生協議会」を開催しています。また、新規に現場に入る作業従事者に対しては、入構教育等を行い、労災トラブル事例を配布するなど、注意喚起を行っています。

中間貯蔵事業の実施にあたっては、当社と協力会社の間で安全衛生協議会を組織し、同協議会の場で環境省から指示された安全対策強化等の内容周知、当社と協力会社双方の対策の情報交換等を3か月ごとに実施しています。



定期点検時の安全教育

### ■ 取引先作業従事者への配慮

2025年度も、健康管理と感染症予防のため、引き続き各職場や施設の出入り口に消毒液等を設置しました。この他、夏期は安全対策として当社の他、協力会社の作業従事者の熱中症対策を徹底しています。例えば、大阪PCB処理事業所の夏期定期点検では、作業従事者が身体を冷やせるよう、冷房設備と冷蔵庫を設置した休憩所を作り、北海道PCB処理事業所では運転会社に、アイスベストを着用してもらいました。

また、中間貯蔵事業（技術実証フィールド）においては、「除染電離則ガイドライン」が示す飲食可能な場所を明確にし、適切な場所で、作業従事者が飲食、休憩をとれるように配慮しています。



アイスベスト  
北海道 PCB 処理事業所



飲食可能な場所への掲示  
技術実証フィールド

## 循環型社会形成への取組

### ■ 産業廃棄物の抑制と環境負荷低減

事業活動で発生する処理済残渣や部材は、外部払出（有価物・産業廃棄物）の他、一部は自社処理による無害化を行っています。この他各種取組による環境負荷の低減に努めています（33ページ参照）。

### ■ 廃棄物の分別推進等の取組

当社では、本社オフィスにおける環境負荷削減策として「エコライフ作戦」への協力を呼び掛けています。節電や、マイカップ、マイバッグの持参を呼びかけているほか、個人ごみ箱の廃止とともに紙資源、びん・缶・PET ボトル、廃プラスチック用の分別ボックスを設置し、分別を実施しています。また、2022年4月1日の「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の施行を踏まえ、2022年度よりプラスチックごみの排出量の把握を行っています。

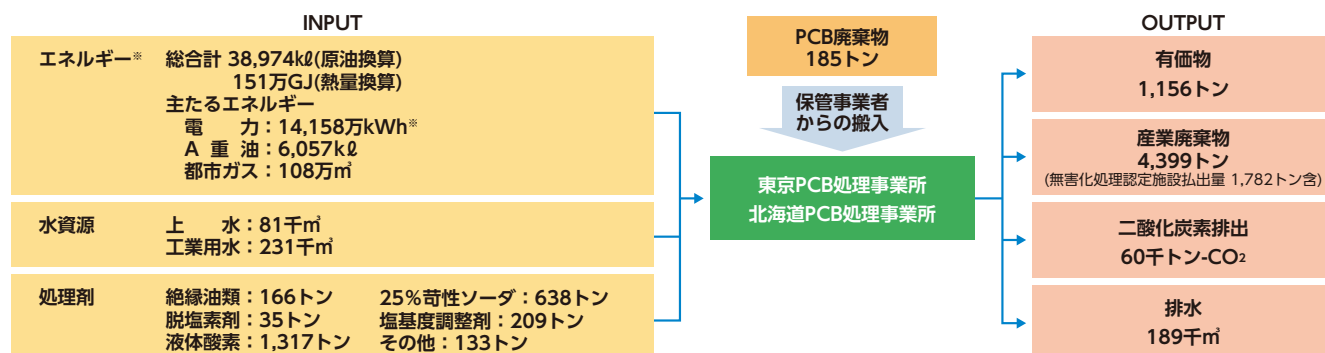


分別ごみ  
(本社執務室内設置)

## ■ 主な環境負荷

PCB廃棄物の処理に伴う、2025年度の主な環境負荷の状況は下図のとおりです。

(エネルギー及び二酸化炭素排出については 32 ページ参照。)



※電気のCO<sub>2</sub>排出係数については、北海道PCB処理事業所は購入元に確認した値、それ以外のPCB処理事業所等は国が公表する各年度の「電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について」の調整後排出係数を用いて算出しています。

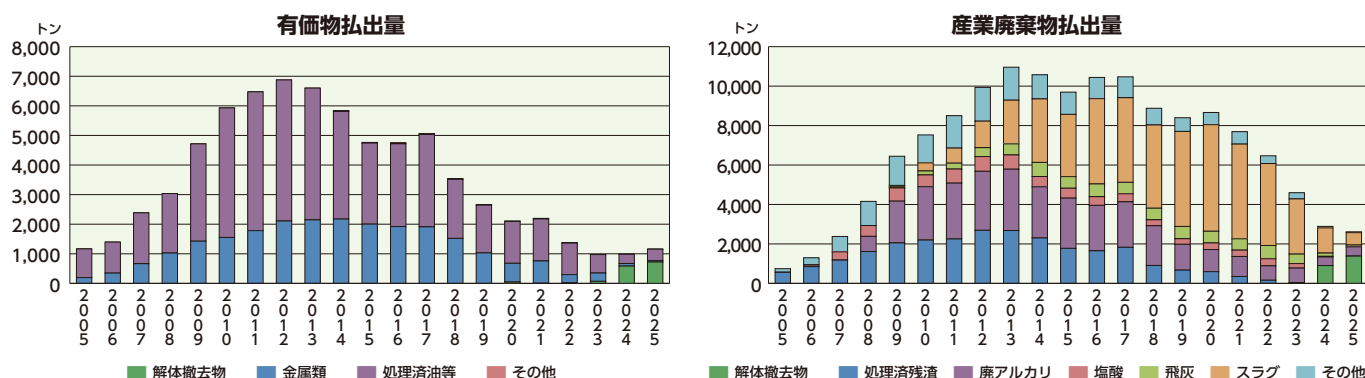
なお、上記環境負荷のうち、エネルギーと二酸化炭素排出量は5PCB処理事業所の他、オフィス部門である本社、PCB処理事業及び中間貯蔵事業に係る各情報センター等、中間貯蔵施設区域（20ページの中間貯蔵施設の配置図のオレンジ線内）における当社管理施設を含めています。

## ■ 有価物及び産業廃棄物の払出

当社では、PCB無害化処理を行った後、金属類や処理済油等の有価物は売却、産業廃棄物は社外に処理委託し、処理済残渣や碍子等の産業廃棄物も熱源やセメント補助原料、再生砕石等として再資源化を行うことで、埋立処分量の最小化を推進しています。

例えば、北海道PCB処理事業所におけるプラズマ熔融処理後の残渣（スラグ）は、以前は直接埋立処分をしていましたが、2015年度から再資源化可能な事業者へ処理を委託し、金属類を回収することにより埋立処分減量に努めています。

2025年度までの有価物及び産業廃棄物の払出量実績は以下のとおりです。西日本のPCB処理事業所（北九州、豊田及び大阪）の解体撤去工事が進んでおり、解体撤去物の払出量は増えています。



## ■ PRTR法に基づく届出

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）及び地元の関係自治体の条例と指導に基づき、各PCB処理事業所がそれぞれ取扱化学物質の排出・移動量等の届出を行っています。北九州PCB処理事業所は3物質、東京PCB処理事業所は3物質、北海道PCB処理事業所は33物質<sup>※1</sup>についての排出量及び移動量の届出を行っています。各PCB処理事業所において共通の届出物質である、分析に使用するノルマルヘキサンの取扱量及び排出・移動量は下表のとおりです。なお、豊田PCB処理事業所、大阪PCB処理事業所については、特別管理産業廃棄物処理業の廃止により、2025年度より地元の関係自治体への届出は対象外となりました。

ノルマルヘキサンの取扱量と排出・移動量（2025年度）<sup>※2</sup>（単位：kg）

| 排出・移動量等    | 北九州 | 豊田 <sup>※4</sup> | 東京              | 大阪 <sup>※4</sup> | 北海道   |
|------------|-----|------------------|-----------------|------------------|-------|
| 取扱量        | 441 | —                | 830             | —                | 1,000 |
| 大気への排出量    | 11  | —                | 0 <sup>※3</sup> | —                | 300   |
| 廃棄物としての移動量 | 430 | —                | 0 <sup>※3</sup> | —                | 700   |
| その他の排出・移動量 | 0   | —                | 0               | —                | 0     |

※1 北海道PCB処理事業所では法に定める「特別要件施設」に該当するとの行政からの指導により、届出物質数が多くなっています。

※2 排出・移動量は、当社共通の方法を用いて算出しました。

※3 東京PCB処理事業所においては、排ガス測定の結果が検出限界値以下のため、大気への排出量はゼロとしています。  
また、廃油を水熱酸分解方式により所内で処理しているため、移動量はゼロとなっています。

※4 豊田PCB処理事業所及び大阪PCB処理事業所は、特別管理産業廃棄物処理業の廃止により、2025年度より自治体への届出対象外となったため、「-」としています。

## 有害化学物質等のモニタリング

### PCB処理事業

当社では、PCB及びダイオキシン類が施設の建物外部に流出・排出する場合等を「重大環境汚染事故」と位置づけ、その未然防止に取り組んでいます。当社の各PCB処理事業所から排出される排気・排水等については、特に監視が必要と考えられる場所において排出源及び周辺環境のモニタリングを行っています。各PCB処理事業所におけるモニタリングの実施状況については下表のとおりです。

なお、一部の測定項目についてはオンラインモニタリングも実施しながら、自主管理目標値を超えないように常に監視しています。また、これらの結果は各PCB処理事業所の情報公開ルームなどで公開しています。さらに、各PCB処理事業所によるモニタリングに関しては、計画とその結果を当社のホームページにそれぞれ掲載しています。

URL：https://www.jesconet.co.jp/business/index.html  
「全国5PCB処理事業所のご案内」のPCB処理事業所ごとに、「環境・安全対策について」の「環境保全協定」に掲載（大阪PCB処理事業所は「環境保全の確保について（通知）」の「環境モニタリング計画」として掲載）。

### 2025年度 各PCB処理事業所における排出源及び周辺環境のモニタリング実績

各表中の測定実績回数は、特に明記したものを除いて環境保全協定等に基づく年間の回数を示しています。

#### 北九州PCB処理事業所

|      | 要素               | 地点                       | 項目       | 測定実績回数           | 測定結果 |
|------|------------------|--------------------------|----------|------------------|------|
| 排出源  | 排気 <sup>*1</sup> | 排気・換気出口（1期施設1箇所、2期施設3箇所） | PCB      | 4回               | 異常なし |
|      |                  |                          | ダイオキシン類  | 2回 <sup>*2</sup> |      |
|      |                  | 排気・換気出口（2期施設3箇所）         | ベンゼン     | 3回               |      |
|      | 排水               | 下水排水渠（1箇所）               | PCB      | 2回               | 異常なし |
|      | 雨水               | 敷地出口（1箇所）                | PCB      | 1回               | 異常なし |
|      |                  |                          | ダイオキシン類  |                  |      |
|      |                  |                          | アセトアルデヒド |                  |      |
| 周辺環境 | 悪臭               | 敷地境界（風上風下2箇所）            | トルエン     | 1回               | 異常なし |
|      |                  |                          | キシレン     |                  |      |
|      |                  |                          | 騒音レベル    |                  |      |
|      | 騒音               | 敷地境界（東西南北4箇所）            | 騒音レベル    | 1回               | 異常なし |
|      | 大気               | 敷地南西端（1箇所）               | PCB      | 4回               | 異常なし |
|      |                  |                          | ダイオキシン類  |                  |      |
|      |                  |                          | ベンゼン     |                  |      |
|      | 水質（海水）           | 雨水洞海湾出口沖（1箇所）            | PCB      | 4回               | 異常なし |
|      | 地下水              | 雨水敷地出口付近（1箇所）            | ダイオキシン類  |                  |      |
|      |                  |                          | PCB      |                  |      |
| 周辺環境 | 土壌               | 雨水敷地出口付近（1箇所）            | ダイオキシン類  | 1回               | 異常なし |
|      |                  |                          | PCB      |                  |      |
|      |                  |                          | ダイオキシン類  |                  |      |
|      | 底質               | 雨水洞海湾出口沖（1箇所）            | PCB      | 1回               | 異常なし |
|      | 生物 <sup>*3</sup> | 雨水洞海湾出口付近（1箇所）           | PCB      |                  |      |

※1 1期施設、2期施設ともに解体に向けて設備停止時点でモニタリング終了。  
※2 モニタリング計画は2回/年であるが、3回/年の設備有。  
※3 調査対象はムササギンコガイまたはカメノテ（学名:Capitulum mitella）。

#### 豊田PCB処理事業所

|      | 要素    | 地点                          | 項目         | 測定実績回数 | 測定結果 |
|------|-------|-----------------------------|------------|--------|------|
| 排出源  | 排気    | 排気出口（3箇所）                   | PCB        | 4回     | 異常なし |
|      |       |                             | ダイオキシン類    |        |      |
|      |       | 排気出口（2箇所）                   | ベンゼン       | 4回     | 異常なし |
|      |       |                             | ばいじん       |        |      |
|      | 排水    | 最終放流敷地出口（1箇所）               | NOx        | 4回     | 異常なし |
|      |       |                             | PCB        |        |      |
|      |       |                             | ダイオキシン類    |        |      |
|      |       |                             | pH         |        |      |
|      |       |                             | SS         |        |      |
|      |       |                             | BOD        |        |      |
|      |       |                             | COD        |        |      |
|      |       |                             | 全窒素        |        |      |
|      |       |                             | 全燐         |        |      |
|      |       |                             | n-ヘキサン抽出物質 |        |      |
|      |       | 浄化槽出口（1箇所）                  | pH         | 2回     | 異常なし |
|      |       |                             | SS         |        |      |
|      |       |                             | BOD        |        |      |
| 周辺環境 | 騒音・振動 | 騒音：敷地境界（東西2箇所）<br>振動：北側敷地境界 | 騒音レベル      | 1回     | 異常なし |
|      |       |                             | 振動レベル      |        |      |
|      | 悪臭    | 排気出口（5箇所）及び敷地境界（風下1箇所）      | アセトアルデヒド   | 1回     | 異常なし |
|      |       |                             | トルエン       |        |      |
|      |       |                             | キシレン       |        |      |
|      | 大気    | 敷地境界（風下1箇所）                 | PCB        | 4回     | 異常なし |
|      |       |                             | ダイオキシン類    |        |      |
|      |       |                             | ベンゼン       |        |      |
|      | 土壌    | 施設内（処理施設南側1箇所）              | PCB        | 1回     | 異常なし |
|      |       |                             | ダイオキシン類    |        |      |
| 周辺環境 | 地下水   | 敷地内井戸（1箇所）                  | PCB        | 2回     | 異常なし |
|      |       |                             | ダイオキシン類    |        |      |

#### 東京PCB処理事業所

|      | 要素 | 地点                  | 項目          | 測定実績回数           | 測定結果 |
|------|----|---------------------|-------------|------------------|------|
| 排出源  | 排気 | 排気出口（2箇所）           | PCB         | 4回 <sup>*4</sup> | 異常なし |
|      |    |                     | ダイオキシン類     |                  |      |
|      |    | 換気出口（2箇所）           | イソプロピルアルコール | 2回 <sup>*5</sup> | 異常なし |
|      | 排水 | 洗浄槽及びIPA蒸留装置排気を含む出口 | PCB         | 2回               | 異常なし |
|      |    |                     | PCB         | 4回 <sup>*4</sup> | 異常なし |
|      |    |                     | ダイオキシン類     |                  |      |
|      |    |                     | pH          |                  |      |
|      |    |                     | SS          |                  |      |
|      |    |                     | BOD         |                  |      |
|      |    |                     | 全窒素         |                  |      |
| 周辺環境 | 雨水 | 敷地内雨水樹（3箇所）         | n-ヘキサン抽出物質  | 12回（月1回）         | 異常なし |
|      |    |                     | 全燐          |                  |      |
|      |    |                     | 亜鉛          |                  |      |
|      | 大気 | 敷地北西端、南東端（2箇所）      | PCB         | 1回 <sup>*6</sup> | 異常なし |
|      |    |                     | ダイオキシン類     |                  |      |
|      |    |                     | PCB         | 1回 <sup>*7</sup> | 異常なし |
|      |    |                     | ダイオキシン類     |                  |      |

※4 環境保全協定における測定頻度は4回/年。現在は自主測定として毎月実施。  
※5 環境保全協定における測定頻度は2回/年。現在は自主測定として4回/年実施。  
※6 環境保全協定における測定頻度は1回/年。現在は自主測定として2回/年実施。  
※7 環境保全協定における測定頻度は1回/年。現在は自主測定として4回/年実施。



環境水質サンプリング状況  
（豊田PCB処理事業所）



環境大気サンプリング状況  
（豊田PCB処理事業所）

## 大阪PCB処理事業所

|      | 要素    | 地点                                  | 項目       | 測定実績回数 | 測定結果 |
|------|-------|-------------------------------------|----------|--------|------|
| 排出源  | 排気    | ボイラー排気口<br>(2025年7月まで<br>1箇所、8月に廃止) | NOx      | 1回     | 異常なし |
|      |       |                                     | ばいじん     | 1回     | 異常なし |
|      |       | 排気出口 (21箇所) (2025<br>年11月から 16箇所)   | PCB      | 2回     | 異常なし |
|      |       |                                     | ダイオキシン類  | 2回     | 異常なし |
|      |       |                                     | 塩化水素     | 2回     | 異常なし |
|      | 汚水    | 最終枿付近 (5箇所)                         | ベンゼン     | 2回     | 異常なし |
|      |       |                                     | PCB      | 1回     | 異常なし |
|      | 雨水    | 最終枿付近 (6箇所)                         | ダイオキシン類  | 1回     | 異常なし |
|      |       |                                     | PCB      | 1回     | 異常なし |
|      | 悪臭    | 敷地境界 (2箇所)                          | アセトアルデヒド | 1回     | 異常なし |
|      |       |                                     | トルエン     |        | 異常なし |
|      |       | 真空加熱分離系統の<br>排気出口 (1箇所)             | 臭気指数     |        | 異常なし |
|      |       |                                     | アセトアルデヒド |        | 異常なし |
|      |       |                                     | トルエン     |        | 異常なし |
| 周辺環境 | 騒音・振動 | 敷地境界<br>(東西南北4箇所)                   | 騒音レベル    | 1回     | 異常なし |
|      |       |                                     | 振動レベル    |        |      |
|      | 大気    | 西棟東側敷地内、<br>事業所南側敷地外<br>(各1箇所)      | PCB      | 4回     | 異常なし |
|      |       |                                     | ダイオキシン類  |        |      |

## 北海道PCB処理事業所

|            | 要素                                          | 地点                                  | 項目                   | 測定実績回数 | 測定結果 |
|------------|---------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------|--------|------|
| 排出源        | 排気                                          | 処理系統の排気出口<br>(当初施設5箇所、増設施設2箇所)      | PCB                  | 4回     | 異常なし |
|            |                                             |                                     | ダイオキシン類              |        | 異常なし |
|            |                                             | 換気空調設備及び分析設備の排気出口 (当初施設2箇所、増設施設2箇所) | ベンゼン                 | 4回     | 異常なし |
|            |                                             | 処理系統の排気出口<br>(増設施設2箇所)              | ばいじん                 | 4回     | 異常なし |
|            |                                             |                                     | SOx                  |        |      |
|            |                                             |                                     | NOx                  |        |      |
|            |                                             |                                     | 塩化水素                 |        |      |
|            |                                             | ボイラー排気口<br>(当初施設2箇所)                | 水銀                   | 2回     | 異常なし |
|            |                                             |                                     | ばいじん                 |        |      |
|            | SOx                                         |                                     |                      |        |      |
|            | 排水                                          | 浄化槽処理水<br>(当初施設1箇所、増設施設1箇所)         | NOx                  | 2回     | 異常なし |
|            |                                             |                                     | pH                   |        |      |
|            |                                             |                                     | SS                   |        |      |
| BOD        |                                             |                                     |                      |        |      |
| COD        |                                             |                                     |                      |        |      |
| 全窒素        |                                             |                                     |                      |        |      |
| 全燐         |                                             |                                     |                      |        |      |
| n-ヘキサン抽出物質 |                                             |                                     |                      |        |      |
| 騒音・振動      |                                             |                                     | 敷地境界東側の北端<br>(共通1箇所) |        |      |
|            |                                             | 振動レベル                               |                      |        |      |
| 悪臭         | 処理系統の排気出口<br>(当初施設1箇所)<br>敷地境界 (測定当日の風下1箇所) | アセトアルデヒド                            | 1回                   | 異常なし   |      |
|            |                                             | トルエン                                |                      |        |      |
|            |                                             | キシレン                                |                      |        |      |
|            |                                             | プロピオン酸                              |                      |        |      |
|            |                                             | ノルマル酪酸                              |                      |        |      |
| 周辺環境       | 大気                                          | 敷地境界東側の南端及びPCB処理情報センター (共通2箇所)      | PCB                  | 4回     | 異常なし |
|            |                                             |                                     | ダイオキシン類              |        |      |
|            |                                             |                                     | ベンゼン                 |        |      |
|            | 水質                                          | 雨水幹線排水路合流前 (共通1箇所)                  | PCB                  | 6回     | 異常なし |
|            |                                             |                                     | ダイオキシン類              |        |      |
|            | 底質                                          | 雨水幹線排水路上流及び下流 (共通2箇所)               | PCB                  | 1回     | 異常なし |
|            |                                             |                                     | ダイオキシン類              |        |      |



最終放流枿排水  
サンプリング測定状況  
(東京 PCB 処理事業所)



環境大気サンプリング状況  
(北海道 PCB 処理事業所)

## ■ 中間貯蔵事業

### モニタリング

中間貯蔵事業では、除染に伴い発生した土壌等を扱うことから、放射線量率等のモニタリングを確実にを行い、安全性を確認することが大切です。

#### ① 中間貯蔵施設におけるモニタリング

中間貯蔵施設区域内に設置された各種施設 (土壌貯蔵施設、廃棄物貯蔵施設、保管場等) 41 箇所において放射線モニタリングを行っているほか、国道6号との区域境界2箇所ではリアルタイムダスト放射線モニタリングを行うとともに、大気中のダストを捕集し、その放射能濃度の測定を当社が管理、運営する分析施設で行っています。

作業に伴い粉じんの発生が懸念される土壌貯蔵施設等については、作業中に大気中の放射能濃度、放射線量率等及び粉じん濃度の測定を行っています。

さらに、各種施設周辺に設置した観測井 (56 施設、90 箇所) において、地下水を月1回採水し、分析施設において放射能濃度の測定を実施しています。

これら一連の測定結果を確認したところ、異常な放射線量率等の上昇等は認められませんでした。



放射線モニタリング装置による測定

#### ② 輸送路沿道におけるモニタリング

除去土壌等の輸送車両が走行することによる輸送路沿道の環境への影響を確認するため、道路方向からの放射線量率等の変化を連続的に測定し、輸送車両の通過に伴って受ける放射線被ばく線量の評価を行っています。

また、輸送路沿道において、大気質 (窒素酸化物、浮遊粒子状物質濃度、降下ばいじん量等) や騒音・振動の測定を実施し、輸送車両の走行に伴う周辺環境への影響について確認しています。さらに、輸送路の主要な交差点においては、輸送車両の走行が交通環境に与える影響を把握するため、交通量調査や渋滞調査等を実施しています。

これらの測定結果から、輸送の実施に伴う輸送路沿道への影響はほとんど見られませんでした。

当社では、中間貯蔵施設区域内や輸送路沿道における各種モニタリング結果を取りまとめ、ホームページを通じて公表しています。



輸送路環境影響調査の状況

※本節に記載の測定箇所数は、2025年度の実績です。

URL : <https://www.jesconet.co.jp/interim/operation/index.html>



## 省エネルギー・地球温暖化対策

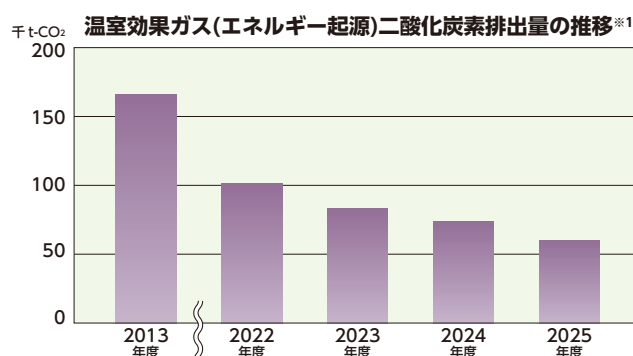
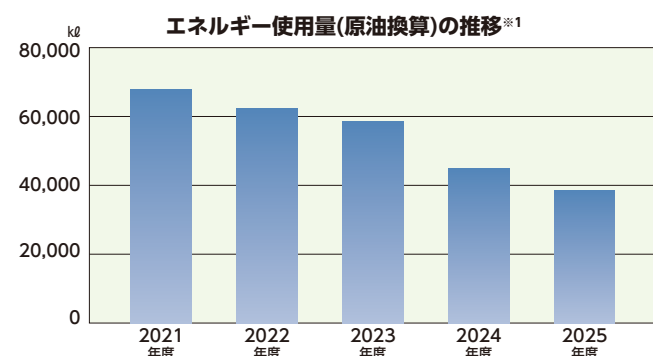
当社の各PCB処理事業所の設備は、電力使用量が多いことから、全PCB処理事業所が「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（以下「省エネ法」という）」に基づき、第1種エネルギー管理指定工場等に指定されています。各事業所では省エネ法に基づく中長期計画を策定、実行し、省エネ対策を実施しています。

また、地球温暖化対策を全社で推進するため、社長を本部長とし、各PCB処理事業所長と中間貯蔵管理センター所長等をメンバーとする「地球温暖化対策推進本部」と地球温暖化対策の実務担当者からなる「地球温暖化対策推進委員会」を組織しています。2025年10月、「中間貯蔵・環境安全事業株式会社における温室効果ガス排出抑制のための実施計画」を見直し、2030年度までに温室効果ガス排出量90%以上削減（2013年度比）を目標として様々な対策を進めています。

2025年度は、全社のエネルギー使用量（原油換算）は約39.0千kℓで、前年度比で12.9%減少しました。省エネ法に基づき毎年1%以上の改善を目標とするエネルギー使用原単位については、これまでPCB廃棄物処理量あたりで算出していましたが、2026年3月末に東京及び北海道のPCB処理事業所が操業を終了し、5ヶ所全ての事業所が解体撤去フェーズに移行したことを踏まえ、監督省庁である関東経済産業局にご指導いただきながら、延べ床面積あたりで算出することとしました（過去分の原単位も算出しなおしています）。新しい算出方法でのエネルギー使用原単位の全社合計は、前年度比13%減少し、これはPCB廃棄物処理完了に伴い、エネルギー使用量が減少したことによるものです。過去5年間で平均19.7%減少しており、中長期計画書で目標とする年平均1%以上を維持しています。

また、2025年度全社の温室効果ガス（エネルギー起源二酸化炭素）排出量についても、PCB廃棄物処理完了と再生可能エネルギー電力の導入等により、約60千トン・CO<sub>2</sub>/年（調整後排出係数を使用）となり、前年度比18.7%減少、2013年度比63.7%減少しました。

今後も引き続き、各PCB処理事業所における安全な解体撤去の推進に努め、さらなる省エネ活動及び地球温暖化対策を推進していきます。



|                                   | 2021    | 2022    | 2023    | 2024    | 2025    | 2025/2024<br>前年度比% | 2021~2025<br>平均変化率% |
|-----------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|--------------------|---------------------|
| エネルギー使用量(原油換算) (kℓ)               | 67,843  | 62,180  | 58,429  | 44,759  | 38,974  | △ 12.9%            | △ 12.9%             |
| 延べ床面積 (m <sup>2</sup> )           | 200,162 | 200,261 | 216,408 | 275,693 | 275,886 | 0.1%               | 8.4%                |
| エネルギー使用原単位 (kℓ / m <sup>2</sup> ) | 0.34    | 0.31    | 0.27    | 0.16    | 0.14    | △ 13.0%            | △ 19.7%             |

$$\text{エネルギー使用原単位} = \frac{\text{エネルギー使用量(原油換算kℓ)}}{\text{延べ床面積 (m}^2\text{)}}$$

|                                | 2013 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2025/2024<br>前年度比% | 2025/2013<br>2013年度比 % |
|--------------------------------|------|------|------|------|------|--------------------|------------------------|
| 二酸化炭素排出量 (千t-CO <sub>2</sub> ) | 166  | 101  | 83   | 74   | 60   | △ 18.7%            | △ 63.7%                |

※1 エネルギー使用量と二酸化炭素排出量は5PCB処理事業所の他、オフィス部門である本社、PCB処理事業及び中間貯蔵事業に係る各情報センター等、中間貯蔵施設区域（21ページ参照）における当社管理施設を含めています。

（注1）電気のCO<sub>2</sub>排出係数については、北海道PCB処理事業所は電気購入元に確認した値、それ以外のPCB処理事業所等は国が公表する各年度の「電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）」の調整後排出係数を用いて算出しています。

（注2）計算式により値を算出しているため、個別に算出した場合、切り捨て切り上げの関係で、値が一致しない場合があります。

## 関連トピック：再生可能エネルギーの電力調達について

国が掲げる「2050年カーボンニュートラル」及び「2030年度温室効果ガス排出削減目標 2013年度比46%削減」という目標に協力するとともに、当社の目標「2030年度温室効果ガス排出量 2013年度比 90%以上削減」の達成に向け、当社においても事業活動で使用する電力について、2030年度までに再生可能エネルギー 100%（RE100）とする目標を掲げて脱炭素化に貢献していくこととしています。2020年度より、順次再生可能エネルギー電力の導入を進め、2023年度までに、東京・豊田・大阪・北九州の各PCB処理事業所に再生可能エネルギー 100%の電力を導入しました。2024年度も引き続き、東京・豊田・大阪・北九州の各PCB処理事業所において再生可能エネルギー 100%の電力を調達しました。これにより年間で導入する再生可能エネルギー電力量は約11,000万kWh（当社総電力の約7割）となりました。市場の動向も踏まえながら、再生可能エネルギー 100%の電力調達を目指していきます。

### 当社の再生可能エネルギー電力の導入方針

- 直接調達する電力について、各事業所等の再エネ率を段階的に高め、2025年度までに総電力の60%以上（達成）、2030年度までに100%を目指す（事業進捗や経営状況、再エネ電力市場の動向等を踏まえ、随時見直しを実施）。
- 調達に当たっては、電気事業者のCO<sub>2</sub>排出係数等も踏まえた最適な入札（総合評価等）を実施する。
- 当社が電気事業者や電力内容を直接選定することが困難な電力は、ビル管理者等と調整し、再エネ 100%導入の可能性を探る。
- 各事業活動における省エネの具体的な取組について、引き続き実践する。

## 環境負荷低減の取組

各PCB処理事業所（営業オフィス含む）では、設備の安定的・効率的運転、高効率設備・機器の導入、照明のLED化、太陽光・風力発電設備の設置やグリーン電力の調達等を実施しています。また、クールビズ・ウォームビズなどのソフト面での取組を全社で実施しています。

以下、各PCB処理事業所での取組の一部を紹介します。

### 太陽光・風力発電の設置

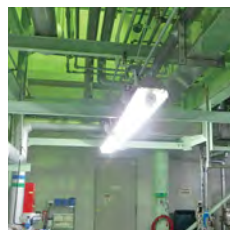
太陽光や風力の発電施設を設置し、施設構内の街灯等に使用しています。



東京 PCB 処理事業所

### LED照明の採用

ハロゲン電球と比べ、寿命が長く交換頻度が少ないLED照明を各施設で順次導入しています。



豊田 PCB 処理事業所

### 緑化による省エネ対策



東京 PCB 処理事業所

ゴーヤのカーテンで暑さを和らげることができました。



PCB 廃棄物処理事業のキャラクター  
アザラシのぴーちゃん

## 生物の生息・生育環境の創出

### ビオトープの整備

大阪PCB処理事業所では、周辺緑地帯と雨水を利用したビオトープの整備を行っています。植栽したアキニレには寄生植物のヤドリギが生育し、水辺はジョウビタキやメジロ等野鳥の水飲み場にもなっています。また、池にはメダカが泳ぎ、トンボなどの飛来が確認されています。



大阪 PCB 処理事業所 ビオトープ

### 施設内緑化

東京PCB処理事業所は、施設周辺の沿道緑化の他、敷地内にも季節ごとの花や樹木を植えています。来所いただくお客様や従業員の癒しにもなっています。



東京 PCB 処理事業所 施設内緑化

# 地域とのコミュニケーション

## 地域との環境保全協定

当社では、PCB廃棄物処理事業に伴う周辺環境への汚染の未然防止と、良好な生活環境を確保し、住民の健康の保護及び環境の保全に資することを目的に、各処理施設を設置している地域の関係自治体と環境保全協定を締結しています。大阪PCB廃棄物処理事業については、環境保全協定に代わって大阪市から環境保全協定に相当する内容が記された通知「大阪ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業に係る環境保全の確保について」をいただいています。これらの協定書等では、PCB廃棄物の受入れ、処理施設の運転管理、モニタリングの実施、緊急時の措置、情報公開の推進等について定められています。

2014年度には一部の協定について、処理基本計画の変更に伴う見直しを、2016年度には北九州PCB廃棄物処理事業について、「北九州PCB処理事業所における排気中ベンゼンの協定値超過事案に係る原因と再発防止策について」を踏まえ見直

しを、2018年には北九州PCB処理事業と北海道PCB処理事業について「水銀に関する水俣条約」の発効に伴う水銀排出に関する項目の追加を、2021年度には北九州PCB廃棄物処理事業についてモニタリングの強化やトラブルの定期的な報告等を盛り込んだ見直しを行いました。

また、これまでの協定書を解体撤去作業に適した内容に見直すため、2026年3月に北海道PCB廃棄物処理事業について、協定書の一部を改定する協定書を締結し、2024年10月に北九州PCB廃棄物処理事業、2026年4月に豊田PCB廃棄物処理事業について、覚書を締結しました。

引き続き、当社のPCB廃棄物処理事業が地域の方々の理解と信頼の下に成り立っていることを十分認識し、これらの協定書等を誠実に履行していきます。

## ■ 環境保全協定等の締結状況

| PCB廃棄物処理事業 | 環境保全協定等の名称                              | 締結先     | 締結日及び変更日                                                                                                |
|------------|-----------------------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 北九州        | 北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業に係る環境保全に関する協定        | 北九州市    | 2003.4.23締結<br>2007.10.19変更<br>2015.3.12変更<br>2016.4.28変更<br>2018.4.4変更<br>2021.4.1変更<br>2024.10.31覚書締結 |
| 豊田         | 豊田ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業に係る安全性と環境保全の確保に関する協定書 | 豊田市     | 2004.4.27締結<br>2025.4.1覚書締結<br>2026.4.1覚書締結                                                             |
| 東京         | 東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業に係る安全性と環境保全の確保に関する協定書 | 東京都、江東区 | 2005.7.15締結                                                                                             |
| 大阪         | 大阪ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業に係る環境保全の確保について（通知）    | 大阪市     | 2006.8.31通知                                                                                             |
| 北海道        | 北海道ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業に係る安全確保及び環境保全に関する協定書 | 北海道、室蘭市 | 2005.11.7締結<br>2013.3.29一部改定<br>2014.8.20一部改定<br>2018.3.30一部改定<br>2026.3.11一部改定                         |

## ■ 地域の環境保全活動

当社は、地域社会と連携した清掃活動等を行っているほか、当社施設周辺で缶・ペットボトルなどを拾う自主清掃活動を行いました。今後も、各種地域活動に積極的に取り組んでいきます。



北九州PCB処理事業  
施設周辺一斉清掃



東京PCB処理事業  
施設周辺一斉清掃



大阪PCB処理事業  
施設周辺一斉清掃



北海道PCB処理事業  
施設周辺一斉清掃



中間貯蔵管理センター（いわき）  
施設周辺一斉清掃

## 地域の行事への参加等

地域で開催されている行事への参加や、PCB処理事業所周辺の公道の清掃活動のほか、地域と関わりの深い写真集を作成するなど、地域との積極的なコミュニケーションを図っています。

また、従業員も自主的に地域のスポーツ行事、祭等に参加しています。

2025年度の活動をご紹介します。

### 北九州PCB廃棄物処理事業

- PCB処理事業所構内、赤十字献血車受入 (2025年度2回)
- 小石ちょうちん山笠協賛及び参加 (2025.9)
- 若松みなと祭り協賛 (2025.10)
- くきのうみ花火の祭典協賛 (2025.10)
- あんたの若松作品コンクール協賛 (2026.1)
- 脇之浦はだか祭り協賛 (2026.1)



石ちょうちん山笠のぼり山笠巡行の様子

### 東京PCB廃棄物処理事業

- PCB処理事業所周辺公道の清掃活動 (1回/月)
- スーパーエコタウン理事会・運営委員会 (対面、Web会議・計8回参加)



事業所周辺の清掃活動



スーパーエコタウン協議会城南島クリーンアップ

### 北海道PCB廃棄物処理事業

- PCB処理事業所周辺公道の清掃活動 (2回/年)
- 移動献血車による従業員献血 (2回/年)
- 室蘭市交通安全街頭啓発活動への参加 (2025.10)



事業所周辺の清掃活動



交通安全街頭活動

### 豊田PCB廃棄物処理事業

- 交通安全街頭活動 (4回/年)
- 樹木春まつり協賛 (2025.4)
- ぼんつく大会協賛 (2025.7)



交通安全街頭活動

### 大阪PCB廃棄物処理事業

- PCB処理事業所周辺公道・バス停の清掃活動 (1回/週)
- 地元此花区内4箇所(5地区)の盆踊り等地元行事への参加
- 此花区地元協議会への協賛 (2025.6)
- このはな区民まつりへの協賛 (2025.10)
- 此花区社会福祉協議会への協賛 (2025.10)
- 此花区新年互礼会への参加 (2026.1)



盆踊りへの参加

### 中間貯蔵事業

- 中間貯蔵施設区域内の取組 (彼岸花の移植 / 2026年3月実施)
- 大部分が中間貯蔵施設区域となっている福島県双葉町細谷行政区は、かつて「彼岸花」の美しい群生で知られていました。震災後に他地区へ移植されていた彼岸花の球根が、双葉町内の福島県復興祈念公園 (同年5月開園) に帰還することになり、その再移植に協力しました。本取組を通じて、住民の思いが込められた景観の再生・継承を支援するとともに、地域の環境美化に貢献しました。



## 展示会・イベント

2025年度は、以下の展示会・イベントに出店し、当社事業の意義や安全確保の取組等を積極的にPRし、来訪者が楽しめる工夫をしました。

### ■ ふたばワールド 2025 in かわうち

2025年10月11日(土)

於：田ノ入工業団地 (双葉郡)

主催：双葉地方広域市町村圏組合、  
一般財団法人福島県電源地域振興財団、  
川内村

来場者数：約3,000人 (主催者発表)



中間貯蔵事業情報センターブースの様子 (測定体験とヨーヨー釣り)



### ■ むろんゼロカーボンフェスタ (写真左)

2025年11月30日(日)

於：FKホールディングス生涯学習センターきらん (室蘭市)

来場者数：約1,500人 (主催者[室蘭市]発表)



作業用グローブの疑似体験



PCBを分かりやすく紹介する紙芝居

### ■ 室蘭子ども環境フェスタ (写真右)

2026年2月14日(土)～15日(日)

於：DENZAI環境科学館 (室蘭市)

来場者数：約390人 (主催者[室蘭市]発表)

## PCB処理事業

### ■ 情報公開ルーム／施設見学ルート

各PCB処理事業所には、情報公開ルーム及び施設見学ルートを設置しています。処理施設内の操業状況がご覧いただけるほか、環境モニタリング結果、処理の概要や安全対策等の施設紹介ビデオ、各種パネルなどを展示しています。また、処理施設の維持管理状況の記録、事業だより（39ページ参照）などを公開しています。

また、団体の見学者にも対応できるよう、大型スクリーンを備えたプレゼンテーションルームも設置しています。



東京 PCB 処理事業所  
情報公開ルーム



北海道 PCB 処理事業所  
施設見学コース（当初施設）



北九州 PCB 処理事業所  
情報公開ルーム（解体撤去工事情報）

### ■ 処理施設見学会・視察

地域の皆様をはじめ、多くの方に処理施設をご覧いただくため、見学申込を受け付けています（各PCB処理事業所の電話番号は57ページ参照）。2025年度の地域住民、行政関係者の方々等の各PCB処理事業所への見学者数は合計1,045名でした。見学者からはPCBの処理技術、無害化の確認方法、作業従事者の人数・勤務体制、処理料金、建設費用等の多岐にわたる質問をいただきました。なお、最新の見学申込受付状況については、当社ホームページなどでお知らせしています。

以下、2025年度における主なPCB処理事業所の施設見学会を紹介します。

#### 豊田PCB処理事業所（室蘭市議会議員による視察）

2026年1月20日（火）に、北海道PCB廃棄物処理事業の受入自治体である室蘭市から市議会議員ほか1名の方が豊田PCB処理事業所へ視察のため来所されました。

当施設の解体撤去計画や現在の進捗状況、安全対策について説明し、見学者通路から解体撤去を進めている施設内の状況をご覧いただきました。



豊田 PCB 処理事業所  
（室蘭市議会議員視察）

#### 北海道PCB処理事業所（日曜見学デイ）

PCB処理工程や作業の安全性等、当社事業のご理解への機会として、2025年10月19日（日）に「日曜見学デイ」を開催しました。北海道PCB処理情報センターと処理施設に約80名の市民の皆様が来所されました。

当日はお子様向けに「スタンプラリー」、「手作り段ボール迷路」、「お菓子の棒引き」を楽しみながらご見学いただきました。



北海道 PCB 処理事業所  
（日曜見学デイ）

## 中間貯蔵事業

### ■ 中間貯蔵事業情報センター・中間貯蔵施設見学会

中間貯蔵事業の実施に当たっては、安全を第一に、地域の理解を得ながら事業を進めています。このことを分かりやすく、できるだけ多くの方々に伝えるため、情報を積極的に発信・公表しています。

2025年3月に大熊町産業交流施設（CREVA おおくま）内に設置された中間貯蔵事業情報センターでは、事業の進捗状況や規模感を視覚的に伝える展示や、没入感のある映像により中間貯蔵施設を疑似体験できるバーチャルシアターなどを通じて、中間貯蔵事業への理解促進を図っています。また、中間貯蔵施設が立地する大熊町及び双葉町の復興の状況等についても併せて情報発信を行い、地域と一体となった理解醸成の拠点としての役割を果たしています。

2025年度の情報センター来館者数は21,055人となり、幅広い世代や多様な立場の方々に利用されました。また、同センターを起点とした中間貯蔵施設区域内の見学会を実施するとともに、自治体、学校、各種団体等からの申込みに応じて個別の見学や説明にも対応しており、2025年度は9,504人に中間貯蔵施設を見学いただきました。当社では、情報センターでの事前理解と現地見学を組み合わせることにより、効果的に中間貯蔵事業を理解いただけるよう取組を進めています。このほか、飯館村長泥地区における復興再生土の再生利用実証事業について、当社が案内を担当した分として2025年度は491人に見学いただきました。

### 中間貯蔵事業情報センターの様子



バーチャルシアター



センター内の展示物

### 中間貯蔵施設見学会の様子



中間貯蔵施設区域内の高台より、福島第一原子力発電所を望見する



土壌貯蔵施設内における見学者への説明

### ご利用案内

- ・ 開館時間：9:00～17:00（最終入館 16:30）
- ・ 休館日：毎週火曜（祝日の場合は翌平日）・年末年始（12/29～1/3）
- ・ 入館料：無料
- ・ 所在地：福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116番地5  
（JR常磐線 大野駅から徒歩約3分）

中間貯蔵事業情報センターでは随時見学の申込受付を行っています。  
社員研修等での見学をお待ちしています。

詳しくは以下をご覧ください。

[https://infocenter.jesconet.co.jp/observe\\_kannai.html](https://infocenter.jesconet.co.jp/observe_kannai.html)



## インターネットを活用した情報発信

社外に向け、当社では、事業に関する情報を適切に伝えるため、ホームページ及びX（旧Twitter）を活用した情報発信を行っています。ホームページでは、公式な情報を分野ごとに整理して掲載し、Xでは、見学会案内や更新情報等を中心に、事業に関する動きをタイムリーに発信しています。



当社ホームページ

<https://www.jesconet.co.jp/>



当社X（旧Twitter）公式アカウントページ

[@JESCO\\_JP](https://x.com/JESCO_JP)

## ■ ホームページによる情報公開

当社ホームページでは、事業内容や経営情報に加え、環境報告書（JESCO Report）、環境モニタリング結果、有識者委員会（44・45 ページ参照）資料、事業だより等を掲載し、事業の取組や運営状況について、体系的かつ継続的な情報提供を行っています。入札・契約に関する情報については、公共的な発注者として求められる透明性・公平性・競争性の確保の観点から、必要な情報を公開しています。

### ① 理念・環境・社会的責任に関する情報

基本理念や行動指針をはじめ、環境への取組（環境報告書、社会貢献活動、グリーン購入、RE100 への取組等）に関する情報を掲載し、当社の価値観及び社会的責任への取組を体系的に示しています。

### ② 会社の基礎情報

社長あいさつ、会社概要（事業内容の案内、沿革、組織図、役員に係る情報等）を掲載し、当社の組織体制や事業の全体像を分かりやすく示しています。

### ③ 計画・実績等に関する情報

中期経営計画、事業計画・決算等を公表し、事業運営の方向性や実績について、適切な情報提供を行っています。

### ④ 入札・契約に関する情報

入札契約情報（契約・購買方針、発注の見通しのお知らせ、物品・役務、工事・建設コンサルタント業務等、登録関係、関連規程等）を掲載し、公正性・透明性の確保に努めています。

### ⑤ 各事業に関する情報

PCB 廃棄物処理事業及び中間貯蔵事業について、事業の概要や進捗、取組内容等を掲載しています。あわせて、公開対象となる各事業に係る有識者委員会の資料については、一部を除き公開するとともに、環境モニタリング情報も掲載し、事業運営の透明性確保と、環境・安全に関する情報提供に努めています。また、PCB 廃棄物処理事業については、施設の解体撤去に向けた新たな段階に移行しており、その計画や進捗状況についても、ホームページを通じて情報提供を行っています。

災害廃棄物処理支援事業にかかる情報も発信してまいります。



## SNS (X) による情報発信

当社X（旧Twitter）公式アカウントでは、中間貯蔵施設の見学会案内をはじめ、当社主催イベント、社会貢献活動等の取組を適時発信し、事業に関連する最新情報をタイムリーにお伝えしています。また、ホームページ掲載情報への入口としても活用しています。

2025年度は、PCB廃棄物処理の完了年度として、処理期限に関する案内についても積極的に発信しました。

また、公式認証を受けたアカウントとして、正確で信頼性のある情報発信に努めています。



X投稿例（見学会の案内）

## 事業だよりの発行

当社では、各PCB処理事業所において、事業の進捗状況、教育・訓練の実施状況や各種会議の開催状況等を広くお知らせするため、事業だよりを定期的に発行しています。発行した事業だよりは、印刷物の配布のほか、ホームページへの掲載やXでの発信を通じて周知しています。

各処理施設の解体撤去に係る取組についても、現場の写真等を交えながら、その状況を分かりやすく紹介しています。

| 事業  | 事業だよりの発行状況                        |
|-----|-----------------------------------|
| 北九州 | 2016年9月～半期ごと発行                    |
| 豊田  | 2004年5月～毎月発行                      |
| 東京  | 2005年5月～四半期ごと発行                   |
| 大阪  | 2005年3月～四半期ごと発行                   |
| 北海道 | 2006年5月～半期ごと発行<br>2010年7月～四半期ごと発行 |



## 知のネットワークニュースレターの発行

「知のネットワーク」（27ページ参照）の活動紹介や、中間貯蔵事業の進捗状況、福島復興に向けた様々な取組を知っていただくためのきっかけづくりを目的として、2022年7月より発行しています。2025年度は計4回（2025年7月、9月、12月、2026年3月）発行しました。ホームページにも掲載し、Xでも発信しています。



# 従業員にかかる活動

## 従業員と経営層のコミュニケーション

当社では、従業員と経営層との積極的なコミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境の醸成に取り組んでいます。前年に引き続き 2025 年度は、対面と Web 会議を併用し、経営層が積極的に従業員とのコミュニケーションを図ることで、安全意識の共有・向上につながるよう努めました。また社内イントラネットにおいて「経営メッセージ」のコーナーを設け、折々に、経営層の考え方や会社の方針について従業員と共有しています。



2026年 社長年頭メッセージ



中間貯蔵施設で線量測定（役員 2 名参加）



豊田 PCB 処理事業所トラブル対応訓練（副社長参加）

## 従業員提案制度

当社では、様々な従業員提案制度を行っています。安全確実な操業、作業等を目指し、当社及び運転会社等従業員から提案を募集し、優秀提案に対し表彰しています。従業員が自ら考えることで安全に対する意識を高めています。2025 年度実施事例を紹介します。

- 豊田 PCB 処理事業では、2008 年に「社員提案制度」を創設し、安全操業、作業効率化及びコスト削減等を目指して、随時、従業員からの提案を受け付けて表彰を行っています。



豊田 PCB 処理事業 最優秀提案者への表彰



- 東京 PCB 処理事業では、毎年、安全衛生標語の募集を行っています。応募総数 76 件の中から 1 件の最優秀賞を選定し、1 年間朝礼時に全員で唱和しています。



東京 PCB 処理事業 最優秀提案者への表彰

- 北海道 PCB 処理事業では、2025 年度全国安全週間にあわせ「安全衛生標語」の募集を行いました。2025 年度は 346 件の応募があり、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、優良賞 6 点の計 10 点を選出し、表彰とともにポスターを作成し、1 年間事業所内に掲示しています。



北海道 PCB 処理事業  
最優秀作品受賞者への表彰と 2025 年度安全標語



## 人材育成

社会的使命を果たしていくためには、人材育成が不可欠です。当社では従業員の資質向上や、よりよい組織風土の醸成を図るため、各種研修を実施しています。2025 年度は、風通しの良い職場をつくるために必要なコミュニケーションの取り方等について動画視聴による研修を行ったほか、管理職を対象に、マネジメント力を高めるための知識や行動等を学ぶ管理職研修を行いました。



管理職研修



## ダイバーシティの推進

年齢、キャリア、障害の有無、性別、働き方等の異なる多様な人材について、従業員一人ひとりの能力やスキルが認められ、組織で個人が最大限に活かされるよう様々な取組を行っています。例えば、多様なキャリアを持った中途社員や 60 歳以上の高齢者の採用と、キャリアが活かせる部署への配置、障害者の採用と、その特性に合わせた業務の調整、女性の定着や管理職に占める女性割合の向上についての目標の設定、パートタイム勤務や業務委託の制度を設ける等の取組を行っています。

## 働きやすい職場づくり

### ■ 安全衛生活動の推進

全国安全週間、全国労働衛生週間には、社長より全従業員に向けてトップの決意としてメッセージを発信しています。現場事業所では無事故、無災害達成のスローガンの下、安全大会、衛生大会等を実施しています。このほか、日常的な安全活動等により、安全水準の向上に努めています（13 ページ参照）。



安全大会の様子

### ■ 健康保持増進

豊田PCB処理事業所では定期的に産業医による健康講話を開催し、当社社員と運転会社社員が聴講しています。

2025年度は、「熱中症対策」のテーマで、睡眠・食事・体調管理・ストレッチを通じた熱中症セルフチェックと夏バテ解消ストレッチについて学びました。



夏バテ解消ストレッチ

### ■ ゼロ災害を目指して

トラブルの防止や総合防災訓練等の他、他PCB処理事業所への水平展開、各種教育（13・26 ページ参照）等を行っています。

この他4S（整理・整頓・清掃・清潔）活動や交通災害防止活動を行っています。また、安全大会では、当社・協力会社がともに安全を誓い、ゼロ災害を目指すため、意識共有を行っています。



東京PCB処理事業所の熱中症予防研修

### ■ 働き方改革への対応～ワークライフバランスの実現に向けて～

ワークフローシステムを導入し、申請業務の多くを電子化しています。申請者も承認者も場所・時間に縛られることなく申請業務の効率化を進めることができています。時間を有効活用できるようになり、出張時や在宅時等場所の制約が解消されたことで、働き方改革への貢献も実現しました。また、多様な働き方を支援するため、育児・介護休業や在宅勤務、時差出勤の制度を構築し、ワークライフバランスの充実にに向けた取組を積極的に行っています。



ワークフローシステムを活用した申請業務の効率化

### ■ メンタルヘルスの取組とハラスメント防止対策

産業医、保健師による健康相談、健康診断結果のフォローアップを随時実施しています。また、毎年ストレスチェックを行い、従業員のストレス状況を把握すると共に、必要に応じ、その評価結果をもとに産業医による面接指導を行っています。さらに、従業員の支援プログラム（EAP）として、社外にハラスメント相談窓口等を設け、従業員が相談しやすい環境を整備しています。



社外ハラスメント相談窓口



産業医による面接指導

## 現場の取組

### ■ 現場作業の負担軽減（中間貯蔵管理センター）

土壌貯蔵施設をはじめとする中間貯蔵施設の管理においては、点検・計測・清掃・補修・除草などの現場作業を継続的に行っています。これらの作業は、夏季の高温環境や冬季の低温環境の下で実施されることも多く、作業従事者の身体的負担の軽減と安全確保が重要な課題となっています。そこで、クールベストの活用、早出など酷暑時間帯を外すなど作業時間の工夫、黒球式熱中症計による現場状況の確認などのほか、スマートフォンによる気象情報の把握や写真共有の効率化、防護服不要範囲の拡大などにより、現場作業の負担に配慮しつつ効率化と安全確保に資する対応を行っています。一例として、施設管理に必要な除草では遠隔操作式の除草機械を導入し、法面等の不安定な箇所に立入る作業を減らし、効率的に、安全に作業を行えるようにすることで、合わせて作業の負担軽減にもつなげています。



遠隔式草刈機の活用

### ■ 室蘭市指定暑熱避難施設として継続運用（北海道PCB処理事業所PCB処理情報センター）

北海道PCB処理事業所は室蘭市との間に「気候変動適応法に基づく指定暑熱避難施設に係る協定」を締結しました（2024年8月1日）。この協定は、胆振・日高地方の熱中症警戒アラートの発表に伴い、市民の皆様方の熱中症による健康被害の発生防止を図るため、室蘭市からの伝達を受け、一時的に暑さを避けるためにPCB処理情報センター（室蘭市御崎町）を、休憩所（クーリングシェルター）として開放するものです。ご利用は月曜日から金曜日（祝日除く）の9時から16時30分まで、約20名の受け入れが可能となりますので、是非ご利用ください。また、災害等により大規模停電が発生した場合、携帯電話等の「充電センター」としてもご利用いただけます。



北海道PCB処理事業所情報センタークーリングシェルター案内

# 社会貢献活動・表彰

## 社会貢献活動（国内活動）

当社は、地域社会の一員として、社会貢献に繋がる活動をステークホルダーとともに取り組んでいます。安心な暮らしへの社会形成と、当社の組織活性化のために、今後も各取組を通じ社会貢献を推進していきます。以下、取組の一例を紹介します。

### ■ フードドライブ

10月を「社会貢献活動推進月間」に設定して、家庭等で余っている食品を集めて寄付するフードドライブを実施しました。集めた食品はNPO法人に寄付し、物価高騰による生活困窮世帯等を含め、食事に不自由している多くの方々への支援に活用されました。



寄付した食品類

### ■ ボランティア活動

当社では、社会貢献活動のための特別休暇制度を設けており、自然災害における被災地支援や特別養護老人ホームなどで従業員がボランティア活動を行う機会を持ち、社会の課題に取り組めるよう推進しています。

### ■ 社会貢献投資

当社は、将来の支出に備えた資金運用において、安全性・収益性の確保に加えて社会貢献を視野に入れた債券購入を行っています。2025年度は東日本高速道路株式会社発行の「ソーシャルボンド」他計6件のSDGs債を購入しました。今後も、適切なリスク管理の下、資金運用面での社会貢献活動に取り組んでいきます。

### ■ 寄付型自動販売機

寄付型自動販売機を本社オフィスに設置しています。飲料1本につき、約2円が東南アジアの保健医療活動を行うNPO法人に寄付されます。



寄付型自動販売機

### ■ 本社クリーンキャンペーン参加

当社では、2025年12月11日、本社所在地である東京都港区芝地区のクリーンキャンペーンに参加しました。歩道や街路樹の植え込みを中心に清掃活動を行い、日常では気づきにくい場所に多くのごみがあることをあらためて認識しました。朝早い時間帯での活動となりましたが、地域の皆さまとともに環境美化へ取り組むことで、身近な環境を守る意識を共有できる有意義な機会となりました。



街路樹の植え込みの清掃活動作業

## 関連トピック 環境大臣表彰を受けました

当社は、令和6年能登半島地震における災害廃棄物対応支援の取組が評価され、2025年6月25日に環境省において、「大規模自然災害等の被災地域支援活動に対する災害対応支援環境大臣表彰」を環境大臣から受賞しました。本表彰は、2024年度の活動に対するものです。

2024年1月から8月にかけて、輪島市、穴水町、志賀町で、当社社員が環境省の現地支援チームの一員として、し尿処理、生活ごみ処理、仮置場の運営支援等に従事しました。あわせて、浄化槽の復旧や仮置場設置に関する情報提供も行いました。また、2024年9月から2025年3月にかけては、主に石川県庁において、災害廃棄物の広域処理に関する契約手続き、搬出入調整、搬出入計画の策定支援等を実施しました。

なお、2025年度も継続して災害廃棄物処理支援活動を実施しており、その概要は「2025年度トピックス」（5ページ）で紹介しています。



## 社会貢献活動（海外活動）

当社は、地域や国内以外に、国際的な社会貢献の取組も行っています。

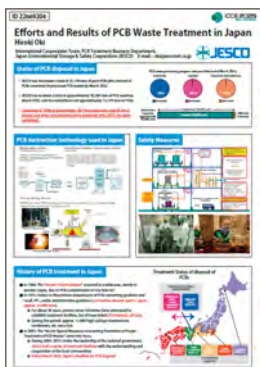
### ■ 国際的なPCB早期処理に向けた支援

当社は、化学処理技術によるPCB廃棄物の広域処理を通じて、安全確保と環境保全に資する取組を進めてきました。これらの取組は国際的にも評価され、COPs・POPs条約関連会合<sup>\*</sup>における日本の取組紹介や、PCB廃棄物処理に関する技術的支援について、国際機関や開発途上国等から要請を受けています。2025年度の取組は以下のとおりです。

<sup>\*</sup> POPs条約は「残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約」、COPsは同条約の締約国会議（Conference of the Parties）を指します。

#### 1. 国際会議への出席

2025年6月8日～12日、セルビア共和国ベオグラード市において開催された19th International Conference on Chemistry and the Environment (ICCE2025) に出席の依頼があり参加しました。ICCEは欧州環境化学学会が主催する国際会議で、2025年は2019年から同国のPCB等有害物質処理の協議を進めてきたベオグラード大学化学部教授が議長を務められ、これまでの交流を通じてJESCOのPCB処理に関する知見と実績が認知されていたことから出席依頼があり、ポスターセッションにおいて、「日本のPCB処理の取組及びJESCOの実績」を発表するとともに、各国の専門家等と意見交換を行いました。



JESCOの発表ポスター



ICCE2025議長（ベオグラード大学教授）

#### 2. PCB等有害物質処理検討支援

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約（POPs条約）に規定されるPCB等有害物質の処理が滞っている国が多く存在しており、中欧のセルビア共和国においては、一部のトランスに含有されているPCB廃棄物の処理を行った実績がありますが、多量のPCB等有害物質の処理が進んでおらず、土壌への汚染が見られる等環境への影響が懸念されています。同国環境保護省、商工会議所、国有企業等からの要請を受け、日本における取組・JESCOの実績に関する情報提供を行うとともに、課題解決に向けた協議を進めています。



▲ 36か国の鉄道関連事業団体、TRANSPORT COMMUNITYの会合時の写真

セルビア国営鉄道の廃棄物保管場（PCB等有害物質が含まれている場合がある）▶



#### 関連トピック

### 大阪・関西万博ナショナルデーへの招待を受けました

2025年4月13日～10月13日まで、大阪市此花区において開催された大阪・関西万博に世界各国から参加があり、セルビア共和国も単独でパビリオンを設置しました。今回の万博においては、参加した国ごとに1日限定で特別な「ナショナルデー」や「スペシャルデー」が開催され、9月15日の「セルビアデー」には、在日本セルビア大使館から招待を受けイベントに参加しました。

当日は同国アレクサンドル・ヴチッチ大統領が初めて日本を訪問され、140年以上続く日本との友好の歴史、両国の関係のほか、2027年同国ベオグラード市で開催される国際博覧会に関する発表がありました。



アレクサンドル・ヴチッチ大統領

セルビアパビリオン



# 外部からの意見・評価

## PCB廃棄物処理事業

当社では、PCB廃棄物処理事業を推進する上で、PCBの分野において豊富な知識と経験を有する学識経験者にお集まりいただき、処理の安全性や確実性を確保するために「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会」を設置しています。本検討委員会の下に、7つの部会（PCB処理事業部会（各PCB処理事業ごと）、技術部会、作業安全衛生部会）が設置されています。

本検討委員会の会議開催状況につきましては、当社のホームページに掲載しています。

URL：[https://www.jesconet.co.jp/business/contents/pcb\\_committee/guideline.html](https://www.jesconet.co.jp/business/contents/pcb_committee/guideline.html)

なお、2025年度までは永田勝也早稲田大学名誉教授が、2026年度からは酒井伸一公益社団法人京都高度技術研究所副所長が委員長を務めています。

本検討委員会の概要及び2025年度の開催状況は以下のとおりです。

### ■ ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会

- ・概要 当社のPCB廃棄物処理事業全体について、総括的な検討を行い、ご助言、ご指導及び評価をいただきました。
- ・委員長 永田勝也 早稲田大学名誉教授（敬称略 2026年12月まで在任）
- ・開催状況

|                    |                                                                                                                                            |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第44回<br>2025.11.21 | JESCOによるPCB廃棄物処理事業の終了直前の状況、解体撤去工事における事故・トラブル等とその対応、PCB廃棄物処理施設の解体撤去の進捗状況、解体撤去実施マニュアルの改訂、JESCOによる高濃度PCB廃棄物の処理事業に関する報告書の作成について説明し、ご審議いただきました。 |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



第44回  
ポリ塩化ビフェニル  
廃棄物処理事業  
検討委員会  
(2025.11.21)

### ■ PCB処理事業部会

- ・概要 5つの事業ごとに設置され、それぞれの地域に即した技術的検討事項についてご助言をいただきました。  
(敬称略 2026年3月現在)

| 各部会 | 主 査   |                               | 開催状況                             |
|-----|-------|-------------------------------|----------------------------------|
| 北九州 | 東 敏昭  | 一般財団法人西日本産業衛生会特別顧問、産業医科大学名誉教授 | ・2026.1.21                       |
| 豊田  | 高岡 昌輝 | 京都大学大学院工学研究科教授                | ・2025.5.14 ・2026.3.2             |
| 東京  | 永田 勝也 | 早稲田大学名誉教授                     | ・2025.7.31 ・2025.11.10           |
|     | 益永 茂樹 | 横浜国立大学名誉教授                    | ・2026.3.6                        |
| 大阪  | 酒井 伸一 | 公益財団法人京都高度技術研究所副所長            | ・2025.8.6 ・2026.2.5              |
| 北海道 | 松藤 敏彦 | 北海道大学名誉教授                     | ・2025.6.25 ・2025.11.4 ・2026.3.11 |

### ■ 技術部会

- ・概要 PCB廃棄物の処理に関する技術的検討をしていただきました。  
(敬称略 2026年3月現在)

| 主 査                         | 開催状況                      |
|-----------------------------|---------------------------|
| 酒井 伸一<br>公益財団法人京都高度技術研究所副所長 | ・2025.5.26<br>・2025.11.17 |

JESCO高濃度PCB廃棄物処理施設の解体撤去について、技術的な観点から助言をいただきました。

### ■ 作業安全衛生部会

- ・概要 処理施設における作業従事者の安全衛生管理について検討していただきました。  
(敬称略 2026年3月現在)

| 主 査                                       | 開催状況                               |
|-------------------------------------------|------------------------------------|
| 東 敏昭<br>一般財団法人西日本産業衛生会特別顧問、<br>産業医科大学名誉教授 | ・2025.12.10<br>・2026.3.2<br>(書面開催) |

作業従事者の安全衛生管理の実施状況等の報告を行い、労働安全衛生データの解釈等についてご助言をいただきました。また、運転会社が保管する血中PCB濃度データ等の移管についてご意見をいただきました。さらに、当社の血中PCB濃度等の測定のための採血及び血液の凍結保存の方針の改定について、ご意見をいただきました。

## ■ 監視委員会等からの意見等への対応

当社の各処理施設を設置している地域の関係自治体では、当社が行う PCB 廃棄物処理事業が安全かつ適正に行われるよう、処理施設の計画、建設、操業、解体撤去の各段階を通じて監視するとともに、地域住民に対して情報提供を行うために委員会（以下「監視委員会等」という。）を設置しています。安全、確実に処理を行うとともに、設備改造や操業改善により処理施設の処理能力を十分活用して、PCB を早期に処理すべきであること、設備の経年劣化に適切に対応すること、施設の解体撤去工事を安全に実施することなど、様々なご意見・要請をいただきました。当社では、各監視委員会等で PCB 廃棄物処理事業の実施状況を報告するとともに、こうしたご意見、要請等に適切に対応することを通して、地域との信頼関係に立脚した事業の推進に努めています。

### ・ 監視委員会等の開催状況

| PCB廃棄物処理事業 | 監視委員会の名称                                | 設置日          | 開催状況                                 |
|------------|-----------------------------------------|--------------|--------------------------------------|
| 北九州        | 北九州市PCB処理監視会議                           | ・ 2002.2.14  | ・ 2026.2.2                           |
| 豊田         | 豊田市PCB処理安全監視委員会                         | ・ 2003.10.3  | ・ 2026.3.23                          |
| 東京         | 東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会※ <sup>1</sup> | ・ 2004.10.26 | ・ 2025.12.15 ・ 2026.3.25             |
| 大阪         | 大阪PCB廃棄物処理事業監視部会※ <sup>2</sup>          | ・ 2003.9.10  | ・ 2025.11.12 ・ 2026.3.10             |
| 北海道        | 北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議                     | ・ 2005.9.6   | ・ 2025.7.18 ・ 2025.12.23 ・ 2026.3.24 |

※ 1 東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会は、当社主催により開催しています。

※ 2 大阪市により開催されてきた「大阪市 PCB 廃棄物処理事業監視会議」については、2013 年度から、近畿ブロック産業廃棄物処理対策推進協議会の「大阪 PCB 廃棄物処理事業監視部会」として開催されています。

## ■ 地域からのご意見

当社では、各地域の監視委員会等、事業だより等を通じて、当社の事業の内容や進捗状況等を報告しています。

2025 年度については、処理施設見学会や事業だより（39 ページ参照）の発行等を通じて幅広く当社の事業の内容や進捗状況等を報告しています。

今後も、こうした機会を通して、幅広く事業の報告を行い、地域の皆様からいただいたご意見を当社の事業に適切に反映させていきます。

## 中間貯蔵事業

### ■ 中間貯蔵事業技術検討会

当社では、中間貯蔵事業に係る業務を確実に遂行するために必要な、技術情報の収集・整理・分析・評価を行うとともに、調査研究・技術開発の方法等に関する知見を集約することを目的として、有識者等からなる「中間貯蔵事業技術検討会」を設置し、ご指導・ご助言をいただいています。

2025 年度中間貯蔵事業技術検討会の構成及び開催状況は以下のとおりであり、前年度に引き続き、対面と Web 会議を組み合わせたハイブリッド方式により会議を開催しました。

#### ・ 開催状況

|                    |                                                                            |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回<br>2025.10.9 | ・ 中間貯蔵施設事業の進捗状況について<br>・ これまでに実施してきた技術実証事業の総括<br>・ 2025 年度における当社技術検討業務について |
| 第 2 回<br>2026.3.16 | ・ 調査研究・技術開発、情報整理に係る 2025 年度の結果報告<br>・ 当社における 2026 年度以降の技術検討業務について          |



2025 年度 中間貯蔵事業技術検討会  
ハイブリッド開催の様子（2025.10.9）

#### ・ 構成 （五十音順、敬称略 2026 年 3 月現在）

|     | 氏 名   | 所属等                                 |
|-----|-------|-------------------------------------|
| 委員長 | 大迫 政浩 | 国立環境研究所 フェロー                        |
|     | 勝見 武  | 京都大学大学院 地球環境学 教授                    |
|     | 川瀬 啓一 | 日本原子力研究開発機構福島廃炉安全工学研究所 副所長 兼 安全管理部長 |
|     | 清 和成  | 北里大学 医療衛生学部 保健衛生学科 環境衛生学教室 教授       |
|     | 吉岡 敏明 | 東北大学大学院 環境科学研究科 研究科長 教授             |



## 株主とのコミュニケーション

当社の事業活動を長期的にご支援いただくため、経営方針や財務情報等当社の状況をご説明し、理解を深めていただけるよう努めています。また、その内容はホームページで公表されます。

### ■ 株式の情報 (2026年3月31日現在)

当社株式の状況は次のとおりです。

- 発行可能株式総数…… 108,000株
- 発行済株式総数…… 普通株式 64,707株
- 株主数…… 2名 (政府 100%)

### ■ 株主総会

- 事業年度…… 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会…… 毎年6月

| 株主名  | 持株数     | 持株比率  |
|------|---------|-------|
| 財務大臣 | 59,683株 | 92.2% |
| 環境大臣 | 5,024株  | 7.8%  |

### ■ 中期経営計画

中期経営計画は、当社の基本理念と行動指針に則り、今後5年程度の具体的な行動を示したもので、各種の経営計画の上位計画になります。PCB廃棄物処理事業の円滑な終了に向けた取組と中間貯蔵事業の質的・量的拡大への対応が重なる2017年度から2025年度までについて、具体的な行動をまとめ、2017年6月に中長期経営計画を策定しました。2025年度は、同計画の最終年度であることから、同計画に基づく活動のレビューを実施するとともに今後の事業の見通しについて検討し、2026年度以降の目標を定めた中期経営計画の策定を行いました。

当社は、新しい中期経営計画に基づき、環境と安全を第一とした上で、福島復興の基盤となる中間貯蔵事業と高濃度PCB廃棄物処理施設の解体撤去及び新たな社会貢献事業である災害廃棄物対策に誇りと決意を持って取り組むことにより、社会的使命を果たし、日本の環境保全の一翼を担う「環境企業」として、より一層の力をつけていきます。

URL : [https://www.jesconet.co.jp/company/finance/business\\_plan.html](https://www.jesconet.co.jp/company/finance/business_plan.html)

### ■ 財産及び損益の状況

(百万円)

| 区分              | 2022年度  | 2023年度  | 2024年度  | 2025年度  |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|
|                 | 第19期    | 第20期    | 第21期    | 第22期    |
| 売上高             | 63,906  | 35,690  | 19,342  | 12,863  |
| 当期純利益<br>(△純損失) | 12,572  | 1,522   | △3,969  | △9,074  |
| 総資産             | 227,270 | 227,362 | 219,540 | 206,562 |

2025年度は、主にPCB廃棄物処理事業の処理収入の減少が影響し、売上高12,863百万円、当期純損失は9,074百万円となりました。

PCB廃棄物処理事業については、すべての事業所における処理を終了しました。今後は処理収入がない中で、事業完了までを見据えた全事業期間を通じた収支相償の達成に向け、長期的な視点に立ってこれまでの事業収入や出資金を活用するとともに、費用管理を徹底しながら、役割を終えた処理施設の解体・撤去を着実に進めていきます。

### ■ 環境投資

当社は、「環境企業」を標榜していることから全ての設備投資額を環境投資と位置付けています。2025年度は設備の老朽化更新等のため、約6億円の設備投資を行いました。

この他社会貢献投資を行っています。(42ページ参照)



# 基本理念等

当社は、次の基本理念と行動指針を定めています。

## ■ 目的

我が社は、国の環境政策を実行する国策会社であり、良好な環境の保全を目的として、安全で確実な事業の実施と情報公開を重視し、中間貯蔵事業及び環境安全事業（PCB廃棄物処理施設の解体撤去及び災害廃棄物の処理支援等）を遂行するとともに、環境保全のための技術の蓄積と人材の育成を図ります。

## ■ 実現のための行動指針

### 1. 私たちは、環境と安全を優先します。

- ・すべての活動で地域環境の保全、安全確保を何よりも優先し、この継続を通じて、社会からのゆるぎない信頼を確保します。
- ・確実かつ適切な事業の実施により、将来の世代に向けて、より良い環境の創出に努めます。

### 2. 私たちは、隠しごとをしません。

- ・地域住民、国・自治体、関係団体、取引先等のご理解と評価を頂けるよう、企業情報を積極かつ適正に開示します。
- ・社内にも隠し事がない、都合の悪いことほど早く報告する風土を作ります。
- ・管理者が率先して情報共有と自由闊達な風土作りに努めます。
- ・良識ある企業市民として法令を順守します。

### 3. 私たちは、ルールを守ります。

- ・良識ある企業市民として法令を順守します。
- ・国費が投入されていることを自覚し、適正な執行にあたります。
- ・高い倫理観を持って、関係先と接します。

### 4. 私たちは、人を大切にします。

- ・いきいきとした働きがいのある職場をつくり、個人の能力を最大限に発揮させます。
- ・異なる経験や知識を持つ社員の力を結集し、総合力を発揮します。

### 5. 私たちは、環境企業として力をつけます。

- ・業務改革、経営管理体制の強化とコスト意識の徹底を通じて、効率性、迅速化を追求します。
- ・企業としての実行力を高めるため、高い専門性・技術力を一人一人が培います。
- ・環境保全を目的とする環境企業として、社会に貢献し、評価される存在となります。

## ■ 当社事業活動とSDGsとのつながり

当社では、事業活動の中で、以下に掲げた安全対策や、透明性の高い事業運営と情報公開、調達、教育等の事業活動を実施することにより、SDGsの達成に貢献します。

| 内容      | 主な事業活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | SDGs とのつながり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境 E    | <b>環境企業としての地球環境保全</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安全確実な事業推進と、関連法令の遵守</li> <li>●環境に配慮した調達方針（グリーン調達）、再生可能エネルギー調達・投資等</li> <li>●省エネルギー設備の採用</li> <li>●生物の生息・生育環境に配慮した事業活動と植樹等</li> </ul>                                                                                                                                                          |    <br>                                                                                                                                                                                   |
| 社会 S    | <b>環境と安全を優先し、社会からの信頼を確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業活動を通じた持続可能な地域づくり</li> <li>●ボランティア活動、フードドライブ、被災地復興支援等の社会貢献</li> <li>●インフルエンザ及び新型コロナウイルスなどの感染症対策</li> <li>●ハラスメント、熱中症対策・労働安全衛生等の各種従業員教育</li> <li>●ダイバーシティの推進（高齢者・障害者の雇用、女性活躍推進、母性保護等）、適正な労働時間管理、健康相談窓口、労働安全衛生対策等</li> <li>●地域とのコミュニケーション（事業活動の積極的かつ適正な情報開示、見学会の開催、地域行事への参加）</li> </ul> |    <br>   <br>  |
| ガバナンス G | <b>ガバナンス・内部統制の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高い倫理観と、透明性の高い社内決議及び内部統制システムの構築</li> <li>●ハラスメント相談窓口、育児・介護休業等</li> <li>●一般入札公告及び処理委託に係る説明会等（公平な情報共有）</li> <li>●社外からの意見、監視（公開委員会、監視委員会、株主総会（役員選任、事業報告、株式情報等）、行政指導・立入検査等）</li> </ul>                                                                                                             |   <br>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

# ステークホルダーエンゲージメント

当社の事業は、多くのステークホルダーの皆様のご理解・ご協力の下で成り立っています。今後も、環境・安全を第一とし、ステークホルダーの皆様のご期待、ご要望をしっかりと受け止め、事業へのご理解・ご協力を頂けるよう良好な関係の維持・構築を目指していきます。

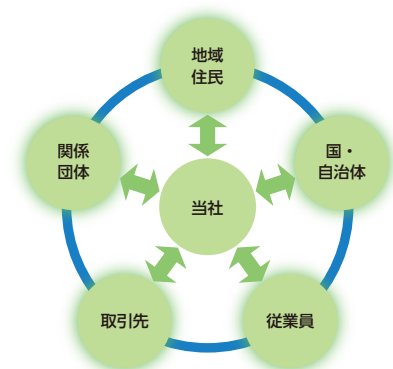
以下、当社取組の一例を紹介します。

## ■ エンゲージメントの実施 (当社ご関係者の皆様と良好な関係の維持構築)

| ■地域住民の皆様                                                                                                                                                                                                                         | ■関係団体の皆様                                                                                                                                                                   | ■国・地方自治体の皆様                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ご期待・ご要望                                                                                                                                                                                                                          | ご期待・ご要望                                                                                                                                                                    | ご期待・ご要望                                                                                                                                                                                                                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の安全、安心な暮らし</li> <li>●事業内容の透明性</li> </ul>                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>●パートナーシップの構築</li> <li>●技術協力、コーディネート</li> </ul>                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●安全確実な事業運営</li> <li>●関連法令規制等の遵守</li> </ul>                                                                                                                                                   |
| <p>当社の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●情報公開<br/>各施設の情報公開ルーム・センターなど、ホームページ、X投稿、事業だより、知のネットワークニュースレター、本報告書等による操業状況、モニタリング結果、活動情報</li> <li>●国・地方自治体と連携した住民報告会</li> <li>●監視委員会等での事業状況の報告</li> <li>●地域行事への参加</li> </ul> | <p>当社の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●環境省地方環境局の主催する自治体担当者研修会への協力</li> <li>●技術情報等の提供<br/>情報システムを用いた情報提供<br/>PCB処理に関する国際協力</li> <li>●関係団体間のコーディネート</li> </ul> | <p>当社の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●定期の事業報告</li> <li>●行政が開催する住民報告会への参加</li> <li>●総合防災訓練実施</li> <li>●行政主催委員会等への参加</li> <li>●立入検査協力</li> <li>●各種支援の実施</li> <li>●省エネルギー・地球温暖化対策<br/>(CO<sub>2</sub>排出量削減等)</li> </ul> |
|  <p>地域行事への参加</p>                                                                                                                              |  <p>仮置場設定の技術的助言 (石川県穴水町)</p>                                                           |  <p>行政立入検査</p>                                                                                                                                 |

| ■取引先の皆様                                                                                                                                                                    | ■従業員                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ご期待・ご要望                                                                                                                                                                    | 期待・要望                                                                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●入札状況及び調達基準</li> <li>●環境保全等の手順</li> </ul>                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人材育成</li> <li>●働きやすい職場づくり</li> </ul>                                                                                                                                          |
| <p>当社の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●調達方針・入札状況のホームページでの開示</li> <li>●バリューチェーンにおける環境負荷低減の協力要請</li> <li>●工事における安全大会・教育の実施</li> <li>●作業従事者への安全衛生の配慮</li> </ul> | <p>当社の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●労使協定の締結</li> <li>●多様な人材の雇用と教育</li> <li>●健康衛生相談窓口の設置</li> <li>●衛生委員会等による労働時間の適正な管理</li> <li>●年次有給休暇取得推進</li> <li>●労働安全衛生管理、衛生委員会による職場環境パトロール、安全衛生大会等実施</li> </ul> |
|  <p>定期点検安全大会による注意喚起 (安全衛生)</p>                                                          |  <p>産業医による健康相談</p>                                                                                                                |

## ■ステークホルダーと当社の関係イメージ



# 2025 年度実績データ集

2025年度における当社の事業活動にかかる実績データは以下のとおりです。

比較対象のために過去5年の実績を掲載している項目があります。また、PCB廃棄物処理事業の完了を受け、操業当初からの各PCB処理事業所の年度別PCB廃棄物の処理実績及びPCB無害化量を掲載しました。

## PCB廃棄物処理事業に係る処理実績

### ■ 各PCB処理事業の年度別処理実績(トランス類、コンデンサ類、PCB油類、安定器等・汚染物、PCB無害化量)

| 事業  | 廃棄物の種類   | 単位 | 年度   |       |       |       |        |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |       |       | 合計       | (内試験等)  |
|-----|----------|----|------|-------|-------|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|-------|----------|---------|
|     |          |    | 2004 | 2005  | 2006  | 2007  | 2008   | 2009    | 2010    | 2011    | 2012    | 2013    | 2014    | 2015    | 2016    | 2017    | 2018    | 2019    | 2020    | 2021    | 2022    | 2023    | 2024  | 2025  |          |         |
| 北九州 | トランス類    | 台  | 50   | 238   | 241   | 214   | 178    | 250     | 303     | 339     | 312     | 279     | 146     | 62      | 84      | 112     | 15      | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     | 2,823    | (22)    |
|     | コンデンサ類   | 台  | 200  | 755   | 1,010 | 1,595 | 1,383  | 4,093   | 6,769   | 8,196   | 7,887   | 7,750   | 5,698   | 3,077   | 3,612   | 4,799   | 2,579   | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     | 59,403   | (453)   |
|     | PCB油類    | 本  | 13   | 63    | 38    | 22    | 40     | 75      | 116     | 248     | 425     | 582     | 706     | 228     | 188     | 310     | 471     | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     | 3,525    | (46)    |
|     | 安定器等・汚染物 | t  |      |       |       |       |        | 31.2    | 144.3   | 301.6   | 497.7   | 613.2   | 729.6   | 517.7   | 803.4   | 788.0   | 899.0   | 1,077.2 | 1,417.7 | 1,420.2 | 783.8   | 271.1   | 0.0   | 0.0   | 10,295.6 | (39)    |
|     | PCB無害化量  | t  | 9.3  | 55.8  | 67.7  | 78.6  | 67.6   | 151.0   | 249.3   | 293.6   | 292.3   | 297.7   | 228.8   | 140.3   | 156.1   | 178.6   | 67.5    | 46.8    | 28.3    | 16.4    | 5.9     | 0.0     | 0.0   | 0.0   | 2,431.6  | (5)     |
| 豊田  | トランス類    | 台  |      | 49    | 77    | 191   | 304    | 286     | 187     | 142     | 220     | 201     | 148     | 104     | 102     | 96      | 108     | 150     | 88      | 31      | 8       | 1       | 0     | 0     | 2,493    | (14)    |
|     | コンデンサ類   | 台  |      | 1,185 | 1,605 | 2,289 | 3,836  | 4,753   | 3,770   | 3,910   | 5,126   | 5,971   | 5,873   | 6,184   | 7,320   | 8,404   | 6,945   | 5,823   | 2,721   | 2,092   | 989     | 340     | 0     | 0     | 79,136   | (588)   |
|     | PCB油類    | 本  |      | 33    | 1     | 15    | 30     | 49      | 66      | 38      | 81      | 146     | 219     | 408     | 489     | 549     | 755     | 903     | 734     | 693     | 268     | 81      | 0     | 0     | 5,558    | (33)    |
|     | PCB無害化量  | t  |      | 31.5  | 63.7  | 115.8 | 186.5  | 199.4   | 159.9   | 144.1   | 217.9   | 207.5   | 214.3   | 190.6   | 165.5   | 171.2   | 112.7   | 96.1    | 83.5    | 53.2    | 21.4    | 7.4     | 2.6   | 0.0   | 2,444.9  | (5)     |
| 東京  | トランス類    | 台  |      | 122   | 0     | 86    | 238    | 268     | 357     | 415     | 450     | 512     | 328     | 295     | 262     | 147     | 149     | 67      | 25      | 76      | 2       | 0       | 4     | 2     | 3,805    | (31)    |
|     | コンデンサ類   | 台  |      | 573   | 46    | 687   | 2,256  | 3,395   | 4,823   | 4,820   | 5,902   | 6,331   | 6,722   | 6,902   | 6,675   | 6,797   | 7,851   | 6,794   | 5,319   | 7,189   | 2,043   | 273     | 232   | 94    | 85,724   | (579)   |
|     | PCB油類    | 本  |      | 75    | 0     | 69    | 233    | 447     | 383     | 621     | 700     | 499     | 359     | 277     | 598     | 785     | 1,782   | 1,489   | 1,386   | 2,021   | 394     | 99      | 31    | 13    | 12,261   | (22)    |
|     | PCB無害化量  | t  |      | 30.7  | 26.0  | 52.4  | 157.8  | 272.9   | 330.7   | 342.9   | 426.4   | 420.3   | 412.8   | 420.0   | 402.7   | 425.7   | 349.1   | 169.8   | 151.6   | 220.5   | 63.6    | 26.3    | 12.0  | 5.0   | 4,719.1  | (2)     |
| 大阪  | トランス類    | 台  |      |       | 76    | 290   | 289    | 404     | 376     | 297     | 199     | 279     | 125     | 97      | 92      | 80      | 93      | 38      | 44      | 17      | 3       | 0       | 0     | 0     | 2,799    | (20)    |
|     | コンデンサ類   | 台  |      |       | 1,883 | 4,875 | 5,136  | 5,692   | 6,557   | 6,152   | 7,873   | 8,636   | 7,091   | 5,516   | 5,001   | 4,789   | 3,517   | 3,982   | 4,739   | 3,200   | 387     | 314     | 0     | 0     | 85,340   | (383)   |
|     | PCB油類    | 本  |      |       | 52    | 53    | 87     | 85      | 84      | 197     | 259     | 293     | 119     | 121     | 326     | 388     | 409     | 499     | 618     | 396     | 368     | 199     | 0     | 0     | 4,553    | (32)    |
|     | PCB無害化量  | t  |      |       | 33.9  | 165.7 | 181.9  | 236.5   | 205.3   | 272.8   | 293.3   | 278.0   | 195.9   | 173.3   | 149.5   | 133.7   | 100.3   | 75.7    | 79.8    | 67.9    | 45.6    | 25.0    | 0.5   | 0.0   | 2,714.5  | (14)    |
| 北海道 | トランス類    | 台  |      |       |       | 19    | 138    | 350     | 632     | 681     | 688     | 395     | 185     | 178     | 189     | 219     | 149     | 94      | 63      | 108     | 32      | 9       | 1     | 13    | 4,143    | (19)    |
|     | コンデンサ類   | 台  |      |       |       | 224   | 1,822  | 4,803   | 6,630   | 6,539   | 7,151   | 7,748   | 7,535   | 5,690   | 3,761   | 4,053   | 2,783   | 2,573   | 2,016   | 2,861   | 2,818   | 784     | 126   | 722   | 70,639   | (224)   |
|     | PCB油類    | 本  |      |       |       | 47    | 23     | 2       | 34      | 17      | 68      | 177     | 23      | 135     | 406     | 581     | 523     | 407     | 334     | 373     | 209     | 29      | 1     | 123   | 3,512    | (47)    |
|     | 安定器等・汚染物 | t  |      |       |       |       |        |         |         |         |         | 352.5   | 642.0   | 811.3   | 1,006.2 | 1,021.3 | 974.7   | 1,061.2 | 1,176.6 | 1,273.3 | 1,343.2 | 821.0   | 450.9 | 223.0 | 11,157.1 | (52)    |
|     | PCB無害化量  | t  |      |       |       | 11.6  | 65.0   | 194.9   | 261.8   | 294.5   | 350.3   | 353.2   | 285.2   | 235.6   | 191.0   | 186.6   | 160.8   | 91.6    | 61.8    | 71.3    | 58.9    | 12.4    | 6.2   | 11.8  | 2,904.5  | (12)    |
| 合計  | トランス類    | 台  | 50   | 409   | 394   | 800   | 1,147  | 1,558   | 1,855   | 1,874   | 1,869   | 1,666   | 932     | 736     | 729     | 654     | 514     | 349     | 220     | 232     | 45      | 10      | 5     | 15    | 16,063   | (106)   |
|     | コンデンサ類   | 台  | 200  | 2,513 | 4,544 | 9,670 | 14,433 | 22,736  | 28,549  | 29,617  | 33,939  | 36,436  | 32,919  | 27,369  | 26,369  | 28,842  | 23,675  | 19,172  | 14,795  | 15,342  | 6,237   | 1,711   | 358   | 816   | 380,242  | (2,227) |
|     | PCB油類    | 本  | 13   | 171   | 91    | 206   | 413    | 658     | 683     | 1,121   | 1,533   | 1,697   | 1,426   | 1,169   | 2,007   | 2,613   | 3,940   | 3,298   | 3,072   | 3,483   | 1,239   | 408     | 32    | 136   | 29,409   | (180)   |
|     | 安定器等・汚染物 | t  |      |       |       |       |        | 31.2    | 144.3   | 301.6   | 497.7   | 965.7   | 1,371.6 | 1,328.9 | 1,809.6 | 1,809.2 | 1,873.7 | 2,138.5 | 2,594.2 | 2,693.4 | 2,127.1 | 1,092.1 | 450.9 | 223.0 | 21,452.7 | (91)    |
|     | PCB無害化量  | t  | 9.3  | 117.9 | 191.3 | 424.0 | 658.8  | 1,054.6 | 1,207.0 | 1,347.9 | 1,580.2 | 1,556.7 | 1,337.0 | 1,159.8 | 1,064.9 | 1,095.7 | 790.4   | 480.0   | 405.0   | 429.4   | 195.4   | 71.1    | 21.3  | 16.7  | 15,214.6 | (38)    |

※処理実績は中間処理完了時点のものです。

※四捨五入により合計値が合わない場合があります。

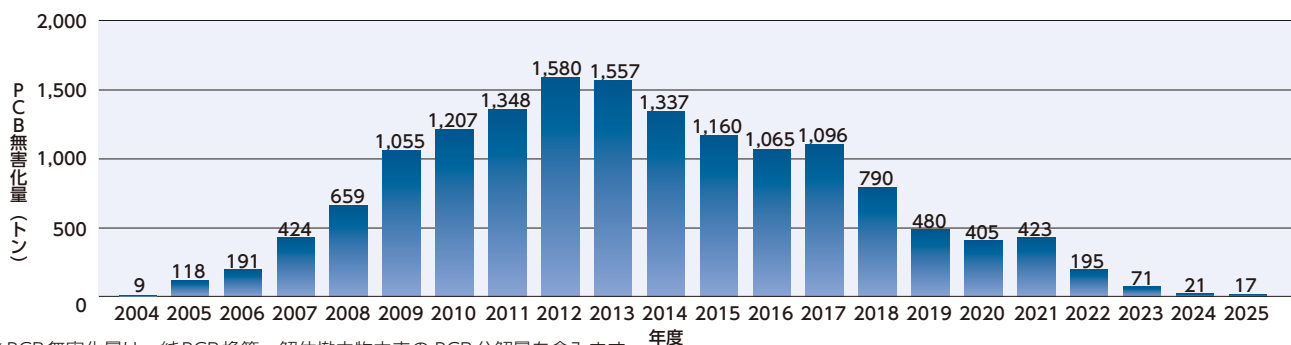
※各事業の処理実績には、()に示した試験時に処理したものと及び試験用に自社廃棄物として処理した量を含みます。

※PCB油類には、PCBを含む油とPCBに汚染された保管容器を含みます。

※連結コンデンサなどは、分割する前のものを1台としています。

※PCB無害化量は、純PCB換算。解体撤去物由来のPCB分解量を含みます。

### ■ 全PCB処理事業の合計年度別PCB無害化量の推移



※PCB無害化量は、純PCB換算。解体撤去物由来のPCB分解量を含みます。

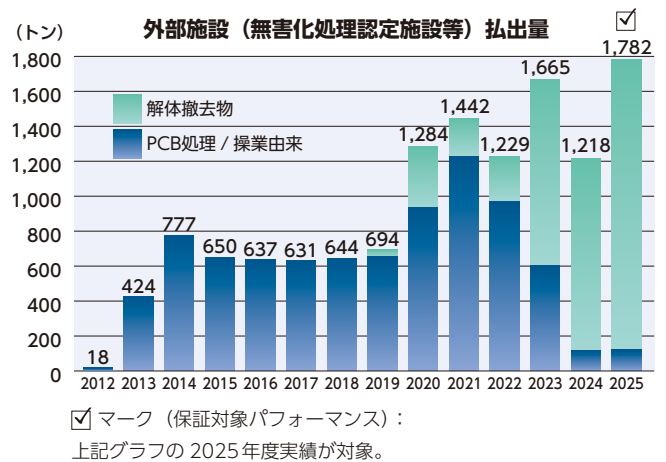
## 低濃度PCB廃棄物の処理

当社では、処理施設の排気処理に使用した活性炭、作業で使ったウエスや保護具等が廃棄物として発生します。これらを運転廃棄物といい、その一部は、自社で処理しています。

さらに、当社での高濃度PCB廃棄物の処理を促進する観点から、当社の処理で発生した残渣物のうち、一定以下のPCB濃度であることが確認できた部材（紙、木等）や、PCB濃度が低い運転廃棄物については、2012年度から外部の無害化処理認定施設等に委託して焼却処理等を行っています。

2025年度は、そのような部材及び運転廃棄物122トンと、解体撤去工事※による廃棄物1,660トンの処理を委託しました。傾向としては、2026年3月末に東日本のPCB処理事業所（東京、北海道）の操業も終了し、全PCB処理事業所の解体撤去が本格化したことに伴い、解体撤去由来の払出が増えていきます。

※PCB廃棄物処理施設の解体撤去の進捗概況（14～18ページ参照）



## 各施設の見学者数

### PCB処理事業所

(単位：名)

| 事業所名        | 2021年度※ | 2022年度※ | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|-------------|---------|---------|--------|--------|--------|
| 北九州PCB処理事業所 | 145     | 228     | 272    | 55     | 26     |
| 豊田PCB処理事業所  | 7       | 28      | 37     | 16     | 15     |
| 東京PCB処理事業所  | 13      | 142     | 120    | 108    | 165    |
| 大阪PCB処理事業所  | 52      | 59      | 14     | 18     | 56     |
| 北海道PCB処理事業所 | 354     | 868     | 1,057  | 783    | 783    |
| 合計          | 571     | 1,325   | 1,500  | 980    | 1,045  |

※2020～2022年度は新型コロナウイルス感染症対策として、一部見学受入を中止しました。

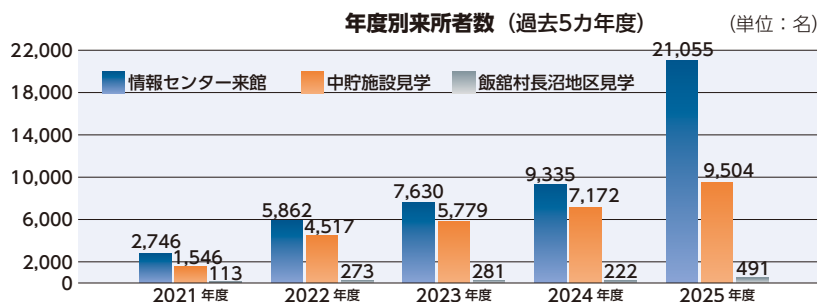
### 中間貯蔵事業情報センター等

(単位：名)

| 見学施設等          | 2021年度※1 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|----------------|----------|--------|--------|--------|--------|
| 中間貯蔵工事情報センター※2 | 2,746    | 5,862  | 7,630  | 8,153  | —      |
| 中間貯蔵事業情報センター※2 | —        | —      | —      | 1,182  | 21,055 |
| 中間貯蔵施設区域       | 1,546    | 4,517  | 5,779  | 7,172  | 9,504  |
| 長泥地区再生事業       | 113      | 273    | 281    | 222    | 491    |

※1 2020～2022年度は新型コロナウイルス感染症対策として、一部見学受入を中止しました。

※2 2025.3.15中間貯蔵事業情報センター開館に合わせ、中間貯蔵工事情報センターは2025.3.14閉館しました。（37ページ参照）



## PCB廃棄物処理事業 運転会社の役員及び従業員数

(2026年3月末 単位：名)

| 北九州 | 豊田 | 東京 | 大阪 | 北海道 | 合計  |
|-----|----|----|----|-----|-----|
| 55  | 58 | 75 | 71 | 125 | 384 |

# PCB 廃棄物処理事業サイトデータ

☑ マーク（保証対象パフォーマンス）：本ページ掲載の2025年度実績が対象。（グレー塗りつぶし箇所）

## 環境安全事故災害発生件数

| 種別                           | 単位 | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計   |      |      |
|------------------------------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                              |    | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 重大環境汚染事故災害発生件数 <sup>※1</sup> | 件  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    |
| 休業労働災害発生件数 <sup>※2</sup>     | 件  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    |

※1 重大環境汚染事故：PCB及びダイオキシン類の施設外排出事故  
※2 労働安全衛生法に基づく休業労働災害（業務災害）発生件数

## PCB 廃棄物の処理実績

### トランス類及びコンデンサ類の受入台数<sup>※3</sup> ☑

| 種別      | 単位 | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計   |      |      |
|---------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|         |    | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 |
| トランス類   | 台  | 0    | -    | -    | 1    | -    | -    | 0    | 2    | 2    | 0    | -    | -    | 5    | 0    | 13   | 6    | 2    | 15   |
| コンデンサ類  | 台  | 0    | -    | -    | 72   | -    | -    | 228  | 230  | 94   | 291  | -    | -    | 349  | 138  | 698  | 940  | 368  | 792  |
| その他電気機器 | 台  | 0    | -    | -    | 5    | -    | -    | 38   | 2    | 0    | 4    | -    | -    | 16   | 1    | 0    | 63   | 3    | 0    |

※3 2024年3月末、西日本（北九州、豊田及び大阪）、2026年3月末、東日本（東京、北海道）の処理対象区域におけるPCB廃棄物処理終了（6ページ）

### PCB 廃棄物受入量<sup>※4</sup> ☑

| 種別                    | 単位                   | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計    |      |      |
|-----------------------|----------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
|                       |                      | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023  | 2024 | 2025 |
| トランス類 <sup>※5</sup>   | トン                   | 0    | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 1    | 3    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 1    | 0     | 1    | 5    |
| コンデンサ類 <sup>※6</sup>  | トン                   | 0    | -    | -    | 3    | -    | -    | 7    | 10   | 3    | 9    | -    | -    | 9    | 3    | 16   | 27    | 13   | 19   |
| その他電気機器 <sup>※7</sup> | トン                   | 0    | -    | -    | 0    | -    | -    | 1    | 1    | 0    | 0    | -    | -    | 1    | 0    | 0    | 2     | 1    | 0    |
| PCB油類 <sup>※8</sup>   | トン                   | 0    | -    | -    | 0    | -    | -    | 5    | 0    | 0    | 16   | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 21    | 0    | 0    |
| 保管容器類                 | トン                   | 0    | -    | -    | 0    | -    | -    | 9    | 1    | 0    | 0    | -    | -    | 1    | 0    | 4    | 10    | 1    | 4    |
| 安定器等・汚染物              | 安定器等 <sup>※9</sup>   | トン   | 202  | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | -    | -    | 679  | 416  | 150  | 881   | 416  | 150  |
|                       | その他機器 <sup>※10</sup> | トン   | 11   | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | -    | -    | 39   | 18   | 4    | 50    | 18   | 4    |
|                       | その他 <sup>※11</sup>   | トン   | 26   | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | -    | -    | 79   | 11   | 4    | 105   | 11   | 4    |
| 合計                    | トン                   | 239  | -    | -    | 3    | -    | -    | 21   | 13   | 6    | 26   | -    | -    | 808  | 447  | 179  | 1,097 | 460  | 185  |

※4 2024年3月末、西日本（北九州、豊田及び大阪）、2026年3月末、東日本（東京、北海道）の処理対象区域におけるPCB廃棄物処理終了（6ページ）

※5 トランス類：高圧トランス、低圧トランス、継電器用トランス等

※6 コンデンサ類：高圧コンデンサ、低圧コンデンサ、照明用コンデンサ等

※7 その他電気機器：リアクトル、放電コイル、サージアブソーバー、計器用変成器、遮断機、整流器、ブッシング等

※8 PCB油類：廃PCB及びPCBを含む廃油

※9 安定器等：PCBを使用した安定器、ネオントランス等

※10 その他機器：PCBを使用した3kg未満の小型電気機器等

※11 その他：PCBに汚染された繊維、固体、液体、廃活性炭、感圧複写紙、ミカフィルブッシング等

### PCB 廃棄物の処理実績<sup>※12</sup> ☑

| 種別                             | 単位      | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計    |      |      |    |
|--------------------------------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|----|
|                                |         | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023  | 2024 | 2025 |    |
| トランス類                          | 台       | 0    | -    | -    | 1    | -    | -    | 0    | 4    | 2    | 0    | -    | -    | 9    | 1    | 13   | 10    | 5    | 15   |    |
| コンデンサ類                         | 台       | 0    | -    | -    | 340  | -    | -    | 273  | 232  | 94   | 314  | -    | -    | 784  | 126  | 722  | 1,711 | 358  | 816  |    |
| 安定器等・汚染物                       | トン      | 271  | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 0    | -    | -    | 821  | 451  | 223  | 1,092 | 451  | 223  |    |
| PCB類油(200ℓドラム缶) <sup>※13</sup> | 本       | 0    | -    | -    | 81   | -    | -    | 99   | 31   | 13   | 199  | -    | -    | 29   | 1    | 123  | 408   | 32   | 136  |    |
| PCB無害化量<br>(純PCB換算)            | 操業由来    | トン   | 0    | -    | -    | 7    | -    | -    | 26   | 12   | 5    | 25   | -    | -    | 12   | 6    | 12    | 71   | 18   | 17 |
|                                | 解体撤去物由来 | トン   | -    | -    | -    | -    | 3    | -    | -    | -    | 0    | -    | 1    | -    | -    | 0    | -     | 3    | 0    |    |

※12 2024年3月末、西日本（北九州、豊田及び大阪）、2026年3月末、東日本（東京、北海道）の処理対象区域におけるPCB廃棄物処理終了（6ページ）

※13 廃PCB及びPCBを含む油、保管容器

## インプット

### エネルギー投入量 ☑

| 種別   |                      | 単位  | 北九州    |       |       | 豊田    |       |       | 東京    |       |       | 大阪    |       |       | 北海道    |        |        | 合計     |        |        |
|------|----------------------|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|      |                      |     | 2023   | 2024  | 2025  | 2023  | 2024  | 2025  | 2023  | 2024  | 2025  | 2023  | 2024  | 2025  | 2023   | 2024   | 2025   | 2023   | 2024   | 2025   |
| 総合計  | 原油換算量 <sup>※14</sup> | kℓ  | 12,241 | 6,226 | 5,237 | 8,133 | 5,938 | 4,606 | 8,420 | 7,217 | 6,881 | 6,972 | 5,789 | 4,297 | 22,324 | 19,065 | 17,565 | 58,090 | 44,236 | 38,587 |
|      | 熱量換算量                | 千GJ | 474    | 241   | 203   | 315   | 230   | 179   | 326   | 280   | 267   | 270   | 224   | 167   | 865    | 739    | 681    | 2,252  | 1,715  | 1,496  |
| 電力   | 万kWh                 |     | 4,522  | 2,792 | 2,347 | 2,063 | 1,875 | 1,609 | 3,358 | 3,231 | 3,082 | 2,362 | 2,221 | 1,817 | 6,367  | 5,898  | 5,155  | 18,671 | 16,018 | 14,011 |
| A重油  | kℓ                   | 938 | 3      | 6     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 6,266  | 5,894  | 6,051  | 7,204  | 5,897  | 6,056  |
| 都市ガス | 万㎡                   | 0   | 0      | 0     | 268   | 151   | 87    | 0     | 0     | 0     | 96    | 72    | 21    | 0     | 0      | 0      | 363    | 223    | 108    |        |

※14 各エネルギーの原油換算量については、国が公表した又は購入先が公表・通知した値を使って算出しています。

### 水資源投入量 ☑

| 種別   | 単位 | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計   |      |      |
|------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|      |    | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 上水   | 千㎡ | 12   | 10   | 9    | 2    | 1    | 1    | 53   | 49   | 52   | 5    | 6    | 5    | 4    | 14   | 13   | 76   | 80   | 81   |
| 工業用水 | 千㎡ | 27   | 8    | 4    | 51   | 38   | 29   | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 222  | 230  | 198  | 299  | 276  | 231  |
| 合計   | 千㎡ | 38   | 17   | 14   | 53   | 39   | 30   | 53   | 49   | 52   | 5    | 6    | 5    | 226  | 244  | 211  | 375  | 355  | 312  |

（注）対象年度データを算定するに当たり過去年度データ精査を行い、一部修正しました。また、本サイトデータは整数値で表示したことにより、各PCB処理事業所の値を足し合わせた値が合計値と一致しない場合があります。

☑ マーク（保証対象パフォーマンス）：本ページ掲載の2025年度実績が対象。（グレー塗りつぶし箇所）

#### 処理剤投入量

☑

| 種別                  | 単位 | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京    |       |       | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計    |       |       |
|---------------------|----|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|
|                     |    | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023  | 2024  | 2025  | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023  | 2024  | 2025  |
| 絶縁油類 <sup>※15</sup> | トン | 18   | 0    | 0    | 24   | 36   | 21   | 71    | 125   | 136   | 175  | 72   | 10   | 0    | 0    | 0    | 288   | 233   | 166   |
| 脱塩素剤                | トン | 0    | 0    | 0    | 16   | 0    | 0    | 0     | 0     | 0     | 0    | 0    | 0    | 58   | 28   | 35   | 75    | 28    | 35    |
| 液体酸素                | トン | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 1,303 | 1,213 | 1,317 | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 1,303 | 1,213 | 1,317 |
| 25%苛性ソーダ            | トン | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 729   | 608   | 638   | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 729   | 608   | 638   |
| 塩基度調整剤              | トン | 327  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0     | 0     | 0     | 0    | 0    | 0    | 790  | 511  | 209  | 1,116 | 511   | 209   |
| その他 <sup>※16</sup>  | トン | 0    | 0    | 0    | 16   | 111  | 44   | 29    | 20    | 20    | 4    | 1    | 0    | 63   | 45   | 69   | 112   | 178   | 133   |
| 合計                  | トン | 345  | 0    | 0    | 56   | 147  | 65   | 2,132 | 1,967 | 2,111 | 179  | 73   | 10   | 911  | 585  | 313  | 3,623 | 2,772 | 2,499 |

※15 絶縁油類：絶縁油、鉱物油、流動パラフィン、シャワー油

※16 その他：洗浄剤、DMI、パラジウムカーボン触媒、イソプロピルアルコール

#### アウトプット

##### 有価物払出量

☑

| 種別    |        | 単位 | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計   |      |      |
|-------|--------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|       |        |    | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 金属類   | 銅      | トン | 1    | -    | -    | 0    | -    | -    | 1    | 2    | 0    | 0    | -    | -    | 2    | 0    | 0    | 4    | 2    | 0    |
|       | 鉄      | トン | 40   | -    | -    | 71   | -    | -    | 32   | 33   | 11   | 20   | -    | -    | 24   | 22   | 14   | 187  | 55   | 25   |
|       | アルミ等   | トン | 40   | -    | -    | 15   | -    | -    | 24   | 25   | 16   | 9    | -    | -    | 3    | 6    | 9    | 91   | 30   | 24   |
|       | 合計     | トン | 81   | -    | -    | 86   | -    | -    | 57   | 59   | 27   | 28   | -    | -    | 29   | 28   | 23   | 282  | 87   | 50   |
| 処理済油等 | 処理済油   | トン | 10   | -    | -    | 104  | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 0    | -    | -    | 385  | 311  | 384  | 499  | 311  | 384  |
|       | 劣化溶媒   | トン | 0    | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 124  | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 124  | 0    | 0    |
|       | 合計     | トン | 10   | -    | -    | 104  | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 124  | -    | -    | 385  | 311  | 384  | 623  | 311  | 384  |
| その他   | 礫子・活性炭 | トン | 0    | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 0    | -    | -    | 1    | 1    | 2    | 1    | 1    | 2    |
| 解体撤去物 |        | トン | 61   | 223  | 228  | 0    | 115  | 34   | 6    | 42   | 102  | 0    | 181  | 339  | 0    | 23   | 18   | 67   | 584  | 720  |
| 合計    |        | トン | 152  | 223  | 228  | 190  | 115  | 34   | 63   | 101  | 129  | 152  | 181  | 339  | 415  | 363  | 427  | 973  | 982  | 1156 |

##### 産業廃棄物払出量

☑

| 種別                     | 単位 | 北九州   |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道   |       |       | 合計    |       |       |
|------------------------|----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                        |    | 2023  | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023  | 2024  | 2025  | 2023  | 2024  | 2025  |
| 処理済残渣                  | トン | 0     | -    | -    | 42   | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | -    | 0     | 0     | 0     | 42    | 0     | 0     |
| 含浸物処理物                 | トン | 0     | -    | -    | 5    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 11   | 1    | -    | 14    | 8     | 4     | 30    | 8     | 4     |
| 廃TCB                   | トン | 7     | -    | -    | 1    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 0    | 4    | -    | 0     | 0     | 6     | 8     | 4     | 6     |
| 礫子類                    | トン | 1     | -    | -    | 2    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 1    | 0    | -    | 0     | 0     | 0     | 4     | 0     | 0     |
| 活性炭汚泥                  | トン | 0     | -    | -    | 2    | -    | -    | 14   | 20   | 21   | 15   | 4    | -    | 0     | 0     | 0     | 31    | 25    | 21    |
| ビフェニル                  | トン | 0     | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 21   | 0    | -    | 0     | 0     | 0     | 21    | 0     | 0     |
| 分析廃水・廃液                | トン | 3     | -    | -    | 150  | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 2    | 1    | -    | 33    | 28    | 5     | 188   | 28    | 5     |
| 廃アルカリ                  | トン | 0     | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 209  | 52   | -    | 521   | 385   | 472   | 731   | 436   | 472   |
| 塩酸                     | トン | 0     | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 228  | 31   | -    | 0     | 0     | 0     | 228   | 31    | 0     |
| 飛灰                     | トン | 265   | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | -    | 215   | 166   | 92    | 480   | 166   | 92    |
| スラグ                    | トン | 1,000 | -    | -    | 0    | -    | -    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | -    | 1,799 | 1,276 | 626   | 2,799 | 1,276 | 626   |
| 上記以外の産廃 <sup>※17</sup> | トン | 1     | -    | -    | 8    | -    | -    | 18   | 11   | 9    | 4    | 0    | -    | 0     | 0     | 0     | 32    | 11    | 9     |
| 解体撤去物                  | トン | 0     | 538  | 927  | 0    | 113  | 128  | 0    | 0    | 0    | 0    | 252  | 326  | 0     | 0     | 27    | 0     | 902   | 1,409 |
| 合計                     | トン | 1,277 | 538  | 927  | 210  | 113  | 128  | 32   | 31   | 30   | 492  | 397  | 326  | 2,583 | 1,861 | 1,232 | 4,593 | 2,888 | 2,644 |

※17 上記以外の産廃：処理済油、木酢液、ベークライト、低沸油、廃プラスチック類、SD廃棄物、蛍光灯・水銀灯、廃油

##### 産業廃棄物埋立処分量

☑

| 種別                        | 単位 | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計   |      |      |
|---------------------------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                           |    | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 産業廃棄物埋立処分量 <sup>※18</sup> | トン | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    |

※18 直接埋立処分を委託した産業廃棄物量

##### 二酸化炭素排出量

☑

| 種別                        | 単位                 | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計   |      |      |
|---------------------------|--------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                           |                    | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 |
| エネルギー起源のもの <sup>※19</sup> | トン-CO <sub>2</sub> | 4    | 0.01 | 0.02 | 7    | 3    | 2    | 1    | 0.04 | 0.03 | 3    | 2    | 0.45 | 72   | 68   | 57   | 87   | 73   | 59   |

※19 電気事業者のCO<sub>2</sub>排出係数については、北海道PCB処理事業所は電気購入先から提供された係数、それ以外のPCB処理事業所は国が公表する各年度の電気事業者ごとのCO<sub>2</sub>排出係数（基礎排出係数）を用いて算出しています。

##### 排水量

☑

| 種別  | 単位 | 北九州  |      |      | 豊田   |      |      | 東京   |      |      | 大阪   |      |      | 北海道  |      |      | 合計   |      |      |
|-----|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|     |    | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 排水量 | 千㎡ | 12   | 3    | 9    | 12   | 13   | 14   | 36   | 33   | 36   | 5    | 6    | 5    | 124  | 145  | 125  | 189  | 200  | 189  |

（注）対象年度データを算定するに当たり過去年度データ精査を行い、一部修正しました。また、本サイトデータは整数値で表示したことにより、各PCB処理事業所の値を足し合わせた値が合計値と一致しない場合があります。

# 環境パフォーマンス指標算定基準等

## ■ 環境パフォーマンス指標算定基準

- 対象期間2025年4月1日～2026年3月31日
- 対象範囲中間貯蔵・環境安全事業株式会社 国内8オフィス等（本社ビル、PCB処理事業及び中間貯蔵事業に係る各情報センター、オフィス等含む）、5PCB処理事業所、中間貯蔵施設区域（21ページ参照）における当社管理施設
- 算定基準「環境報告ガイドライン 2018年版」（環境省）を参考。具体的な算定方法は下表に記載します。
- 集計基準本報告書は、以下の主な関連法令及び社内基準による活動について集計しています。  
廃棄物処理法、温対法、省エネ法、PRTR法、環境物品等の調達に関する社内規定

| 目的        | 項目                             |                          | 算定手法                                                                                                            |
|-----------|--------------------------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地球温暖化防止関連 | エネルギー投入量                       | 熱量換算量 (千GJ)              | 各エネルギー投入量×各エネルギー投入量換算係数 (GJ/千kWh) の合計値＝熱量換算量 (千GJ)                                                              |
|           |                                | 原油換算量 (kℓ)               | 熱量換算量 (GJ) × 0.0258 (原油換算係数 [kℓ/GJ]) = エネルギー使用量原油換算量 (kℓ)                                                       |
|           | エネルギー使用 (消費) 原単位 (kℓ/㎡)        |                          | エネルギー使用量原油換算 (kℓ) / 延べ床面積 (㎡) = エネルギー使用原単位 (kℓ/㎡)                                                               |
|           | 二酸化炭素排出量 (トン・CO <sub>2</sub> ) |                          | 各エネルギー投入量×各エネルギー排出係数の合計値＝二酸化炭素排出量 (t-CO <sub>2</sub> )<br>(電気 の CO <sub>2</sub> 基礎排出係数及び調整後排出係数 <sup>※1</sup> ) |
| 資源循環型関連   | PCB廃棄物受入量 (トン) <sup>※2</sup>   |                          | 東京及び北海道PCB処理事業所に搬入された PCB廃棄物の受入量 (トランス類、コンデンサ類、その他電気機器、廃PCB油、保管容器、柱上トランス油、PCB汚染物等)                              |
|           | PCB廃棄物の処理実績 <sup>※2</sup>      | トランス類、コンデンサ類、PCB油類 (台、本) | 東京及び北海道PCB処理事業所における処理完了となった PCB廃棄物 (トランス類、コンデンサ類及びPCB油) 台数・本数の量                                                 |
|           |                                | PCB無害化量 (トン)             | 各PCB処理事業所における処理完了となった PCB廃棄物を純PCB量に換算し算出した量                                                                     |
|           | 水資源投入量 (千㎡)                    |                          | 各PCB処理事業所における上水道、工業用水の使用量                                                                                       |
|           | 処理剤投入量 (トン)                    |                          | 各PCB処理事業所における「PCB処理無害化の際、直接使用する薬剤」の新規投入量                                                                        |
|           | 有価物払出量 (トン)                    |                          | 各PCB処理事業所におけるPCB無害化処理後の有価物払出量 (銅、鉄、アルミ等、処理済油、劣化溶媒、碍子)                                                           |
|           | 産業廃棄物払出量 (トン)                  |                          | 各PCB処理事業所から排出した、産業廃棄物の量 (低濃度PCB廃棄物の外部払出量を除く)                                                                    |
|           | 産業廃棄物埋立処分量 (トン)                |                          | 各PCB処理事業所から排出した産業廃棄物のうち、直接埋立処分を委託した、産業廃棄物の量                                                                     |
| 水域排出関連    | 排水量 (千㎡)                       |                          | 各PCB処理事業所から公共用水域 (海域、河川)、又は下水道へ排出した排水の量                                                                         |
|           | PRTR法対象物質排出量等                  |                          | 改正PRTR法施行令 (2010年4月1日施行) に基づく、5PCB処理事業所における届出の物質数。なお、ノルマルヘキサンについては、当社共通の方法を用いて排出量と移動量を算出。あわせて取扱量を記載。            |
| 化学物質関連    | 重大環境汚染事故災害発生件数 <sup>※3</sup>   |                          | 各PCB処理事業所における、法基準値を超過する PCB及びダイオキシン類の施設外排出事故の年間発生件数                                                             |
|           | グリーン調達品目の調達結果                  |                          | グリーン購入法に基づき、社内に定める「環境物品等の調達の推進を図るための方針」により物品等購入 (特定・準特定調達物品等の調達量/総調達量＝達成率 (%))                                  |

※1 国が公表する「電気事業者別排出係数 (特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)」は基礎排出係数と調整後排出係数があります。53 ページ 二酸化炭素排出量は 5PCB処理事業所使用量を基礎排出係数を用いて算定、19 ページ、29 ページ、32 ページは国内8 オフィス等、5PCB処理事業所、中間貯蔵施設区域 (20 ページ参照) における当社管理施設のエネルギー使用量を調整後排出係数を用いて算定しています。

※2 2024年3月末をもって、西日本 (北九州、大阪及び豊田) 処理対象区域内の PCB処理終了。

※3 安全設計 (10 ページ参照) に基づく措置等や排気、排水の定期的な測定 (30～31 ページ参照) を通じて把握し、当社の環境安全管理システム (19 ページ参照) に基づき本社に報告されたもの。

## ■ 環境報告ガイドライン (2018年版) との対比表

| 環境報告ガイドライン 2018 (目次)   | 本報告書の該当箇所                                                                                                 | 頁                           |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 第1章 環境報告の基礎情報          |                                                                                                           |                             |
| 1. 環境報告の基本的要件          | 編集方針、環境パフォーマンス指標算定基準等、会社概要                                                                                | 1、54、56～57                  |
| 2. 主な実績評価指標の推移         | 2025年度トピックス、環境保全、地域とのコミュニケーション、情報公開、従業員にかかる活動、外部からの意見・評価、当社事業活動とSDGsとのつながり、ステークホルダーエンゲージメント、株主とのコミュニケーション | 22～25、32～33、47、50～51、52～53  |
| 第2章 環境報告の記載事項          |                                                                                                           |                             |
| 1. 経営責任者のコミットメント       | トップメッセージ                                                                                                  | 2～3                         |
| 2. ガバナンス               | 環境安全管理システムの推進体制、コーポレート・ガバナンス等                                                                             | 19、26、46                    |
| 3. ステークホルダーエンゲージメントの状況 | 2025年度トピックス、環境保全、地域とのコミュニケーション、情報公開、従業員にかかる活動、外部からの意見・評価、当社事業活動とSDGsとのつながり、ステークホルダーエンゲージメント、株主とのコミュニケーション | 4～5、28～41、44～45、47～49       |
| 4. リスクマネジメント           | 2025年度トピックス、環境安全方針、2025年度環境安全目標と達成状況、環境安全管理、有害化学物質等のモニタリング                                                | 4～5、19、26、30～31             |
| 5. ビジネスモデル             | 主な事業の成果と目標、トップメッセージ、PCB処理事業、中間貯蔵事業、会社概要                                                                   | 表表紙の裏面、2～3、6～19、20～27、56～57 |
| 6. バリューチェーンマネジメント      | 2025年度トピックス、当社と取引先との関係、循環型社会形成への取組                                                                        | 4～5、28～29                   |
| 7. 長期ビジョン              | 中長期経営計画                                                                                                   | 47                          |
| 8. 戦略                  | PCB処理事業、中間貯蔵事業、2025年度環境安全目標と達成状況、株主とのコミュニケーション、基本理念と行動指針                                                  | 6～19、20～27、47、48            |
| 9. 重要な環境課題の特定方法        | 環境安全管理、2025年度環境安全目標と達成状況                                                                                  | 19、26                       |
| 10. 事業者の重要な環境課題        | 環境安全管理、2025年度環境安全目標と達成状況、循環型社会形成への取組、環境パフォーマンス指標算定基準等、第三者保証報告書                                            | 19、26、28～29、54、55           |
| 参考資料                   |                                                                                                           |                             |
| 主な環境課題とその実績評価指標        |                                                                                                           |                             |
| 1. 気候変動                | 主な環境負荷、省エネルギー・地球温暖化対策、PCB廃棄物処理事業サイトデータ                                                                    | 29、32～33、52～53              |
| 2. 水資源                 | 主な環境負荷、PCB廃棄物処理事業サイトデータ                                                                                   | 29、52～53                    |
| 3. 生物多様性               | 生物の生息・生育環境の創出、地域の環境保全活動、地域の行事等への参加                                                                        | 33、34、35                    |
| 4. 資源循環                | 循環型社会形成への取組、PCB廃棄物処理事業サイトデータ                                                                              | 28～29、52～53                 |
| 5. 化学物質                | PRTR法に基づく届出、有害化学物質等のモニタリング、2025年度実績データ集、PCB廃棄物処理事業サイトデータ                                                  | 29、30～31、50～51、52～53        |
| 6. 汚染予防                | PRTR法に基づく届出、有害化学物質等のモニタリング                                                                                | 29、30～31                    |

# 第三者保証報告書

## ■ 第三者保証報告書

本報告書は開示情報の信頼性を高めるため、日本検査キューエイ株式会社による第三者審査を実施しています。  
その内容等は保証報告書に記載のとおりです。



### 独立した第三者保証報告書

2026年9月10日

中間貯蔵・環境安全事業株式会社  
代表取締役社長  
鎌形 浩史 殿

日本検査キューエイ株式会社  
東京都中央区入船二丁目1番1号  
代表取締役社長 児島 明彦

当社は、中間貯蔵・環境安全事業株式会社(以下「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成した「JESCO REPORT 2026」(以下「レポート」という。)に記載されている2025年4月1日から2026年3月31日までを対象とする会社の環境パフォーマンス情報について限定的保証業務を実施した。保証の対象とし、手続きを実施した情報については、レポートの該当箇所にマーク (L) を付した。

#### 1. 会社の責任

会社は、「環境報告ガイドライン2018年版」(環境省)を参考に会社が採用した算定及び報告の規準と手続き(以下「会社の定める規準」という)に準拠して環境パフォーマンス情報を作成する責任を負う。国際保証業務基準 (ISAE) 第3410号「温室効果ガス報告に対する保証業務」に示されているように、会社のGHG排出量の算定には、完全なる排除が難しい不確かさを伴う。

#### 2. 当社の独立性と品質管理

当社は、ISO 17029:2019「適合性評価—妥当性確認機関及び検証機関に対する一般原則及び要求事項」に従い、品質管理を確保するためのマネジメントシステムを確立している。本保証業務の実施にあたっては、ISO 17029:2019及び「倫理規程」(2009年12月一般社団法人サステナビリティ情報審査協会)が求める独立性をはじめとする基本原則を遵守した。

#### 3. 当社の責任

当社の責任は、当社が実施した手続き及び入手した証拠に基づいて、対象情報に対する限定的保証の結論を表明することにある。当社は、「サステナビリティ情報審査実務指針」(2014年12月一般社団法人サステナビリティ情報審査協会)及び国際保証業務基準 (ISAE) 第3000号(以下「ISAE 3000」という)「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」に準拠して、限定的保証業務を行った。

当社の保証業務は、本社及び事業所(1か所)における、従業員へのインタビュー、業務に関わるプロセスの観察、会社の定めた規準の評価、保証対象に係る情報の分析・検討、保証の基礎となる記録と元データとの照合及び確認などによって実施した。

保証業務に携わったチームは、必要な知識、経験、資格などにより選任した専門家や実務者から構成されており、ISO 14001認証、GHG排出量検証の主任審査員を含んでいる。

ISAE 3000で定義されているように、限定的保証業務で実施する手続き、実施時期及び範囲は、合理的保証業務で必要とされるものと比べて限られている。よって、限定的保証業務は有意であると判断する保証の水準を得るものであるものの、合理的保証業務ほど高い水準の保証を与えるものではない。

#### 4. 結論

当社が実施した手続き及び入手した証拠に基づき、レポートに記載されている環境パフォーマンス情報について、すべての重要な点で、会社の定める規準に準拠して作成されていないと当社に信じさせる事項は認められなかった。

以上

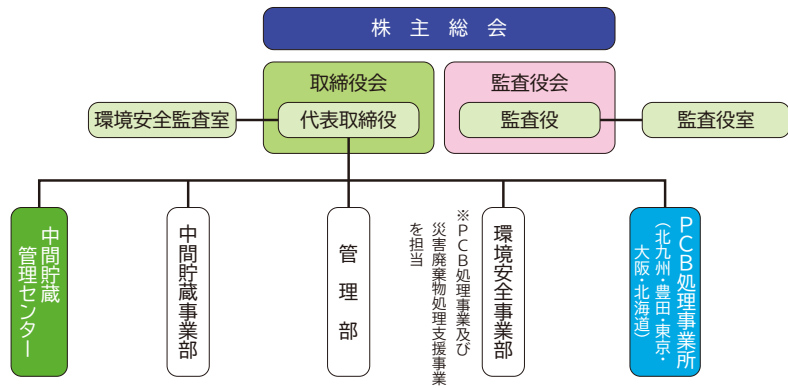
# 会社概要

## ■ 会社概要

2026年9月30日現在（資本金と役員及び従業員数を除く）

|                    |                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名 称<br>( 英 文 名 称 ) | 中間貯蔵・環境安全事業株式会社<br>(Japan Environmental Storage & Safety Corporation : JESCO)                                                                                                                                            |
| 設 立                | 2004年4月1日                                                                                                                                                                                                                |
| 資 本 金              | 55,307百万円（全額政府出資）（2026年3月31日現在）                                                                                                                                                                                          |
| 監 督 官 庁            | 環境省                                                                                                                                                                                                                      |
| 当 社 設 置 法          | 中間貯蔵・環境安全事業株式会社法（平成15年法律第44号）                                                                                                                                                                                            |
| 会 社 形 態            | 当社設置法に基づき、国の環境政策を行う、国の全額出資により設立された特殊会社                                                                                                                                                                                   |
| 目 的                | 中間貯蔵の確実かつ適正な実施の確保を図り、事故由来放射性物質による環境の汚染が人の健康又は生活環境に及ぼす影響を速やかに低減することに資するため、中間貯蔵に係る事業を行うとともに、ポリ塩化ビフェニルの確実かつ適正な処理及び非常災害廃棄物の適正な処理の円滑かつ迅速な実施その他環境の保全に資するため、ポリ塩化ビフェニル及び非常災害廃棄物の処理に係る事業並びに環境の保全に関する情報及び技術的知識の提供に係る事業を行うことを目的とする。 |
| 役 員 及 び<br>従 業 員 数 | 合計491名（2026年3月31日現在）<br>※当社の就業人数でシニア社員、契約社員の他、当社への出向者等を含んでいます。なお、派遣社員120名は含んでいません。                                                                                                                                       |

## ■ 組織図



## ■ 役員一覧

|              |                      |                                                                                                                                                |                                                 |
|--------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 代表取締役<br>社長  | 鎌形 浩史<br>(かまがた ひろし)  | 中間貯蔵事業統括担当<br>略歴 令和元年7月<br>令和5年6月                                                                                                              | 環境事務次官<br>当社代表取締役社長                             |
| 代表取締役<br>副社長 | 菊山 嘉晴<br>(きくやま よしはる) | 環境安全事業統括担当<br>略歴 平成29年4月<br>令和5年6月                                                                                                             | 東京ガス株式会社執行役員<br>株式会社キャプティ代表取締役社長<br>当社代表取締役副社長  |
| 取締役          | 山本 昌宏<br>(やまもと よしひろ) | 環境安全事業担当<br>略歴 令和2年7月<br>令和5年6月                                                                                                                | 環境省水・大気環境局長<br>当社取締役                            |
| 取締役          | 永野 直樹<br>(ながの なおき)   | 管理担当<br>略歴 平成31年4月<br>令和5年6月                                                                                                                   | 三井物産株式会社 理事監査役室長<br>当社取締役                       |
| 取締役          | 水取 周隆<br>(みずとり ひろたか) | 中間貯蔵事業実施担当<br>略歴 令和元年8月<br>令和8年6月                                                                                                              | 当社中間貯蔵管理センター所長<br>当社取締役                         |
| 監査役<br>(常勤)  | 永島 徹也<br>(ながしま てつや)  | 略歴 令和6年9月<br>令和8年6月                                                                                                                            | 環境省大臣官房付研究休職<br>(国立大学法人東北大学大学院法学研究科教授)<br>当社監査役 |
| 監査役<br>(非常勤) | 大塚 孝子<br>(おおつか たかこ)  | 令和3年6月就任<br>兼職 弁護士<br>大塚孝子法律事務所代表<br>キャピタル・サーヴィシング債権回収株式会社社外取締役<br>株式会社まちづくり中野21 監査役<br>社会福祉法人中野区福祉サービス事業団理事<br>学校法人法政大学監事<br>株式会社東京国際フォーラム監査役 |                                                 |
| 監査役<br>(非常勤) | 田中 葉子<br>(たなか ようこ)   | 令和3年7月就任<br>兼職 公認会計士・税理士<br>田中葉子公認会計士・税理士事務所所長                                                                                                 |                                                 |
| 監査役<br>(非常勤) | 大野 和子<br>(おおの かずこ)   | 令和8年6月就任<br>兼職 医師・医学博士<br>京都医療科学大学医療科学部教授<br>京都大学医学部非常勤講師<br>愛知医科大学医学部及び看護学部非常勤講師<br>原子力規制委員会放射線審議会委員                                          |                                                 |

## ■ 設立及び設置法

生体や環境への悪影響が懸念されるポリ塩化ビフェニル (Poly Chlorinated Biphenyl (以下、「PCB」という。)) は、1974年に製造や新たな使用が国内で禁止され、その後、PCBを含有する機器等は長期にわたり処分されず保管されていました。2001年6月に「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」(以下「PCB特別措置法」という。)が制定され、2003年4月には同法に基づく国の「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画」が策定され、PCB廃棄物の処理が本格的に進められることとなりました。

当社は、こうしたPCB廃棄物の適正処理を担う特殊会社として、旧環境事業団(特殊法人)の関連事業を承継し、2004年

4月1日、「日本環境安全事業株式会社法」(以下「当社設置法」という。)に基づき設立されました。

2014年には、当社設置法の改正・施行により、福島県内の除染に伴い発生した除去土壌等の中間貯蔵事業が当社の業務に追加され、商号を中間貯蔵・環境安全事業株式会社に変更しました。

さらに、2026年9月16日、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の一部を改正する法律による当社設置法の改正・施行により、近年多発する大規模災害において、自治体による災害廃棄物処理を専門的に支援する災害廃棄物処理支援事業を実施することとなりました。

|       |                                                                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1965年 | 公害防止事業団法制定、公害防止事業団設立(環境事業団の前身)                                                             |
| 1992年 | 公害防止事業団法改正(環境事業団への改組)                                                                      |
| 2001年 | PCB特別措置法制定<br>環境事業団法改正(PCB廃棄物処理事業が追加)<br>特殊法人等整理合理化計画の閣議決定(環境事業団の解散決定)                     |
| 2003年 | 日本環境安全事業株式会社法の公布・施行                                                                        |
| 2004年 | 環境事業団解散<br>日本環境安全事業株式会社設立(PCB廃棄物処理事業を承継)<br>※環境事業団解散に伴い、業務を日本環境安全事業株式会社及び独立行政法人環境再生保全機構に承継 |
| 2014年 | 日本環境安全事業株式会社法の一部を改正する法律の公布・施行<br>(中間貯蔵・環境安全事業株式会社法へ法律名変更、中間貯蔵事業が追加)<br>中間貯蔵・環境安全事業株式会社に改組  |
| 2026年 | 廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の一部を改正する法律の公布・施行による中間貯蔵・環境安全事業株式会社法の改正<br>(災害廃棄物処理支援事業が追加)                |

## ■ 所在地・主要事業拠点

### 所在地

#### 本社及び本社所管の事務所等

- 本社  
〒105-0014 東京都港区芝1-7-17 住友不動産芝ビル3号館4階  
☎ 03-5765-1911 (代表)
- ・ 環境安全事業部西日本事務所  
〒552-0007 大阪府大阪市港区弁天1-2-30  
オークブリオタワーオフィス7階702号  
☎ 06-6575-5585
- ・ 中間貯蔵事業部事業管理支援課福島事務室  
〒960-8041 福島県福島市大町7-3 福島センタービル2階  
☎ 0245-21-8100

#### PCB処理事業所

- 北九州PCB処理事業所  
〒808-0021 福岡県北九州市若松区響町1-6-24  
☎ 093-752-1113
- 豊田PCB処理事業所  
〒471-0853 愛知県豊田市細谷町3-1-1  
☎ 0565-25-3110
- 東京PCB処理事業所  
〒135-0066 東京都江東区海の森2-2-66  
☎ 03-3599-6023
- 大阪PCB処理事業所  
〒554-0041 大阪府大阪市此花区北港白津2-4-13  
☎ 06-6468-0575
- 北海道PCB処理事業所  
〒050-0087 北海道室蘭市仲町14-7  
☎ 0143-22-3111
- ・ PCB処理情報センター  
〒051-0001 北海道室蘭市御崎町1-9-8  
☎ 0143-23-7015



#### 中間貯蔵管理センター

- 中間貯蔵管理センター  
〒970-8026 福島県いわき市平字大町7-1  
平セントラルビル4階  
☎ 0246-23-8900
- ・ 榎葉オフィス  
〒979-0603 福島県双葉郡榎葉町大字井出字堂ノ前25-4  
竜田イーストビル3階  
☎ 0240-43-9010
- ・ 南相馬支所  
〒975-0003 福島県南相馬市原町区栄町三丁目176番地  
榎ビル2階  
☎ 0244-25-0051

#### 中間貯蔵事業情報センター

- 〒979-1308 福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116番  
CREVA おおくま(大熊町産業交流施設)1階  
☎ 0240-25-8377



## 中間貯蔵・環境安全事業株式会社

<https://www.jesconet.co.jp/>

管理部経営企画課広報室

TEL : 03-5765-1909

E-mail : [jesco@jesconet.co.jp](mailto:jesco@jesconet.co.jp)

「JESCO Report 2026」へのご意見をお寄せください！  
より良い内容とするため、皆様からのご意見をお待ちしています。  
以下のURLからも、ご意見をお寄せいただけます。

環境報告書 (JESCO Report) URL

<https://www.jesconet.co.jp/company/environment/envirorep.html>

